

調査報告書



---

## 息子夫婦同居・娘夫婦同居で異なる同居前不安と交流意識

～同居前不安による同居ブレーキの解消法と同居層・近居層の親子観にみる同居アクセラ～

---



旭化成ホームズ株式会社

くらしノベーション研究所



旭化成ホームズが二世帯住宅を業界で初めて商品化した1975年から、今年で40年が経過しました。

初期の二世帯住宅では、大家族同居の伝統が残る中で、いかに二世帯別々の暮らしを実現するかが大きなテーマでした。息子夫婦同居の子世帯妻、つまりお嫁さんがお姑さんに気遣いすることなく、独立して家事をできるようにするために、キッチンに分ける、という二世帯住宅の根幹を成すコンセプトが生まれたのです。この造り方は広く普及し、今日ではキッチンや水廻りを分けたいという要望が当たり前に語られるようになりました。

一方で、長男が家を継ぐ、という伝統の中で、この時代には娘夫婦同居は進んで選択されることは少なかったと言えるでしょう。二世帯住宅研究所が設立された1980年には、息子夫婦同居・娘夫婦同居の違いの研究が本格的に始まり、1983年に入居者の声から生み出された「親子同居・7つの原則」で、娘夫婦同居を息子夫婦同居と対等に扱い、どちらを選択するかはその家族の状況で自由に選択すべき、という主張がされました。それらは1987年に誕生した「DUO・DUET」という息子夫婦同居と娘夫婦同居のモデルを並立させた商品に表現されます。2000年代に入って、同居のメリットとして交流・協力関係が注目される中で当社においては近年娘夫婦同居の増加が顕著となっています。

このように、二世帯住宅は息子夫婦同居においてはお嫁さんの不安解消を進め、娘夫婦同居においては妻の親と同居するという選択に市民権を与えてきたのではないかと思います。そして、嫁姑関係も、娘夫婦同居も、昔とは大きく違った交流意識になってきています。しかし、依然として同居の際の人間関係、とりわけ嫁姑関係については同居前の検討段階で多くの不安があるのが現状です。一方、ヘーベルハウスの二世帯においては同居前の不安を現状で感じていることは少なく、同居生活に満足している率が高い実態があり、ここから不安を解消するヒントが得られると期待されます。

そこで二世帯住宅40周年を迎えたこの機会に、一般社会で同居前に存在する不安と、実際にヘーベルハウスで同居生活をしている居住者の実態を、息子夫婦同居・娘夫婦同居という視点で調査することを企画し、その分析結果を公表させていただくこととしました。本調査発表が二世帯住宅という住まいの形式の発展に寄与することができれば幸いです。

2015年7月

旭化成ホームズ株式会社  
二世帯住宅研究所



序章

- 1) 旭化成の二世帯住宅に対するこれまでの取り組み ..... 10
- 2) 調査概要 ..... 12

1章 親・子世帯同居前に感じる不安の実態 ～同居ブレーキと同居アクセル～

- 1) 同居にブレーキをかける不安の実態 ..... 16
- 2) 同居・近居層の親子観にみる同居アクセル ..... 22

2章 息子夫婦同居・娘夫婦同居における親・子世帯居住の交流意識

- 1) 息子夫婦同居・娘夫婦同居 今みられる変化 ..... 36
- 2) 近年の息子夫婦同居・娘夫婦同居のかたち分類 ..... 44

3章 親・子世帯の同居に配慮する空間提案

- 1) 同居の不安と住まいにおける配慮 ..... 52
- 2) 娘夫婦同居にみられる『Wシェア』の実態 ..... 66

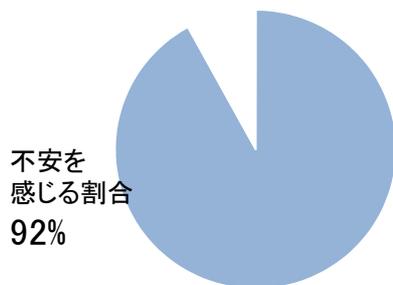
# 概要

## 1章 親・子世帯同居前に感じる不安の実態 ～同居ブレーキと同居アクセル～

### 1) 同居にブレーキをかける不安の実態

親子同居の検討中には、9割以上が何らかの同居ブレーキ（＝不安）を感じる

◇ 一般既婚男女（25歳以上）が同居前に不安を感じる割合



一般

■ 特に息子夫婦同居を検討しているの子世帯妻（嫁）の不安は大きく、99%に達します。

子世帯で最も不安が強いのは、息子夫婦同居の妻、親世帯では、娘夫婦同居の母  
女性同士の関係における不安は息子夫婦同居で根強い  
娘夫婦同居の子世帯の夫が最も不安なことは「一人になれない」  
親世帯の一番の心配は子世帯に介護の負担をかけること

#### 息子夫婦同居検討層・子世帯

同居前に感じる不安が最も多い。  
不安の1位は「嫁姑の関係」88%。

#### 娘夫婦同居検討層・子世帯

「一人になれない」ことが一番不安（64%）。

#### 同居検討層・親世帯

親世帯が最も不安に感じているのは「子世帯に介護の負担をかけること」。娘夫婦同居の母は77%、息子夫婦の母は62%が不安を感じると回答。

娘夫婦同居の母は「子育ての負担」について64%が不安。子世帯を支援したい気持ちの一方で、同時に負担に不安も感じている。

### 親子同居スタイルの変化に伴い、多様化する不安要素

#### 従来の親子同居に伴う不安

「生活時間やリズムの違いがストレスになる」  
息子夫婦同居・妻 84%  
息子夫婦同居・母 67%

1  
生活上の相違・干渉・負担に対する不安

■ 同居前に感じられる不安は、従来見られた不安だけでなく、両者がより近く協力しながら暮らすニーズから生まれる不安が加わり、住まいで配慮すべき内容も多様化しています。

2  
妻の親と同居する子世帯夫の立場に対する不安

#### 娘夫婦同居の増加により新たに加わった不安

「妻の親と同居すると子世帯夫は気遣いが多くなる」  
娘夫婦同居・妻 70%  
娘夫婦同居・夫 57%

3  
気遣い・積極的支援に伴う不安

#### 子育ての親子協力（孫共育）により新たに加わった不安

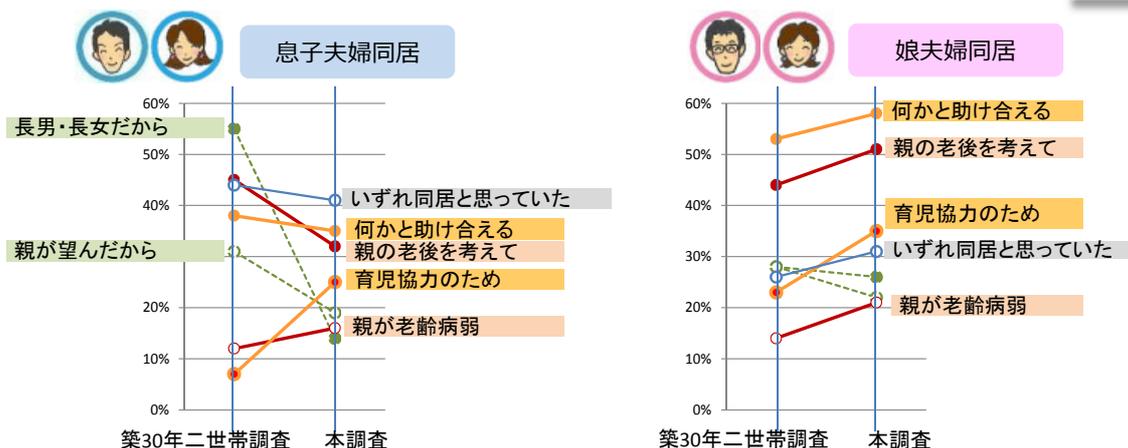
「親世帯の母が子世帯のために張り切って疲れてしまう」  
娘夫婦同居・母 61%  
息子夫婦同居・母 56%

## 2) 親・子世帯同居・近居層の親子観に見る同居アクセル

子世帯にとって親と同居の理由は  
30年前と比べ「長男」という社会的規範が薄れ、育児協力や介護メリット志向に

### ◇ 親・子世帯同居の理由(子世帯回答)～築30年二世帯同居との比較～

へーベル



息子夫婦同居の同居アクセルは、子世帯の夫(息子)に最も多い  
子世帯は「子育ての支援」が同居アクセルになるが、親世帯にはならない  
親世帯の母は「孫と同居できる幸せ」、父は加えて「同居の安心」が同居アクセル

娘夫婦同居の同居アクセルは、母の娘を援助したい非常に強い母心  
娘は親を案じて自宅介護、父は「孫と暮らす幸せ」、夫(子世帯)は妻と親世帯を思う  
近居では、子育ての援助が家族共通の近居アクセル

### ◇ 世帯別・男女別の同居者と近居者の親子観の特徴

一般

- 下表は、同居や近居を促すアクセル要素を表示しています。表中の数値は、遠居と比較した場合の同居の倍率、近居の倍率を表します。例えば、同居の倍率が大きいと、その要素は同居のアクセルとなると解釈します。



#### 娘夫婦同居・近居層

要素	説明	同居層				近居層			
		子世帯	親世帯	子世帯	親世帯	子世帯	親世帯	子世帯	親世帯
子育て	子育ては子世代だけでなく、親にも協力を得た方が良い		4.12		1.34		1.45		
	女性が仕事をするためには、親の援助が必要だ		2.76		1.44		1.47		1.80
親の高齢化・介護	親が高齢になったら子が近くに住んでいると安心だ				1.48		1.38		1.94
	親が高齢になったら子と同居が安心だ		2.06				2.84		
	介護は施設ではなく自宅で行う方が良い	1.36	1.39			1.25			
	介護は外部サービスに頼らず、家族だけで行うのが良い			2.00					
家族関係	親世帯にとって孫と過ごす時間は幸せだ				1.27		1.59		1.55
	親世帯が孫と同居できることは幸せだ	1.95	1.86	2.06					
	親世帯と子世帯の妻が良い関係だと子世帯の夫は幸せだ								
	娘夫婦が親と同居した方が上手いく	1.72	1.52	2.09			1.32		1.34
	子が世帯を構えた後でも、必要なときは親子協力をすべきだ								
	いざと言う時に本当に頼れるのは親や子である						1.32		

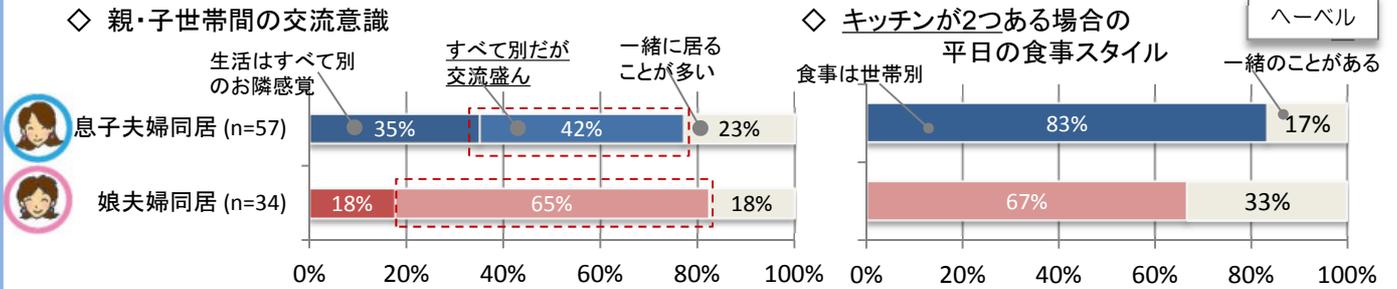
# 概要

## 2章 息子夫婦同居・娘夫婦同居における親・子世帯居住の交流意識

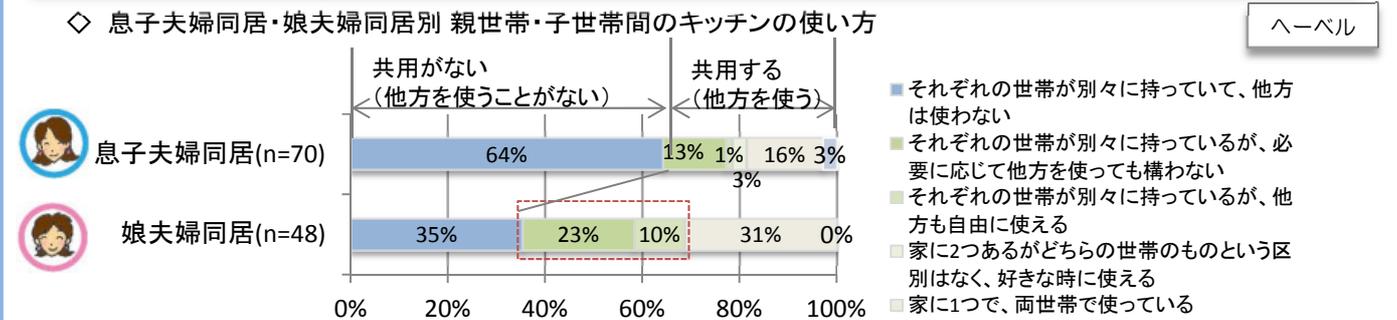
### 1) 息子夫婦同居・娘夫婦同居 今みられる変化

親世帯・子世帯間の交流意識は「すべて別だが交流盛ん」が最も多く娘夫婦同居では6割以上

キッチンが2つでも一緒に食事：親世帯・子世帯の食事スタイルはキッチン数にとらわれず多様化している

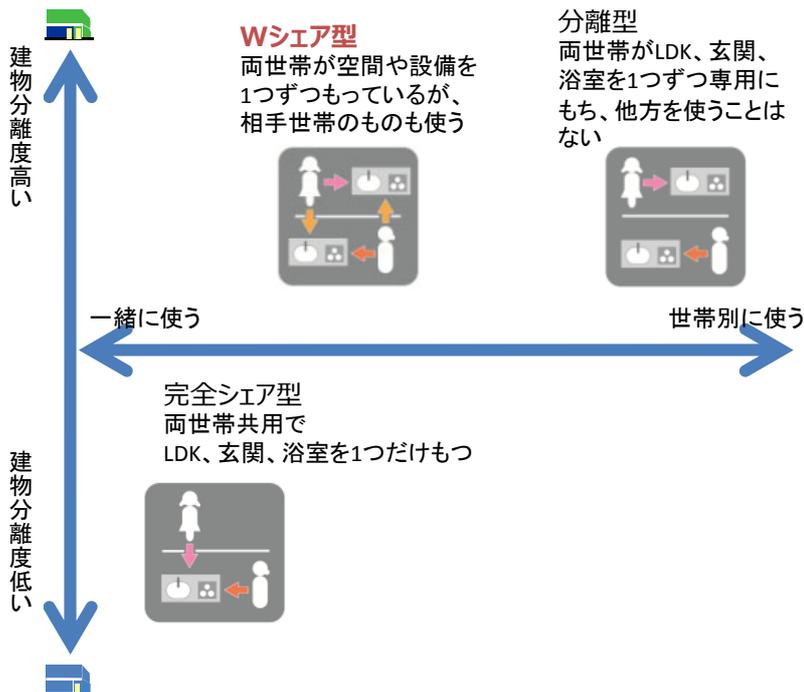


キッチンが2つあり他方も使う共用状態が33%で発生している娘夫婦同居



両世帯がそれぞれ1つずつの空間や設備をもつが、相手世帯のものも使う「Wシェア型」

### ◇ 建物分離度と使い方の関係



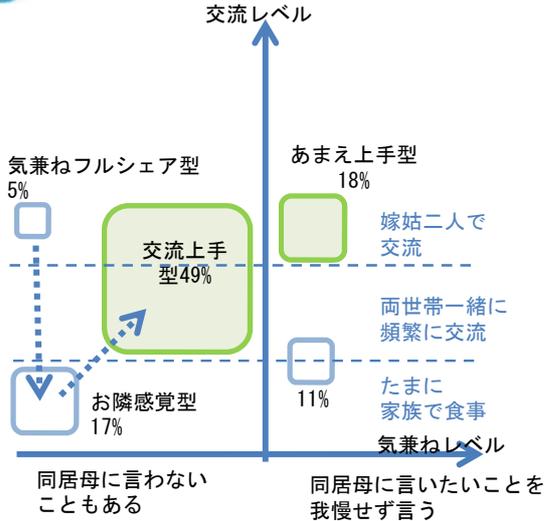
- これまでヘーベルハウスでは二世帯住宅の提案を通して、暮らしに適した空間や設備の使い方を実現するために、建物分離度（ゾーニングや設備数）を工夫してきました。それは、両世帯が空間・設備を1つずつ専用にもち他方を使うことはない「分離型」、世帯共用で1つだけもつ「完全シェア型」という、使い方と建物分離度がリンクしているものでした。
- しかし、現在、その2種類にはあてはまらず、建物分離度は高いが空間シェアが起きている「Wシェア型」が新しく存在しています。

2) 近年の息子夫婦同居・娘夫婦同居のかたち分類

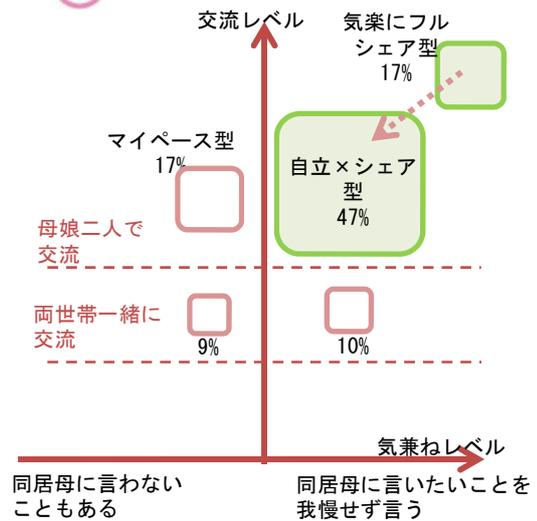
同居のかたちは近居では実現できない頻繁な交流志向へとシフト、息子夫婦同居の関係は交流上手型

娘夫婦同居の関係は自立×シェア型が主流、心と生活の距離を分離

息子夫婦同居嫁姑関係 交流意識チャート

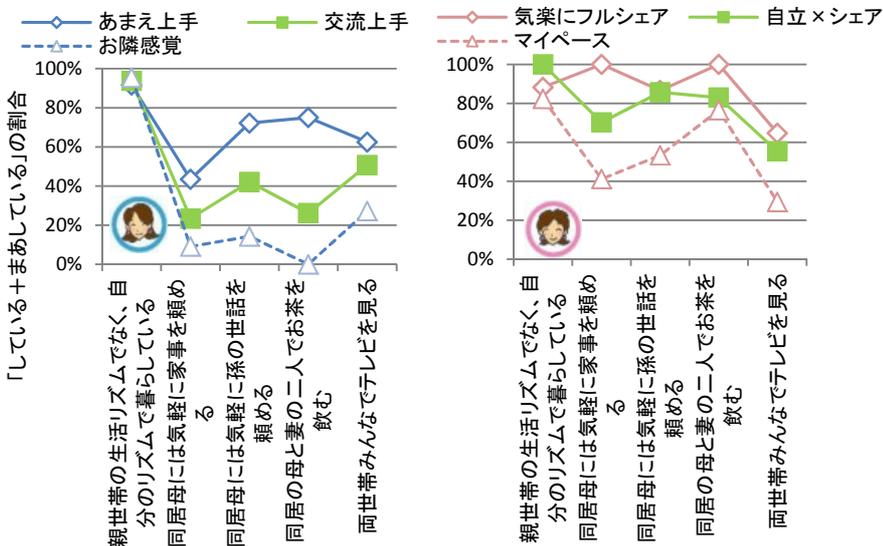


夫婦同居母娘関係 交流意識チャート

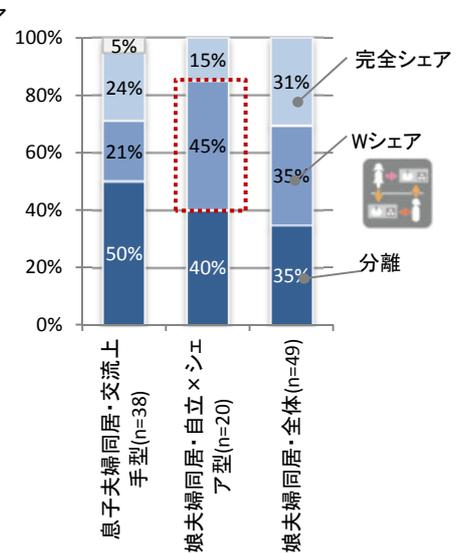


- イマドキの息子夫婦同居、娘夫婦同居の嫁姑、母娘関係に焦点を当て、「交流レベル」×「気兼ねレベル」を軸にタイプ分けをしました。
- 息子夫婦同居では「交流上手型」49%が主流です。両世帯の交流がありますが、嫁は姑に言いたいことを何でも言っているわけではありません。交流しながらもバランスよく付き合いをしています。
- 嫁姑二人だけの交流はなく、姑に言いたいことを何でも言っているわけではない「お隣感覚型」は、既存の息子夫婦同居の二世帯住宅のイメージに相当します。嫁は世帯同士の頻繁な交流を望んでいませんが、たまに家族で食事をするような付き合いをしたいと思っています。
- 娘夫婦同居は「自立×シェア型」が47%と多数派です。母娘が二人だけでお茶を飲んだり買い物をしたりしており、交流は頻繁ですし、同居の母に言いたいことを我慢せず言いますが、べったり一緒なのではなく、キッチンを各世帯に持っていることに代表されるように、自立意識も持っています。自立意識を持ち、心と生活の距離を分離し、張り切りすぎない協力関係を築いています。

◇ 息子夫婦同居・娘夫婦同居にみるタイプ別 暮らしの意識・行動 (子世帯の妻)



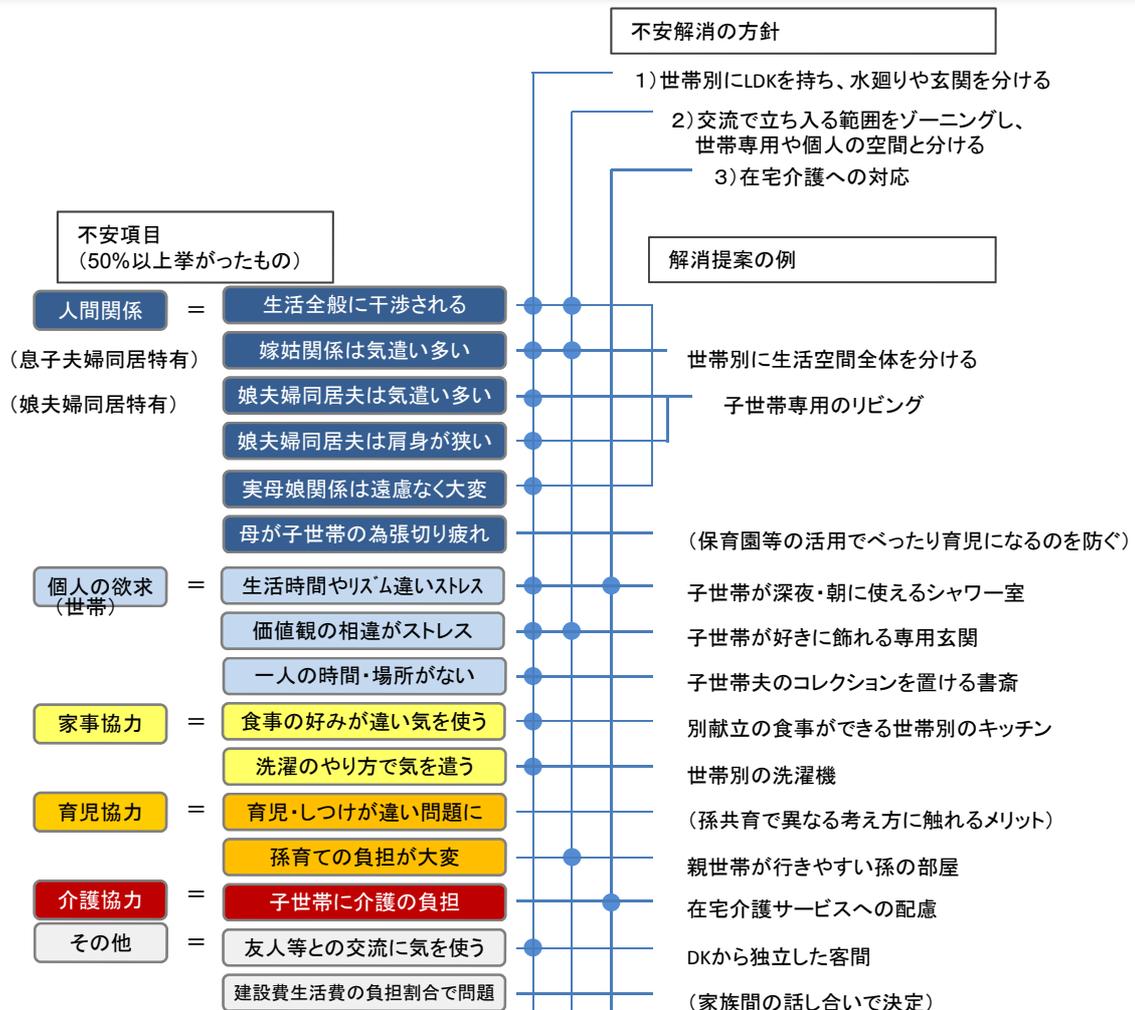
◇ キッチンの使用状況



3章 親・子世帯の同居に配慮する空間提案

1) 同居の不安と住まいにおける配慮

同居前の不安は、二世帯住宅プランテクニックで解消

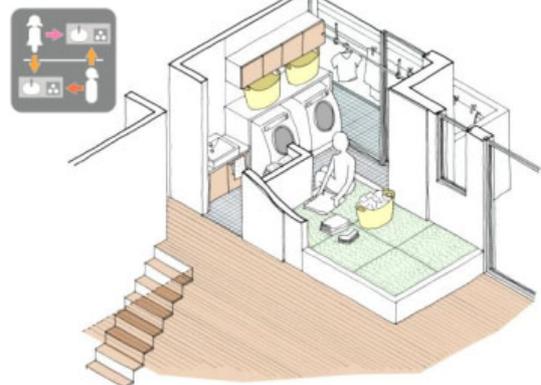


2) 娘夫婦同居にみられる『Wシェア』の実態

新たな空間利用のかたち - Wシェアスタイルのための提案『Wシェアランドリー』 -

- ランドリー空間に着目すると、洗濯機を1日に2回以上回す人が娘夫婦同居では6割以上にもかかわらず、建物内にある親世帯用の洗濯機と子世帯用の洗濯機を共用して有効に使っている人は22%でした。
- 『Wシェアランドリー』は、親世帯用の洗濯機と子世帯用の洗濯機を2階のランドリー空間に設置してシェアし、物干し場に接して設けることで、衣家事を効率的にする新たな提案です。特に娘夫婦同居では、「一緒に使う」ことへの抵抗がすくないため、洗濯機を2回回すのではなく、親世帯の洗濯機を借りるという行為が受け入れられるとされています。
- 親世帯にとっても、2階の日当たりの良い物干し場に洗濯物を干すために、1階の洗濯機で洗って濡れたままの洗濯物を持って1階から2階に上ることを避けることができます。もちろん、両世帯間の家事協力にも便利です。

Wシェアランドリー(R)



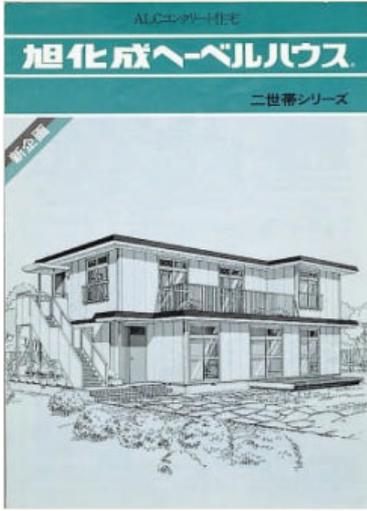
---

## 序章

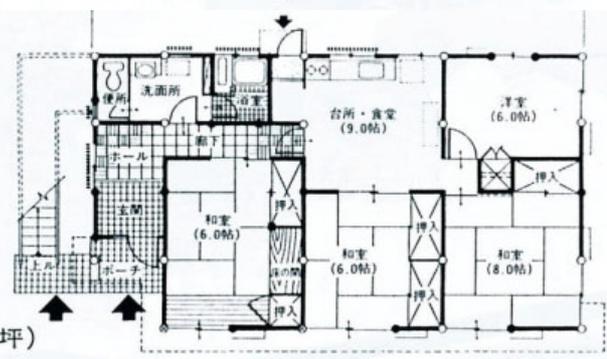
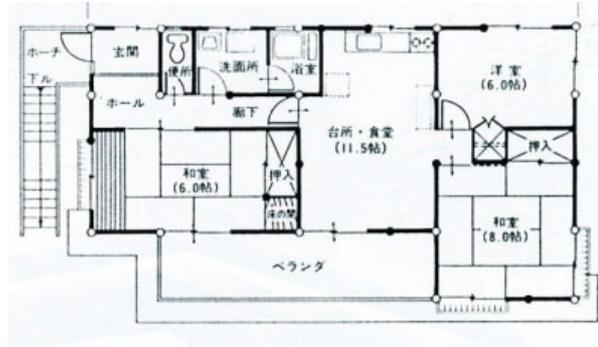
---

1) 旭化成の二世帯住宅に対するこれまでの取り組み

■ 1975年に旭化成が二世帯住宅を商品化



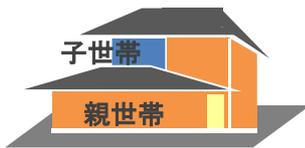
1987年のヘーベルハウス発売当時のカタログと掲載プラン



総面積  
168.58m<sup>2</sup> (50.98坪)  
1階建築面積: 90.77m<sup>2</sup> (27.45坪)  
2階床面積 : 77.81m<sup>2</sup> (23.53坪)

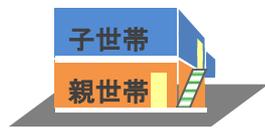
◇ 二世帯住宅を旭化成が商品提案した背景

べったり同居



三世代が一体世帯で暮らし、住まう

二世帯住宅



世帯別に住まい、暮らす

べったり同居か別居の2択しかなかった時代に、旭化成が二世帯住宅という住まい方を商品提案 (1975)

別居



都市内に実家

子世帯  
都市郊外のニュータウン

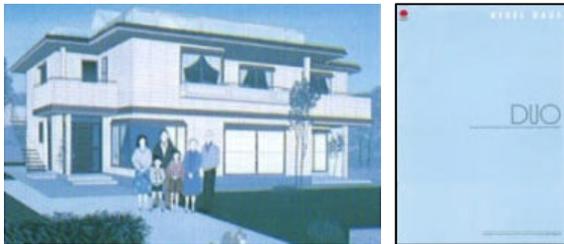
隣居は敷地細分化で供給  
近居の土地供給は少ない

核家族  
ニーズ

## 1) 旭化成の二世帯住宅に対するこれまでの取り組み

## ■ 1987年、息子夫婦と暮らす家「DUO」、娘夫婦と暮らす家「DUET」を商品化

- ヘーベルハウスの二世帯住宅では、親子同居の新しい形として1987年に息子夫婦と暮らす家「DUO」、娘夫婦と暮らす家「DUET」を商品化しました。生活を離すと気持ちがくっつく「ナイスセパレーション」は、暮らしの独立性が二世帯住宅に住む家族の気持ちを一つにします。
- 初代の息子夫婦同居のコンセプトは、「オモテ融合家事分離」。玄関1つで家としての一体性を保ちながら、内部空間を分離させ、二人の女性が主として関わる家事の独立性を尊重しました。同じく初代の娘夫婦同居のコンセプトは「オモテ分離家事融合」で、玄関は2つ。異なる苗字をもつ2つの家の体面を保ちながら、内部空間は融合させ、メインのキッチンや浴室が一つで実の母娘の協力を支援しました。



息子夫婦と暮らす家「DUO」  
オモテ融合・家事分離

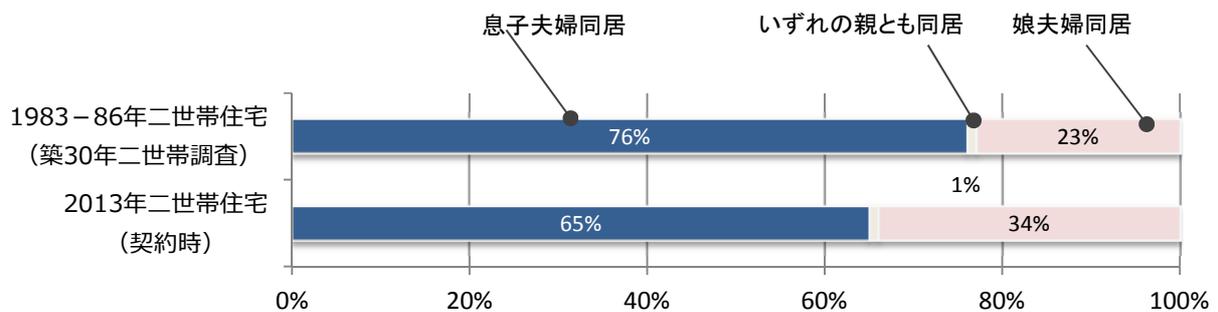


娘夫婦と暮らす家「DUET」  
オモテ分離・家事融合

## ■ この30年間で、娘夫婦同居の比率が増加

- ヘーベルハウスの二世帯住宅に占める息子夫婦同居と娘夫婦同居の割合は、30年前から徐々に増えています。2013年時点では、娘夫婦同居が年間契約全体の34%を占めるようになりました。

## ◇ ヘーベルハウスの二世帯住宅に占める息子夫婦・娘夫婦同居の割合の変化



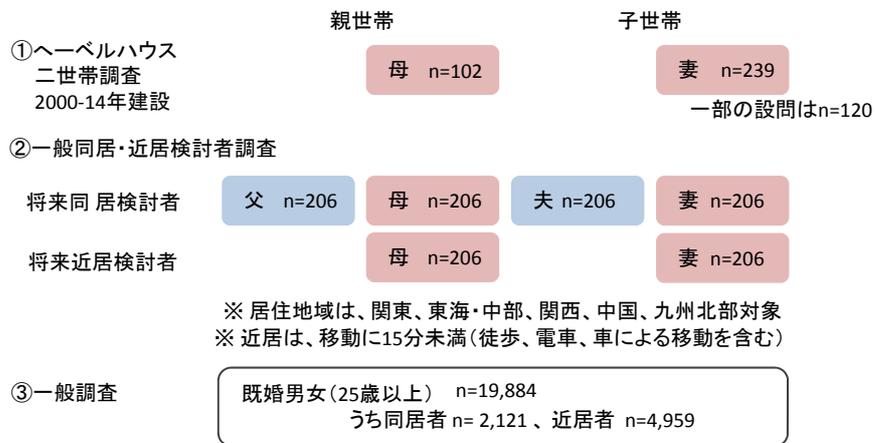
## 2) 調査概要

### ■ 目的

- 二世帯同居を阻害している心理的要因を調べるために一般既婚男女を対象に調査を行い、一般的に持たれる親・子世帯の同居前に感じる不安を把握する。
- 一般の親・子世帯の親子観を軸とした意識を調べることで、同居や近居を促進する要素を把握する。
- ヘーベルハウス二世帯居住者の調査を行い、現在の息子夫婦同居-娘夫婦同居の生活実態として、嫁姑-母娘の関係の変化を把握する。
- 同居前の不安と、実際の二世帯居住者の生活実態とのギャップに着目することで、同居前不安を解消する住まいの空間提案へつなげる。

### ■ 調査対象

◇ WEBアンケート調査 2015年3月、6月実施



◇ 訪問調査 2015年6月実施

ヘーベルハウス 二世帯調査 回答者より 息子夫婦同居2事例、娘夫婦同居4事例 (うち、1事例は電話ヒアリングのみ)

- ※ 本報告書では、特に記載のない限り、ヘーベルハウス居住者に関する結果はWEBアンケート①、一般の既婚男女に関する結果はWEBアンケート②③を対象としています。データソースが①の場合を「ヘーベル」、②③の場合を「一般」と表記。
- ※ 本報告書中の「築30年二世帯調査」とは、旭化成ホームズくらしノベーション研究所の調査報告書「30年暮らした家族による二世帯住宅の評価と住まいの継承の実態」(2015.5)のデータに基づく。

### ■ 本報告書での呼称・アイコンについて

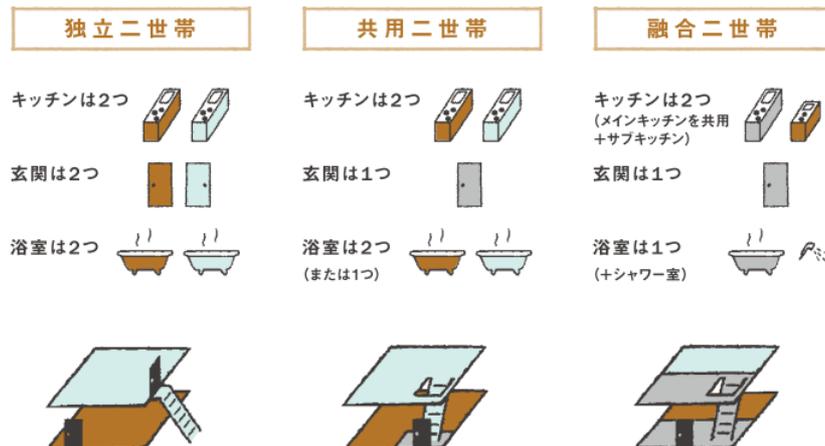


2) 調査概要

◇ 回答者の属性 ①ヘーベルハウス二世帯調査

		親世帯票		子世帯票	
有効回答数		102		239	
回答者(妻/母)平均年齢(才)		67		43	
築年数(年)		5.1		5.6	
同居人数(人)		5.3		5.1	
同居している子のうち 最年長者の年齢	0～6歳	25	31%	49	26%
	7～9歳	22	27%	37	19%
	10～12歳	15	19%	27	14%
	13～15歳	7	9%	18	9%
	16～18歳	5	6%	15	8%
	19歳以上	7	9%	46	24%
	いない	21	-	47	-
	地域	東京・神奈川・千葉・埼玉	48	48%	117
茨城・群馬・栃木		6	6%	13	5%
静岡		7	7%	18	8%
愛知		20	20%	40	17%
岐阜・三重		5	5%	7	3%
京都・大阪・兵庫		10	10%	24	10%
奈良・滋賀・和歌山		1	1%	5	2%
岡山・広島・山口		3	3%	9	4%
福岡		1	1%	6	3%
息子/娘夫婦	息子夫婦	46	46%	133	56%
	娘夫婦	56	55%	103	44%
	不明	0	0%	3	-
子世帯妻就業	フルタイム・休職	37	38%	67	29%
	パート・在宅	32	33%	66	28%
	主婦	30	31%	101	43%
	不明・いない	3	-	5	-
親世帯の状況	両親	86	84%	144	60%
	母のみ	16	16%	93	39%
	父のみ	0	0%	2	1%
建物分離度	独立二世帯	36	35%	75	31%
	共用・融合二世帯	49	48%	108	46%
	一体同居	17	17%	56	23%

◇ 二世帯住宅における建物分離度の定義



## 2) 調査概要

## ◇ 回答者の属性 ②一般調査

		親世帯票		子世帯票	
有効回答数		618		618	
性別	男性	206	33%	206	33%
	女性	412	67%	412	67%
回答者平均年齢(才)		63.2		38.3	
地域	東京・神奈川・千葉・埼玉	280	45%	252	41%
	茨城・群馬・栃木	26	4%	36	6%
	静岡・山梨	26	4%	27	4%
	愛知	68	11%	52	8%
	岐阜・三重	15	2%	32	5%
	京都・大阪・兵庫	109	18%	120	19%
	奈良・滋賀・和歌山	29	5%	18	3%
	岡山・広島・山口	40	6%	54	9%
	福岡・佐賀	25	4%	27	4%
同居/近居を検討している 最年長孫の年齢	0～3歳	92	15%	102	28%
	4～6歳	43	7%	58	16%
	7～9歳	43	7%	52	14%
	10～12歳	31	5%	43	12%
	13～15歳	21	3%	33	9%
	16～18歳	15	2%	37	10%
	19歳以上	7	1%	37	10%
	いない	366	-	256	-
息子/娘夫婦	息子夫婦	309	50%	309	50%
	娘夫婦	309	50%	309	50%
同居/近居を検討している親	両親	521	84%	430	70%
	母のみ	97	16%	147	24%
	父のみ	-	-	38	6%
	混合	-	-	3	0%

## ◇ 回答者の属性 ③一般調査

有効回答数		19,884	
性別	男性	9,914	50%
	女性	9,970	50%
回答者平均年齢(才)		49.2	
地域	東京・神奈川・千葉・埼玉	8,271	42%
	茨城・群馬・栃木	1,049	5%
	静岡・山梨	788	4%
	愛知	1,788	9%
	岐阜・三重	745	4%
	京都・大阪・兵庫	4,158	21%
	奈良・滋賀・和歌山	784	4%
	岡山・広島・山口	1,214	6%
	福岡・佐賀	1,087	5%
息子/娘夫婦	息子夫婦	4,771	24%
	娘夫婦	3,866	19%
	混合	32	0%
	同居・近居希望なし	10,839	55%
	不明	376	2%
世帯	親世帯	4,275	23%
	子世帯	14,236	77%

---

## 1章 親・子世帯同居前に感じる不安の実態 ～同居ブレーキと同居アクセル～

---

本章では、一般社会で親世帯と子世帯が同居をする前に感じる不安「同居ブレーキ」の実態を明らかにし、親世帯、子世帯、夫、妻、父、母、という立場でその不安がどのように異なるのかを確認します。

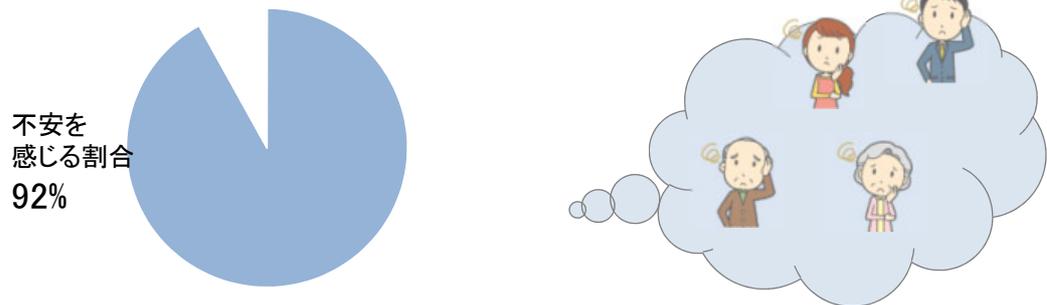
また、親世帯と子世帯が同居をしている同居層、近居層がもつ親子観に焦点を当て、同居層の特徴を把握することにより、それぞれの立場ごとに、同居を促進する要素「同居アクセル」が何かを明らかにします。

## 1) 同居にブレーキをかける不安の実態

親子同居の検討中には、9割以上が何らかの同居ブレーキ（＝不安）を感じる

- 親子同居を検討するにあたって、92%の人が不安を感じています。
- 特に息子夫婦同居の子世帯妻(嫁)の不安は大きく、99%に達します。

◇ 一般既婚男女(25歳以上)が同居前に不安を感じる割合



◇ 息子夫婦・娘夫婦同居別 一般既婚男女(25歳以上)が同居前に不安を感じる割合

同居検討層		同居の検討に際し、何らかの不安がある	
息子夫婦同居	親世帯	父	89%
		母	90%
	子世帯	夫	90%
		妻	99%
娘夫婦同居	親世帯	父	86%
		母	94%
	子世帯	夫	90%
		妻	96%
		全体	92%

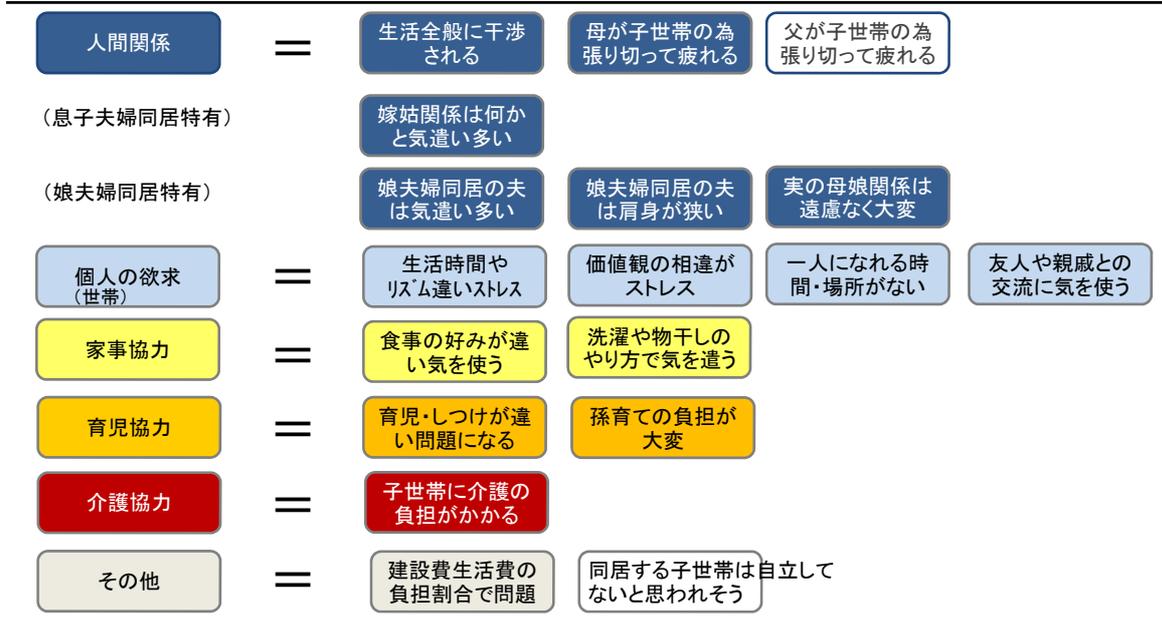
(全体には、息子夫婦・娘夫婦混合含む)

1) 同居にブレーキをかける不安の実態

子世帯で最も不安が強いのは、息子夫婦同居の妻、親世帯では娘夫婦同居の母  
 女性同士の関係における不安は息子夫婦同居で根強い  
 娘夫婦同居の子世帯の夫が最も不安なことは「一人になれない」こと  
 親世帯の一番の心配は子世帯に介護の負担をかけること

- 具体的にP18-19でそれぞれの立場ごとに不安の中身を見てみると、現在、同居前に感じる不安が最も多いのは息子夫婦同居の子世帯妻で、嫁の立場への不安は、今も昔も大きいと言えるでしょう。
- 一方、親世帯では、実の娘と同居することを検討している娘夫婦同居の母が最も不安が多いことがわかります。親世帯と子世帯の暮らしの距離が近くなることが想定されるだけに、いろいろな不安が表れるものと思われます。

一般の同居検討者が感じている不安（50%以上が不安と回答した項目のみ色づけ）



息子夫婦同居検討層・子世帯



息子夫婦同居の夫(息子)は、妻に比べると不安が少ない。最も不安なのは「嫁姑の関係」、次いで「一人になれる時間・場所がない」。

娘夫婦同居検討層・子世帯



娘夫婦同居の子世帯の夫が、同居前に抱えている不安の1位は「一人になれない」64%。「一人になれない」不安は、子世帯に共通して大きく、また娘夫婦同居の母でも2位の74%。



同居前に感じる不安が最も多い息子夫婦同居の子世帯妻にとって、不安の1位は「嫁姑の関係」88%。そして「嫁姑の関係」に対する不安は、嫁だけでなく、夫や親世帯の父母にも現れ、夫や母でも1位に挙がる。



娘夫婦同居の子世帯妻(娘)は、「娘夫婦同居の夫は気遣いが多くなる」と70%が感じている。その夫である娘夫婦同居・夫よりも高く、自分の親と同居する立場の夫の心配をしている様子が表れている。

同居検討層・親世帯



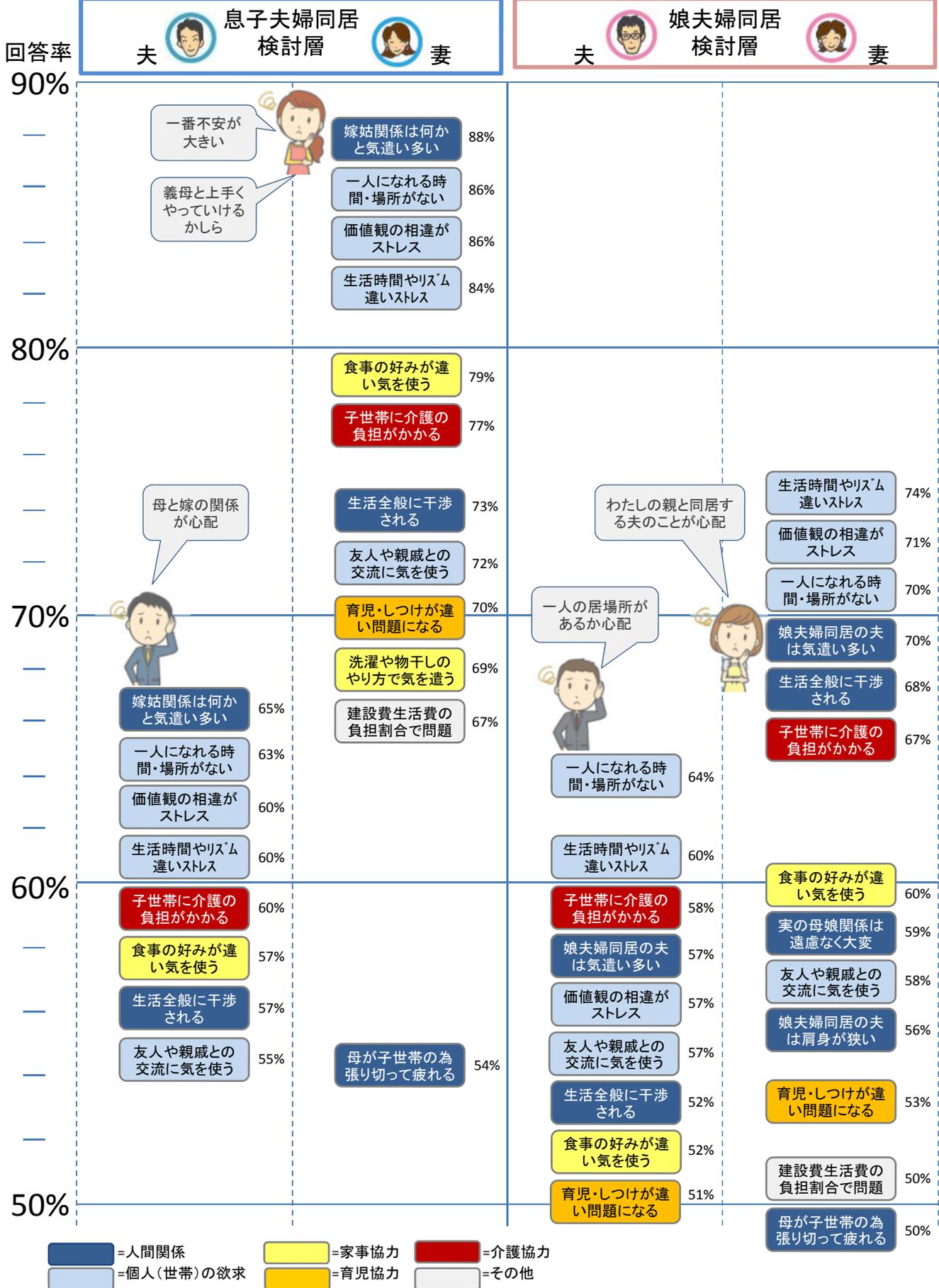
親世帯は、息子夫婦、娘夫婦同居を問わず、最も不安に感じているのは「子世帯に介護の負担をかけること」。娘夫婦同居の母は77%、息子夫婦同居の母は62%が不安を感じると回答。



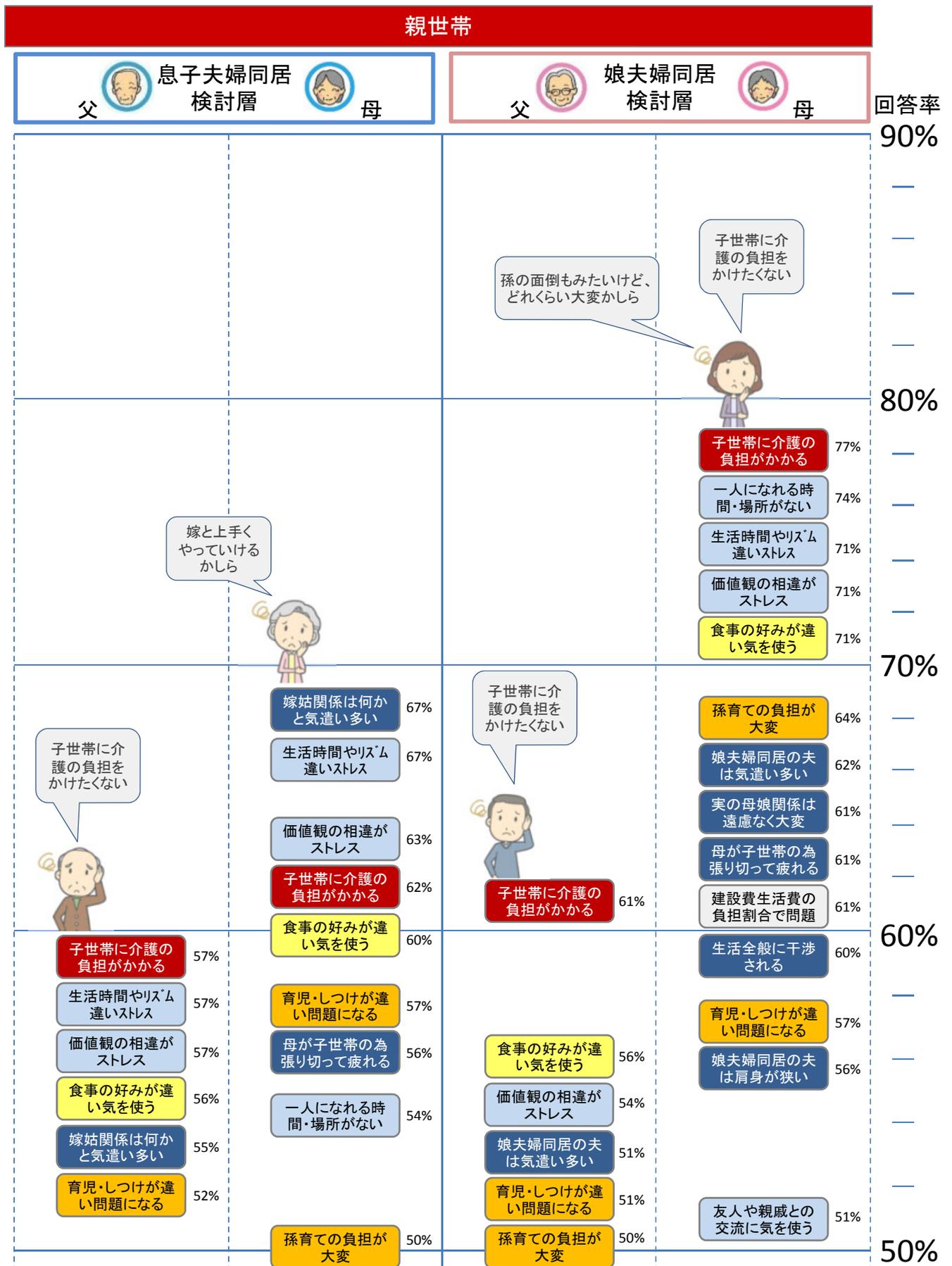
娘夫婦同居の母は「孫育ての負担」について64%が不安。子世帯を支援したい気持ちの一方で、同時に負担に不安も感じている様子である。

一般の同居検討者が感じている不安

子世帯



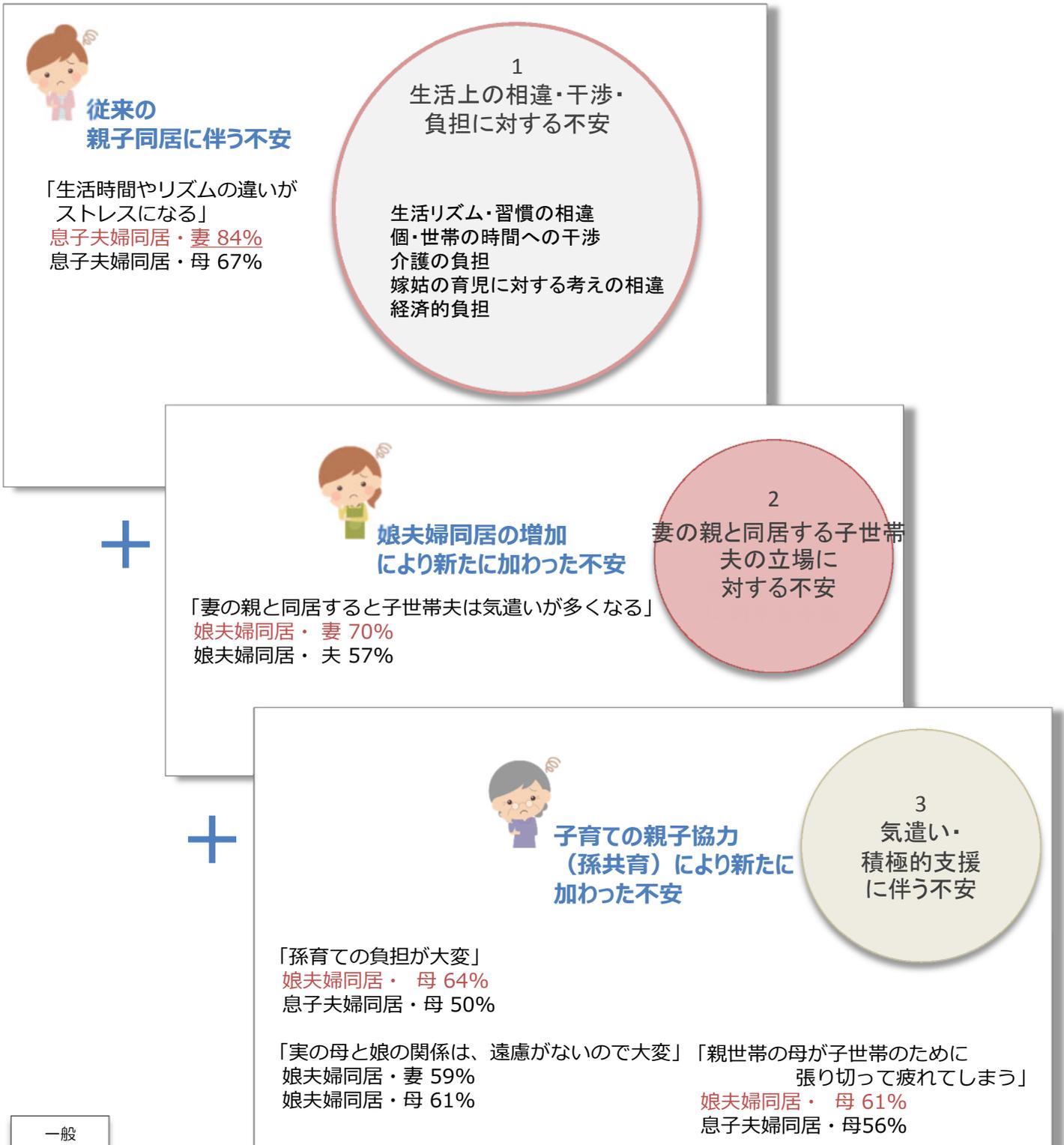
一般の同居検討者が感じている不安



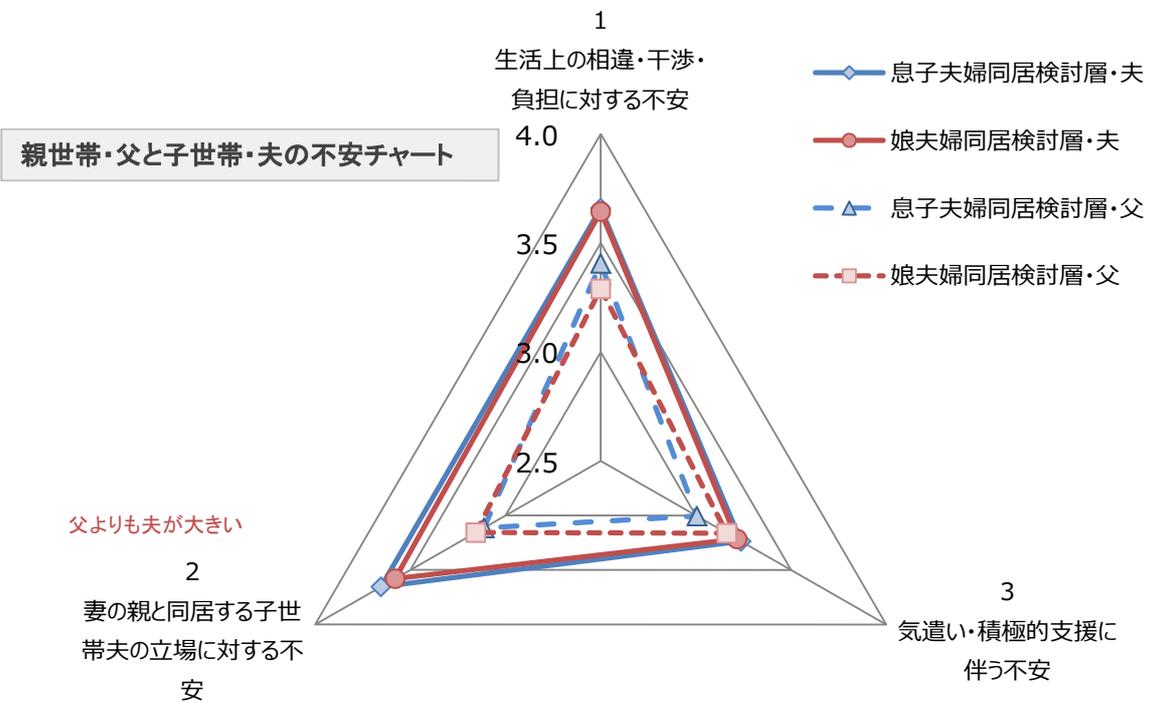
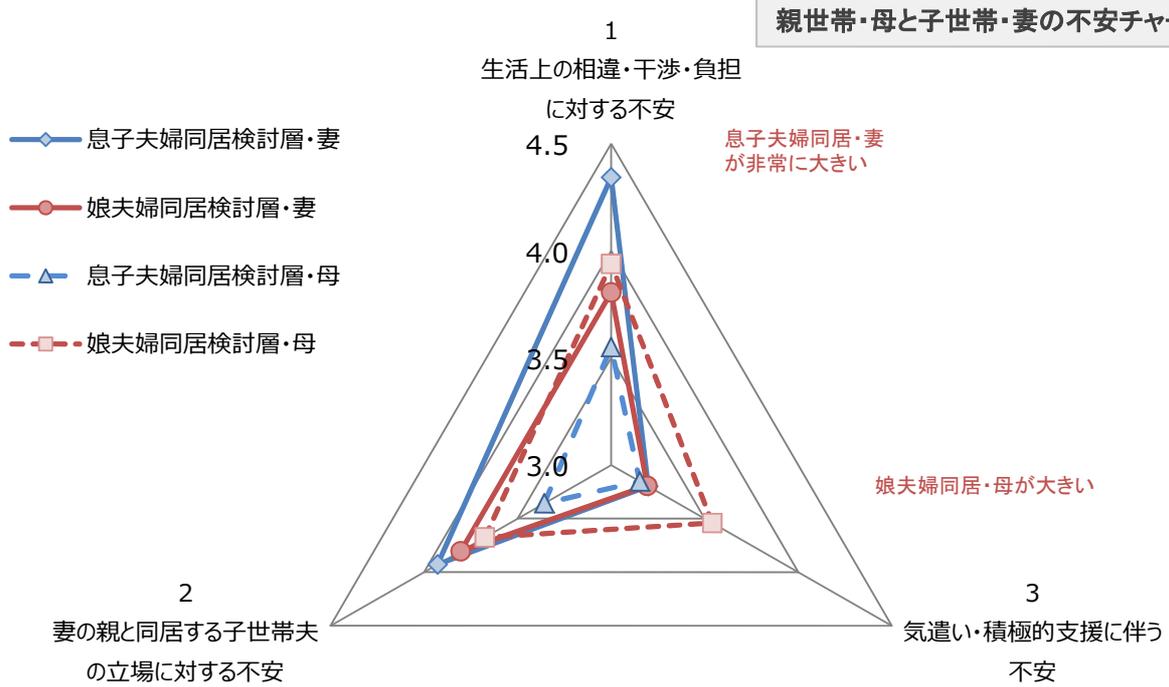
1) 同居にブレーキをかける不安の実態

親子同居スタイルの変化に伴い、多様化する不安要素

- 息子夫婦同居、娘夫婦同居という同居のかたちによって、また親・子世帯それぞれの立場によって同居前には、前頁までみてきたような様々な不安があることがわかりました。同居前に感じられる不安は、従来見られたような二つのライフステージの異なる世帯が一つの建物の中で暮らすという変化に対して生まれる不安だけでなく、娘夫婦同居の増加や子育て協力の一般化によって、両者がより近く協力しながら暮らすニーズから生まれる不安が加わり、住まいで配慮すべき内容も多様化しています。



一般



※ 数値は不安に対する回答の平均点  
数値が大きいほど不安が大きい  
6点満点で、6.0点は全員が「とても不安」  
※ 娘夫婦同居に関する質問について、息子夫婦同居  
検討層は、自分に置き換えた想定で回答している  
逆も同様である

## 2) 親・子世帯同居・近居層の親子観に見る同居アクセル

同居の理由は息子夫婦・娘夫婦同居ともに、親子間の協力・助け合い

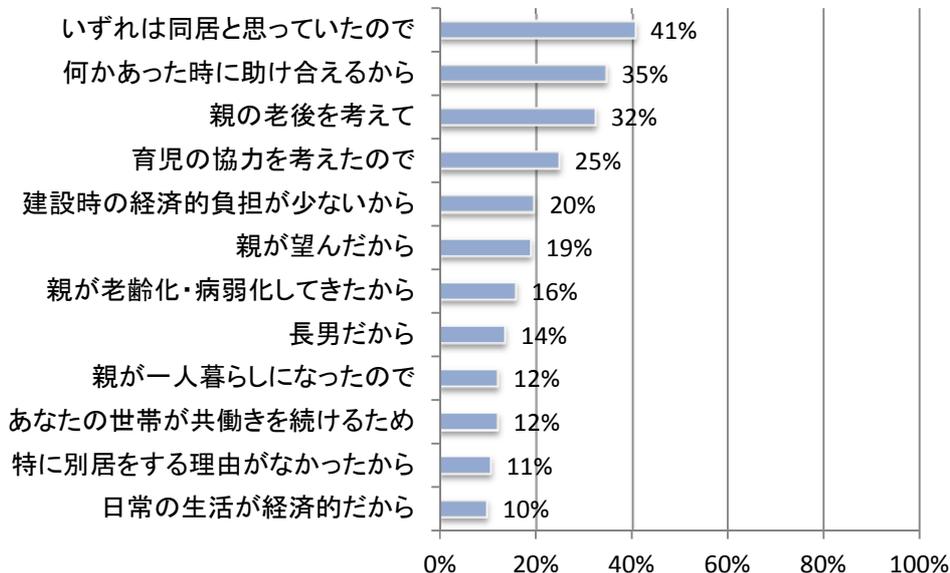
- 前項1)では、同居の前に感じる不安 = 不安ブレーキの実態をみてきました。本項2)では、同居を促進する要素 = 同居アクセルが何かを明らかにしていきたいと思います。
- まずは、ヘーベルハウス居住者を例に、息子夫婦同居・娘夫婦同居別に同居の理由をみてみましょう。
- 息子夫婦同居で1位は「いずれは同居と思っていたので」、3位までは親を気遣う項目が並びましたが、50%を超えるものはなく、それぞれ理由が多様になっているようです。
- 娘夫婦同居では、「何かあった時に助け合えるから」58%が1位です。上位4項目は息子夫婦同居と変わらず、どちらも親子間の協力・助け合いが上位の理由です。

### ◇ 親・子世帯同居の理由(子世帯回答)

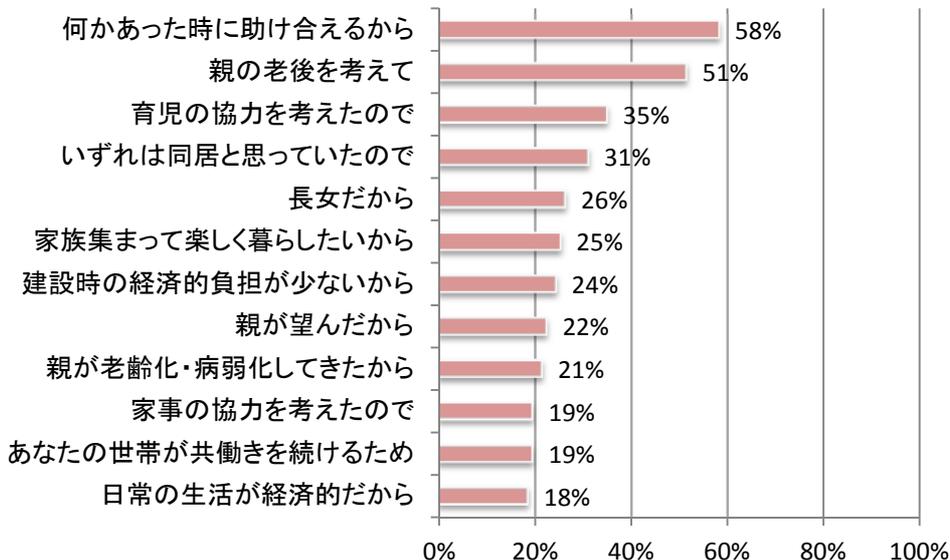
ヘーベル



#### 息子夫婦同居



#### 娘夫婦同居



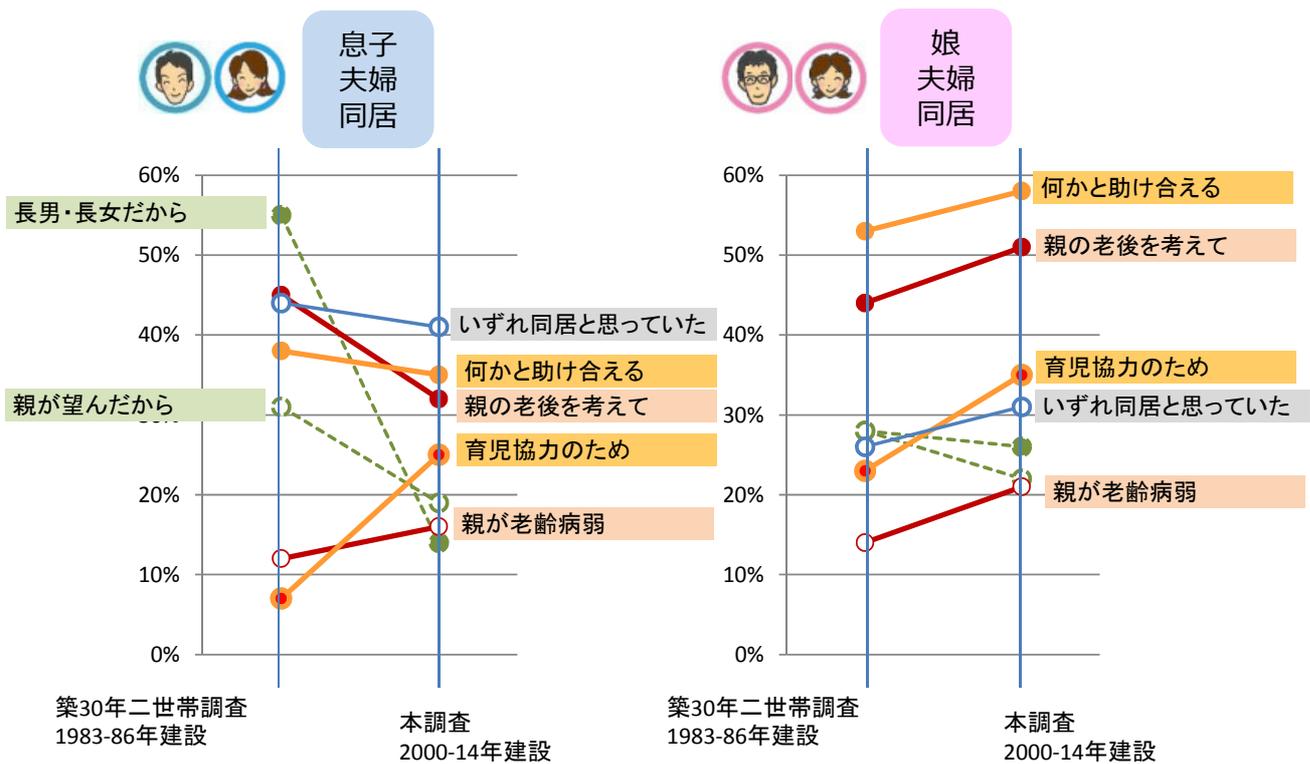
2) 親・子世帯同居・近居層の親子観に見る同居アクセル

子世帯にとって親と同居の理由は  
30年前と比べ「長男」という社会的規範が薄れ、育児協力や介護メリット志向に

- 子世帯の同居理由について、息子夫婦・娘夫婦同居別にみると、息子夫婦同居で「長男長女」「親が望んだ」という社会的規範に関する項目が大きく減り、「親の老後」等の加齢配慮理由は減少してはいますが相変わらず上位です。
- 娘夫婦同居では30年前から「長男長女」理由が少なく、協力志向重視の傾向を持っていますが、本調査ではその傾向がさらに強調された結果となりました。

◇ 親・子世帯同居の理由(子世帯回答)～築30年二世帯同居との比較～

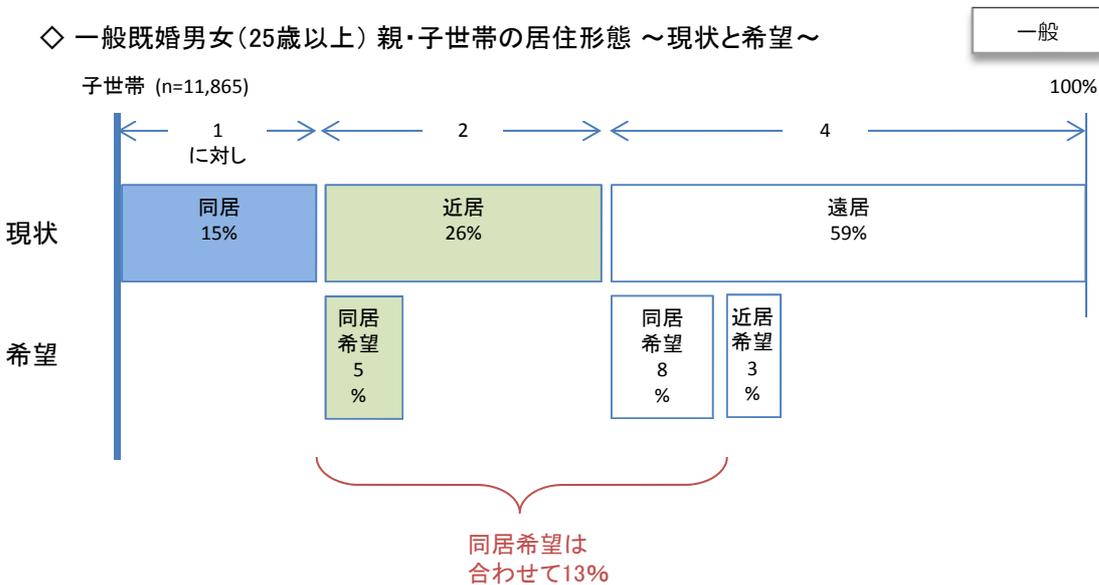
へーベル



2) 親・子世帯同居・近居層の親子観に見る同居アクセル

親世帯と子世帯の居住形態は、おおよそ同居：近居：遠居 = 1：2：4

- 本頁以降では、同居層と近居層の親子観の違いの焦点をあて、同居アクセル、近居アクセルになる要素を特定したいと思います。近居と比較をすることによって、近居アクセルにはない同居アクセルを特定することが目的です。
- まず本調査回答者の既婚男女（25歳以上）における親世帯・子世帯の居住状況の分布を確認します。居住状況は、親・子世帯間の居住地の移動時間に応じて、同居層、近居層（移動時間15分未満）、遠居層に分けます。
- 現在の親子同居の状態は、同居が15%に対して、近居は26%、遠居は59%で、おおよそ同居：近居：遠居 = 1：2：4 です。（子世帯ベース）
- これから同居を検討している層は、子世帯で13%です。
- 同居希望層が同居を、近居希望層が近居を叶えたとすると、同居：近居：遠居の割合は、1：1：2で、同居と近居の割合が等しくなります。



同居: 一つの建物に住む、二世帯住宅を含む  
 近居: 移動時間15分未満  
 遠居: 移動時間が15分以上

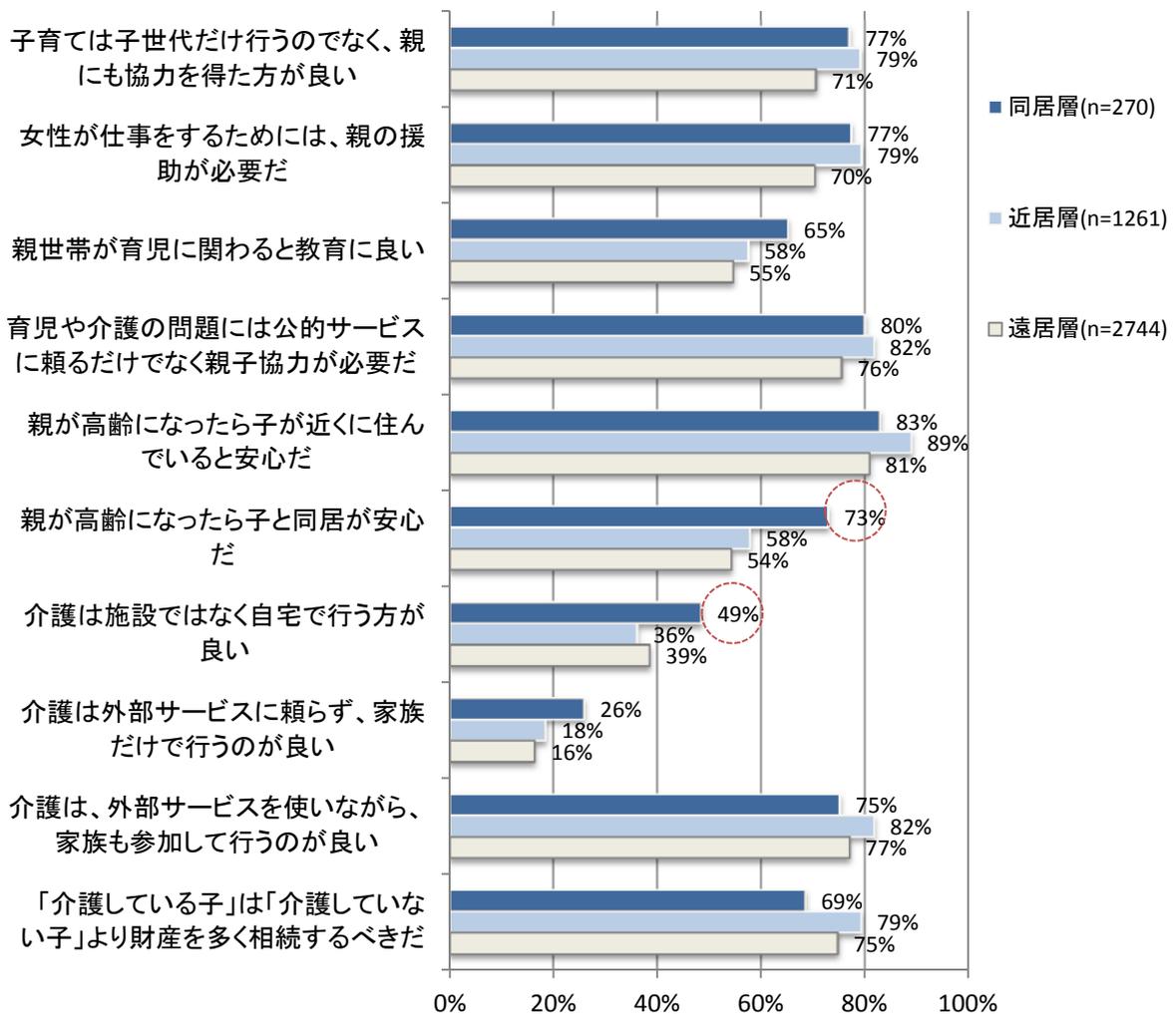
2) 親・子世帯同居・近居層の親子観に見る同居アクセル

単純なクロス分析では、同居層・近居層による親子観の違いはつかみにくい

- 同居、近居、遠居という親世帯と子世帯の居住状態別に親子観を比較したところ、大きな違いがみられませんでした。「親が高齢になったら子との同居が安心だ」「介護は施設ではなく自宅で行う方がよい」は、近居層や遠居層に比べて同居層が大きいですが、このグラフからは、どれくらい同居を促進するのか、どの程度の同居アクセルなのか、判断が難しいことも事実です。

◇ 親世帯・子世帯の居住状態別の親子観（親世帯回答）一例

一般



- 本調査で得られた親子観を、遠居と同居、遠居と近居を比較することによって、遠居に対してどれくらい同居や近居が促進されるのか、倍率で表現されるロジスティック回帰分析の手法を用いて、次頁以降にてまとめます。

2) 親・子世帯同居・近居層の親子観に見る同居アクセル

高齢になった親の自宅介護の希望、子育ての援助は、親・子世帯の同居アクセルだが、  
近居の子世帯は子育ての援助のみ

- 下表は、同居や近居を促すアクセル要素を表示しています。表中の数値は、遠居と比較した場合の同居の倍率、近居の倍率を表します。例えば、同居の倍率が大きいと、その要素は同居のアクセルとなると解釈します。
- その結果、以下のことがわかりました。
  - ・ 「働く女性への親の援助」は、同居層、近居層ともに、両者のアクセルとなる
  - ・ 「介護は施設ではなく自宅で行う方が良い」は同居のみのアクセルで、近居には影響しない
  - ・ 特に一つ屋根の下の「孫との同居」による幸せに対して親世帯の同居へのこだわりが感じられる
  - ・ 経済的意識に関しては、同居も近居も影響しない

◇ 親・子世帯同居層と近居層の親子観の特徴 表中の数値は、遠居と比較した倍率を表します

一般

		同居層		近居層	
		子世帯	親世帯	子世帯	親世帯
子育て	子育ては子世代だけでなく、親にも協力を得た方が良い				1.26
	女性が仕事をするためには、親の援助が必要だ	1.23	1.56	1.24	1.34
親の高齢化・介護	親が高齢になったら子が近くに住んでいると安心だ				1.54
	親が高齢になったら子と同居が安心だ	1.27	2.06		
	介護は施設ではなく自宅で行う方が良い	1.27	1.36		
	介護は外部サービスに頼らず、家族だけで行うのが良い				
家族関係	親世帯にとって孫と過ごす時間は幸せだ				1.43
	親世帯が孫と同居できることは幸せだ	1.60	2.04		
	親世帯と子世帯の妻が良い関係だと子世帯の夫は幸せだ	1.24			
	娘夫婦が親と同居した方が上手くいく				
	子が世帯を構えた後でも、必要なときは親子協力をすべきだ				
経済的意識	いざと言う時に本当に頼れるのは親や子である				
	親子同居は、経済的にメリットがある				
	「介護している子」はしていない子より多く相続するべきだ				

同居のみを促進する要素

※ ロジスティック回帰分析結果より、10%未満で有意な設問を掲載し、オッズ比1.2倍以上は数値を掲載、うち2倍以上は太枠

～参考～

◇ 同居アクセル(=同居を促進する倍率、オッズ比)の算出方法 「親が高齢になったら子と同居が安心だ」の例

i) 「親が高齢になったら子と同居が安心だ」と思う人

$$P(\text{オッズ}) = p / 1 - p$$

p: 同居になる確率 1-p: 遠居になる確率

ii) 「親が高齢になったら子と同居が安心だ」と思わない人

$$P'(\text{オッズ}) = p' / 1 - p'$$

p': 同居になる確率 1-p': 遠居になる確率

iii) 「親が高齢になったら子と同居が安心だ」と思う人が、遠居ではなく同居になる倍率(オッズ比)  $P/P'$

※ ロジスティック回帰分析は医療関係や人口学関係で一般的に用いられる手法です。

2) 親・子世帯同居・近居層の親子観に見る同居アクセル

息子夫婦同居の同居アクセルは、子世帯の夫（息子）に最も多い  
子世帯は「子育ての支援」が同居アクセルになるが、親世帯にはならない  
親世帯の母は「孫と同居できる幸せ」、父は加えて「同居の安心」が同居アクセル

■ 同居層のアクセル要素



子世帯の夫（息子）

全体的にアクセル要素数が多い。最も倍率が大きいのは「親が高齢になったら子との同居が安心」。「親世帯と妻が良い関係だと幸せ」だと思っている。



子世帯の妻（嫁）

「女性が仕事をするためには、親の援助が必要」という、社会システム的な要因が子世帯の同居アクセルであるが、親世帯のアクセルにはならない。



親世帯の父

「親が高齢になったら子との同居が安心」「孫と同居は幸せ」が大きな同居アクセル。「介護は施設ではなく自宅で行う方がよい」は父と息子の同居アクセルだが、母と妻のアクセルにはならない。



親世帯の母

「孫と同居は幸せ」が大きな同居アクセル。「親が高齢になったら子との同居が安心」や「介護は自宅で行う方がよい」は同居アクセルとならない。

■ 近居層のアクセル要素



子世帯の夫（息子）

「介護は施設ではなく自宅で行う方がよい」が近居アクセル。同居層と異なり、「親が高齢になったら子の近くに住むのは安心」という意識は、子世帯・親世帯ともに近居アクセルとはならない。



子世帯の妻（嫁）

「女性が仕事をするためには、親の援助が必要」が唯一の近居アクセル。



親世帯の父 特に近居アクセルはない。



親世帯の母

「孫と過ごす時間は幸せ」が近居アクセル。「介護は外部サービスに頼らず、家族だけで行うのがよい」と思っている。

一般

◇ 世帯別・男女別の同居者と近居者の親子観の特徴



息子夫婦同居・近居層

項目	同居層 子世帯	同居層 親世帯	近居層 子世帯	近居層 親世帯
子育て	子育ては子世代だけでなく、親にも協力を得た方が良い			
	女性が仕事をするためには、親の援助が必要だ		1.24	
親の高齢化・介護	親が高齢になったら子が近くに住んでいると安心だ			
	2.00	2.28		
	介護は施設ではなく自宅で行う方が良い		1.23	
	介護は外部サービスに頼らず、家族だけで行うのが良い		1.38	
家族関係	親世帯にとって孫と過ごす時間は幸せだ		1.42	
	1.36	1.73	2.19 2.47	
	親世帯と子世帯の妻が良い関係だと子世帯の夫は幸せだ		1.29	
	娘夫婦が親と同居した方が上手くいく			
	子が世帯を構えた後でも、必要なときは親子協力をすべきだ		1.38	
	いざと言う時に本当に頼れるのは親や子である		同居のみのアクセル要素	

2) 親・子世帯同居・近居層の親子観に見る同居アクセル

娘夫婦同居の同居アクセルはそれぞれ異なる

母は娘を援助したい母心が非常に強い、娘は親を案じる娘心（自宅での介護）、父は「孫と暮らす幸せ」がアクセルとなり、夫(子世帯)は妻と親世帯を思う気持ち、近居では、子育ての援助が家族共通の近居アクセル

■ 同居層のアクセル要素



子世帯の夫

「孫と同居は幸せ」「介護は施設ではなく自宅で行う方が良い」「娘夫婦が同居した方が上手いく」が子世帯の夫の同居アクセル。すべて、同居の親世帯や妻のことを思う要素であることが特徴。



子世帯の妻(娘)

「親が高齢になったら子との同居が安心」が最も強い同居アクセル。夫同様、親のことを思う要素がアクセルとなり、子育てなどで自分を援助してもらうことはアクセルになっていない。



親世帯の父

「孫と同居は幸せ」「娘夫婦が同居した方が上手いく」が大きな同居アクセル。「介護は施設ではなく外部サービスに頼らず、家族だけで行うのが良い」と思っている。



親世帯の母

「子育ては親に協力を得た方が良い」「女性が仕事をするためには、親の援助が必要」という娘の援助がとて強い同居アクセルになっている。(今回の登場人物の中で最も強いアクセル)

■ 近居層のアクセル要素



子世帯の夫(息子)

息子夫婦近居の息子と異なり、「親が高齢になったら子と近くに住むのは安心」は娘夫婦同居の子世帯の夫に近居アクセルとして働いている。また「女性が仕事をするために親の援助が必要」と思っている。



子世帯の妻(嫁)

「親が高齢になったら子と近くに住むのは安心」、「子育ては親に協力を得た方が良い」が近居アクセル。



親世帯の父

「親が高齢になったら子と近くに住むのは安心」、「孫と過ごすのは幸せ」だと思っている。



親世帯の母

同居の母ほどの強さはないが、娘の子育て・就業を援助することが近居アクセルになっている。

一般

◇ 世帯別・男女別の同居者と近居者の親子観の特徴



娘夫婦同居・近居層

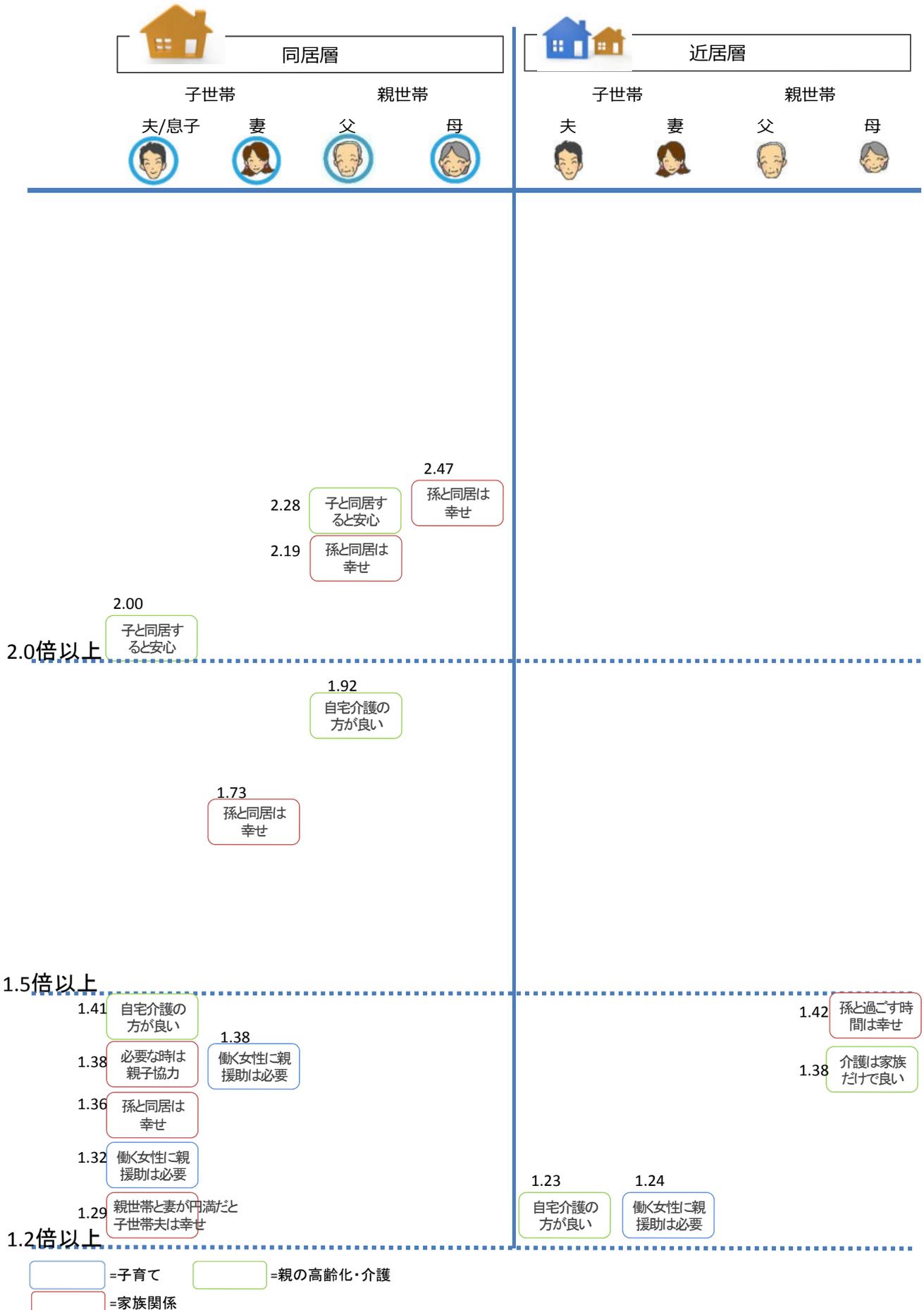
項目	内容	同居層				近居層			
		子世帯	親世帯	子世帯	親世帯	子世帯	親世帯	子世帯	親世帯
子育て	子育ては子世代だけでなく、親にも協力を得た方が良い			4.12		1.34		1.45	
	女性が仕事をするためには、親の援助が必要だ			2.76	1.44		1.47	1.80	
親の高齢化・介護	親が高齢になったら子が近くに住んでいると安心だ				1.48	1.38	1.94		
	親が高齢になったら子と同居が安心だ		2.06	2.84					
	介護は施設ではなく自宅で行う方が良い	1.36	1.39		1.25				
	介護は外部サービスに頼らず、家族だけで行うのが良い			2.00					
家族関係	親世帯にとって孫と過ごす時間は幸せだ				1.27		1.59	1.55	
	親世帯が孫と同居できることは幸せだ	1.95	1.86	2.06					
	親世帯と子世帯の妻が良い関係だと子世帯の夫は幸せだ								
	娘夫婦が親と同居した方が上手くいく	1.72	1.52	2.09		1.32		1.34	
	子が世帯を構えた後でも、必要なときは親子協力をすべきだ								
	いざと言う時に本当に頼れるのは親や子である					1.32			

同居のみの  
アクセル要素

一般

◇ 世帯別・男女別の同居者と近居者の親子親の特徴(倍率ランク)

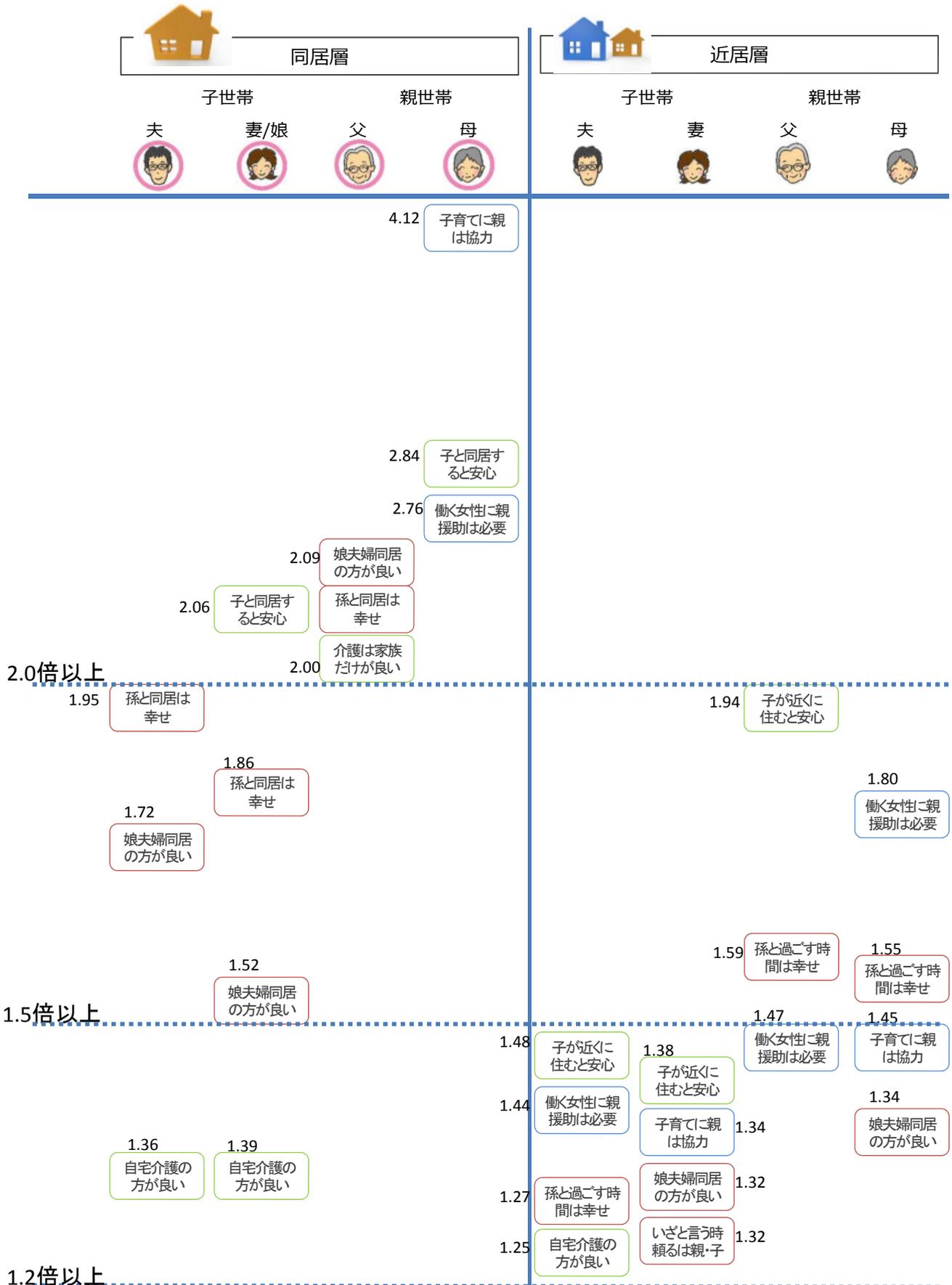
息子夫婦同居・近居層



一般

◇ 世帯別・男女別の同居者と近居者の親子親の特徴(倍率ランク)

娘夫婦同居・近居層



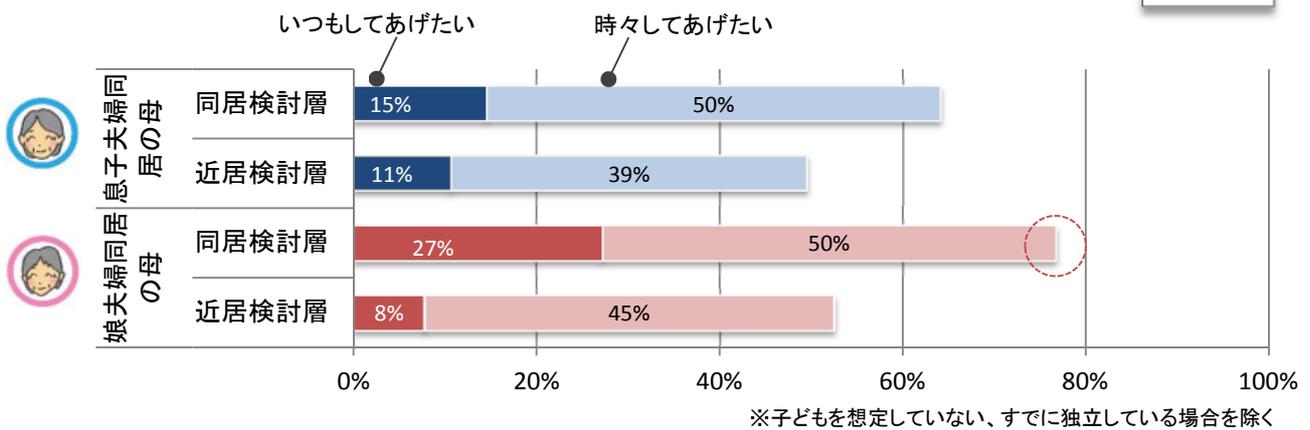
※ ロジスティック回帰分析結果より、図中の数値は、遠居と比較した倍率を表します  
オッズ比1.2倍以上の項目を掲載

2) 親・子世帯同居・近居層の親子観に見る同居アクセル

親世帯の母は、孫の世話への関与意向も高く、  
娘夫婦同居検討層の母では定常的に「孫の世話をしてあげたい」7割超える

- 同居アクセルとして最も強く現れたのは、娘夫婦同居の母が娘の子育てをサポートしたいという思い。下記は、同居検討層、近居検討層の母が孫の世話をどれくらいしてあげたいと思っているかを調べた結果です。ここでも、娘夫婦同居を検討している多くの母は、孫の世話をしてあげたいと思っていることがわかります。

◇ 親世帯の母がしてあげたい孫の世話の頻度

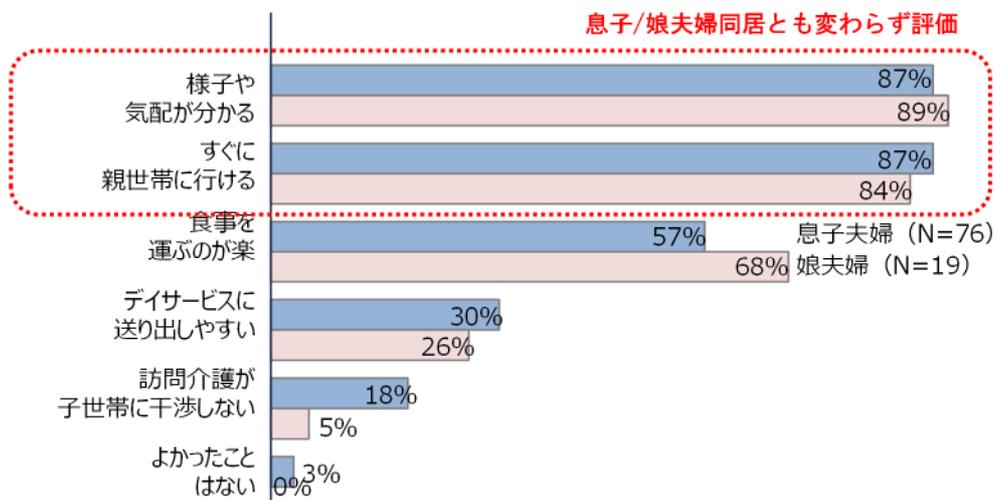


column

築30年二世帯調査結果より：二世帯同居の介護時評価は息子・娘夫婦同居とも高い

- 2014年に実施した、築30年前後の二世帯住宅にお住まいの方を対象としたアンケート調査において、建設当時の子世帯に「介護にあたって二世帯住宅でよかった」ことを伺ったところ、息子夫婦・娘夫婦同居による差は少なく、いずれの家族関係においても「様子や気配が分かる」「すぐに親世帯に行ける」といった二世帯住宅ならではの介護時メリットを高く評価していることが明らかになりました。

◇ 介護にあたって二世帯住宅でよかったこと（親世帯逝去者かつ介護経験者のみ集計）



---

## 2章 息子夫婦同居・娘夫婦同居における親・子世帯居住の交流意識

---

1章では、親・子世帯の同居前の不安は大きく、立場によって異なることがわかりました。本章では、既に親・子世帯で同居をしている家族の暮らしぶりからニーズを探ることにより、不安の解消法につなげることを目的として、イマドキ同居家族の暮らしに起きている変化、息子夫婦同居と娘夫婦同居の違いについて明らかにします。

## 1) 息子夫婦同居・娘夫婦同居 今みられる変化

同居検討層が同居前に不安を感じているが、  
ヘーベルハウス二世帯住宅の居住者は、自分のペースで暮らしている

- 前章では一般的に、親・子世帯同居をする前の段階での不安は非常に大きいことがわかりましたが、一方で親・子世帯同居をしているヘーベルハウス居住者が、「自分の生活リズムで暮らしていない」、「自分たちの価値観で暮らしていない」、「自分たちのスペースでくつろぐことができない」などと感じている割合は低く、自分たちのペースで暮らし、また満足度も高い様子わかります。

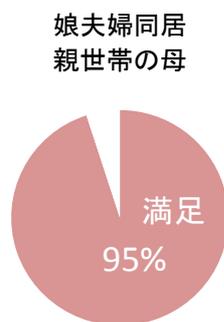
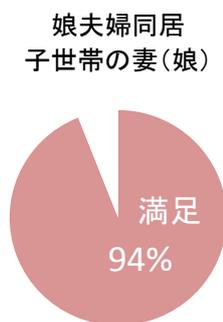
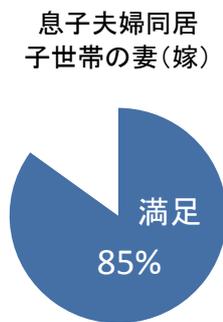
### ◇ 親・子同居家族の暮らしの意識

ヘーベル

	息子夫婦同居		娘夫婦同居	
	妻	母	妻	母
相手世帯の生活リズムに合わせ、自分のリズムで暮らしていない	6%	15%	9%	9%
相手世帯の価値観に合わせ、自分の価値観で暮らしていない	9%	16%	9%	5%
子世帯の家事を親世帯のやり方に合わせ、自分のやり方でしていない	4%	—	14%	—
自分たちのスペースでくつろぐことができない	7%	9%	7%	4%

### ◇ 親・子同居家族の同居生活に対する満足度

ヘーベル

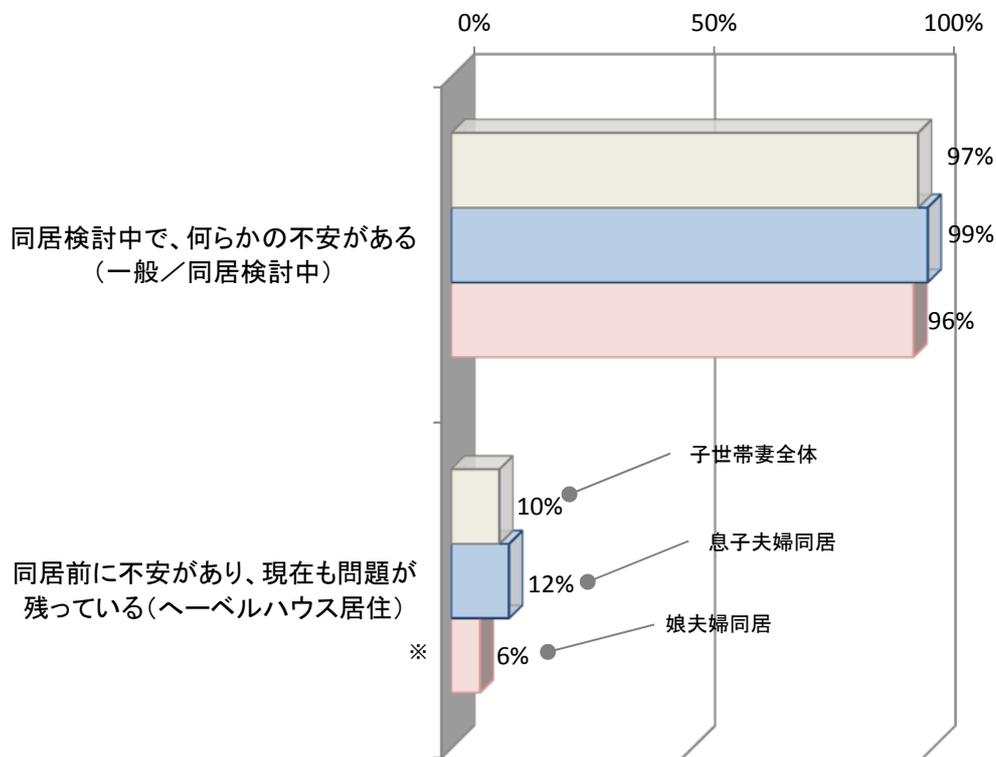


1) 息子夫婦同居・娘夫婦同居 今みられる変化

同居前に不安があったが、現在も残っているのは息子夫婦同居で12%と少ない

- ヘーベルハウスの親・子世帯同居をしている居住者で、同居前に不安があり、現在も問題が残っている割合は、子世帯の妻全体で10%、息子夫婦同居の子世帯妻でも12%です。同居前に感じた不安は、ほとんどの場合、実際の生活の中では問題となっていない様子がわかります。
- 本章では、同居前の不安を解消する空間提案につなげるために、自分たちなりのペースで満足して暮らしているヘーベルハウス居住者の暮らしの現状を明らかにすることでニーズを探ります。

◇ 同居前に持っていた不安が、同居後にどうなったか（子世帯妻）



※ ヘーベルハウスの親・子世帯居住者に対する割合

ヘーベル

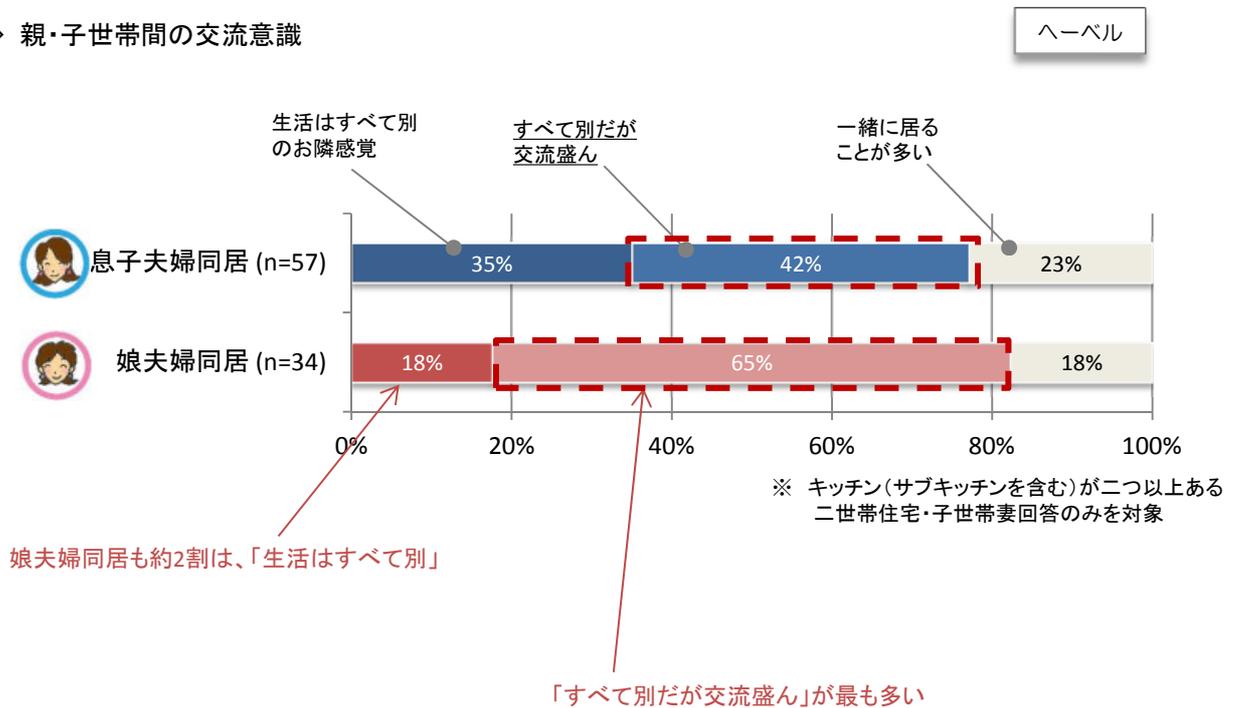
一般

1) 息子夫婦同居・娘夫婦同居 今みられる変化

親世帯・子世帯間の交流意識は「すべて別だが交流盛ん」が最も多く娘夫婦同居では6割以上

- 二世帯住宅に住む親・子世帯の交流意識を、息子夫婦同居・娘夫婦同居の視点からみてみましょう。
- 親・子世帯間の交流意識は、息子夫婦同居、娘夫婦同居ともに、生活が「すべて別だが交流盛ん」が最も多いパターンです。
- 娘夫婦同居は、「すべて別だが交流盛ん」65%と多く、基本的な生活を分けてお互い気兼ねなく暮らしながら、交流も協力も盛んな様子が思い浮かびます。一方で、娘夫婦同居でも「生活がすべて別のお隣感覚」も18%と一定数いることもわかりました。

◇ 親・子世帯間の交流意識



1) 息子夫婦同居・娘夫婦同居 今みられる変化

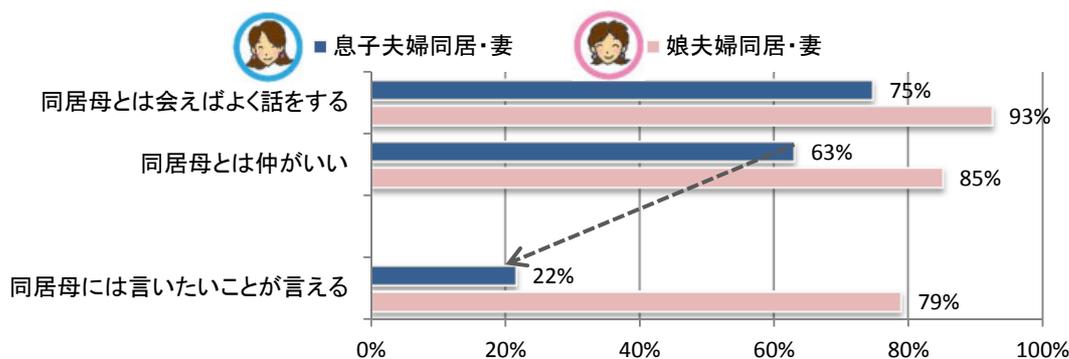
息子夫婦同居 仲は良いが、見られたくない場所や言えないことも多い嫁姑関係

<息子夫婦同居>

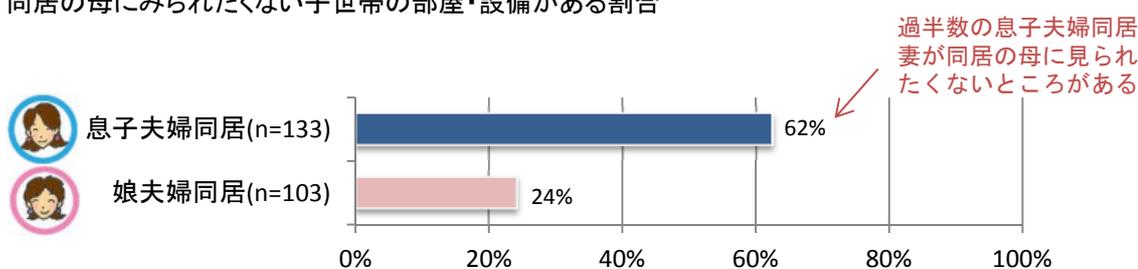
- 息子夫婦同居の嫁姑関係については、会えばよく話をして仲も良いが、母娘関係のように言いたいことを我慢せず言っているわけではないことがわかります。
- また同居の母に見られたくないところがある子世帯の妻（嫁）は62%、娘夫婦同居の24%と比べて多く、母も子世帯専用の場所を72%が見ないようにしています。仲が良いけれども、娘とは異なる嫁と姑として、上手にバランスを取って付き合い暮らしています。

◇ 子世帯の妻と同居の母との関係

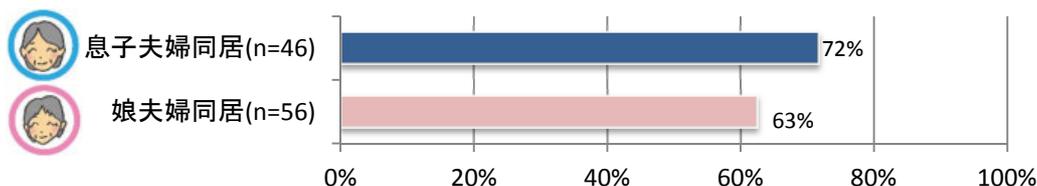
ハーベル



◇ 同居の母にみられたくない子世帯の部屋・設備がある割合



◇ 親世帯の母が子世帯専用の部屋・設備で見ないようにしているところがある割合



1) 息子夫婦同居・娘夫婦同居 今みられる変化

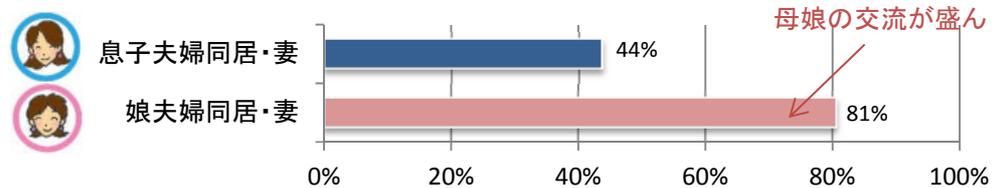
娘夫婦同居 交流が頻繁な母娘関係だが、自分の領域も守りたい

<娘夫婦同居>

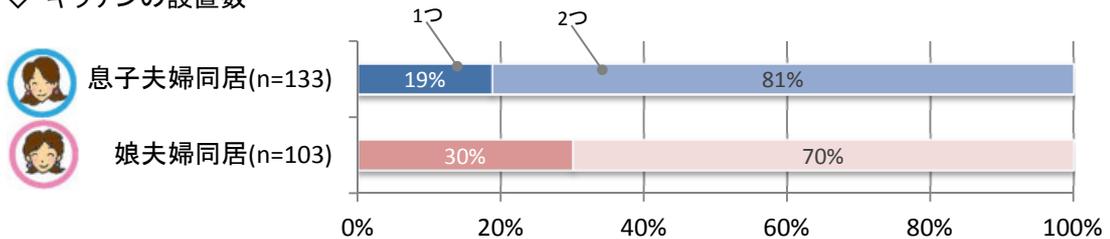
- 娘夫婦同居については、日常的に母娘でお茶を飲む、テレビを見る、買い物をするといった交流が盛んな様子がみとれます。
- しかし一方で、キッチンの設置数も2つが70%と多数を占めています。頻繁な交流の中でもすべてを一緒にするのではなく、自分の領域・生活リズムを守った生活をしたいと考える人が多いと思われます。

へーベル

◇ 子世帯の妻と同居の母が二人で交流がある割合（お茶を飲む・テレビを見る・買い物をする）



◇ キッチンの設置数



わたしの気持ち



キッチンを2つにした理由、1つにした理由（子世帯の妻・自由回答より）

**娘夫婦同居 キッチン2つの理由**

- キッチンそれぞれの世帯に必要です。食事の時間帯が違う事が大きい理由ですが、一番の理由はお互いストレスを溜めないで毎日食事の支度や片付けなどが出来るからです。
- 夫が気兼ねなく、使えるように2つにした
- それぞれにキッチンをおきました。母もまだ60代で元気で、私も専業主婦なのでキッチンだけでなく、お互いに生活は完全自立にしました。

**娘夫婦同居 キッチン1つの理由**

- 母が台所仕事が好きではないため、1つで十分と考えた。

1) 息子夫婦同居・娘夫婦同居 今みられる変化

親世帯・子世帯の食事スタイルはキッチン数にとらわれず多様化している

- 親・子世帯同居のキッチン、二世帯住宅のように2つあり各世帯がそれぞれ持つパタンと、一体型同居のように1つのパタンがあります。
- キッチンが1つだと、両世帯の食事は一緒、2つあると別々になるイメージがありますが、実際の食事スタイルには、キッチンが2つあっても一緒に食事をとるパタンも存在します。特に娘夫婦同居でその割合は全体の24%になります。それらは子世帯側が共働きなどの状況により、親世帯側で両世帯の食事が用意される場合もありますし、親世帯が高齢だったり片親だったりという理由で食事が子世帯側で用意される場合もあります。
- 食事のスタイルは、キッチン数だけにとらわれず、家族のライフステージによって、その時々に変化している可能性のあるものです。だからこそ、親・子世帯同居のための住まいにはキッチンを2つ用意し、柔軟に使いこなすことがカギかもしれません。

◇ 息子夫婦同居・娘夫婦同居にみるキッチン数と食事スタイルの関係

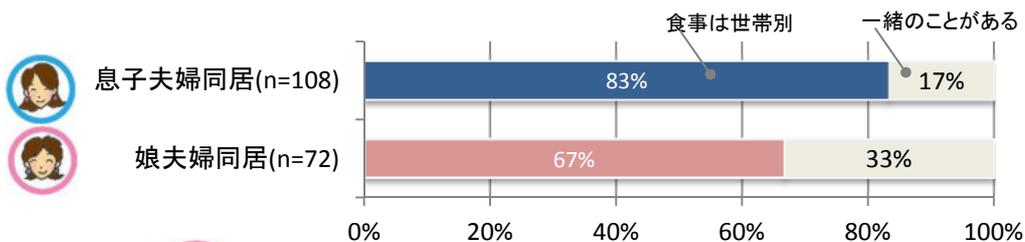
ヘーベル

	キッチン数	食事は別	食事が一緒のことがある		
		朝食別 夕食別	朝食別 夕食一緒	朝食一緒 夕食別	朝食一緒 夕食一緒
息子夫婦同居 (n=133)	1つ	3%	11%	2%	4%
	2つ	67%	13%	0%	0%
娘夫婦同居 (n=103)	1つ	6%	7%	1%	17%
	2つ	47%	13%	2%	9%

息子夫婦同居の13%

娘夫婦同居の24%

◇ キッチンが2つある場合の平日の食事スタイル



※ キッチン(サブキッチンを含む)が二つ以上ある二世帯住宅・子世帯妻回答のみを対象

わが家の場合

**キッチンが2つあっても、食事を一緒にしているケース** (自由回答より)

**娘夫婦同居 キッチンが2つ**

- ・ 母は80代で家事ができないので、すべての食事は子世帯のキッチンで一緒にしています。(40代・フルタイム就業)
- ・ 食費と準備の手間を公平に分け合うという観点で、それぞれに準備している。平日は分担して持ち寄り、休日はその日手の空いている人がまとめて両世帯分作る、ことが多い。(30代・休業中)
- ・ 食事は子世帯が作る所以キッチンが親世帯をつかいます。そのほうが(作る人と片づける人で分担できるので、公平で)無駄がないと思います。(40代・専業主婦)
- ・ 親世帯が主として作り、子世帯はそれを手伝う形。(30代・フルタイム就業)

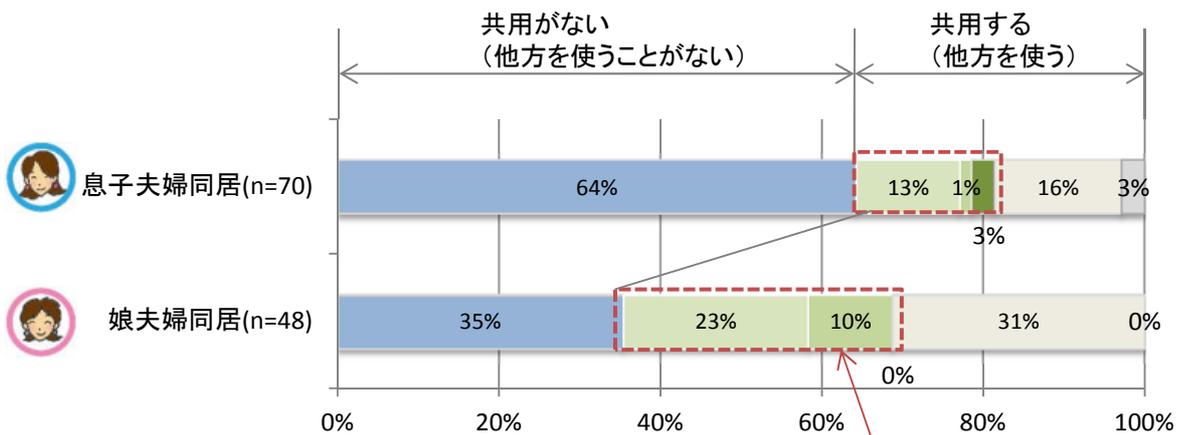
1) 息子夫婦同居・娘夫婦同居 今みられる変化

キッチンが2つあり他方も使う共用状態が33%で発生している娘夫婦同居

- 親世帯・子世帯の間での、キッチンの使い方はどうでしょうか。それぞれの世帯が別々に持って、「他方を使うことはない」という完全分離は息子夫婦で64%と多数派です。
- 娘夫婦同居では完全分離が35%に対し、「他方を使っても構わない」「他方も自由に使える」「区別はない」の合計が33%と、完全分離と同程度います。

◇ 息子夫婦同居・娘夫婦同居別 親世帯・子世帯間のキッチンの使い方

へーベル



- それぞれの世帯が別々に持って、他方は使わない
- それぞれの世帯が別々に持っているが、必要に応じて他方を使っても構わない
- それぞれの世帯が別々に持っているが、他方も自由に使える
- 家に2つあるがどちらの世帯のものという区別はなく、好きな時に使える
- 家に1つで、両世帯で使っている
- その他

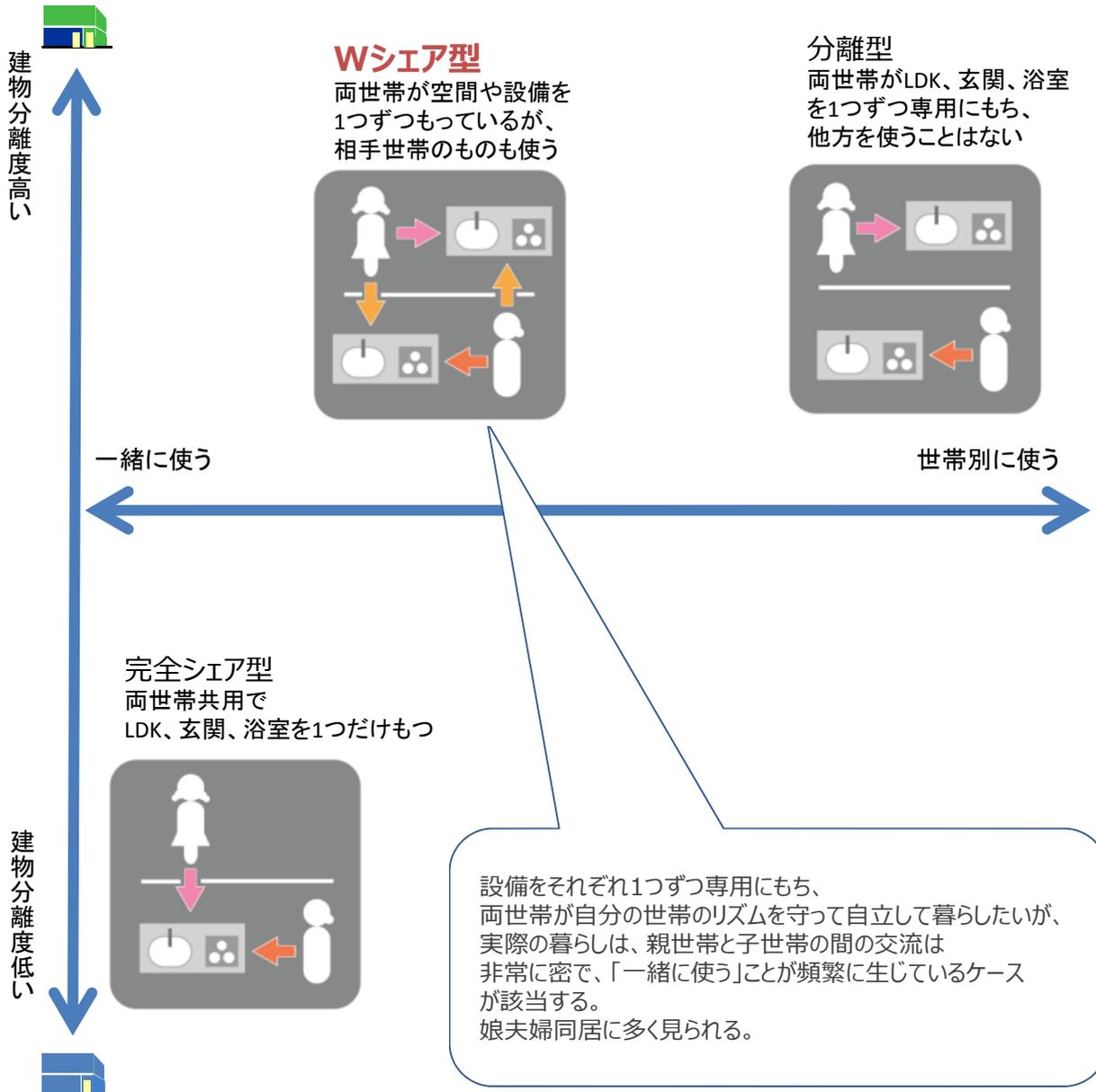
キッチンを各世帯で持っているが、他方も使う割合は、娘夫婦同居の33%

1) 息子夫婦同居・娘夫婦同居 今みられる変化

両世帯がそれぞれ1つずつの空間や設備をもつが、相手世帯のものも使う「Wシェア型」

- これまでヘーベルハウスでは二世帯住宅の提案を通して、暮らしに適した空間や設備の使い方を実現するために、建物分離度（ゾーニングや設備数）を工夫してきました。それは、両世帯が空間・設備を1つずつ専用にもち他方を使うことはない「分離型」、世帯共用で1つだけもつ「完全シェア型」という、使い方と建物分離度がリンクしているものでした。現在でも息子夫婦同居では、嫁姑関係に配慮した「分離型」が主流となっています。
- しかし、これまで見てきたような、特に娘夫婦同居に見られるキッチンの使い方は、その2種類にはあてはまらず、建物分離度は高いが両世帯が2つの空間や設備を一緒に使う「Wシェア型」が新しく存在していることがわかります。
- 「Wシェア型」は、両世帯が別々にLDKや浴室、洗濯機をもっていますが、他方の世帯のものも使います。建物分離度は高いのですが、「分離型」に比べ一緒に使うことが多く、娘夫婦同居に多くみられます。

◇ 建物分離度と使い方の関係

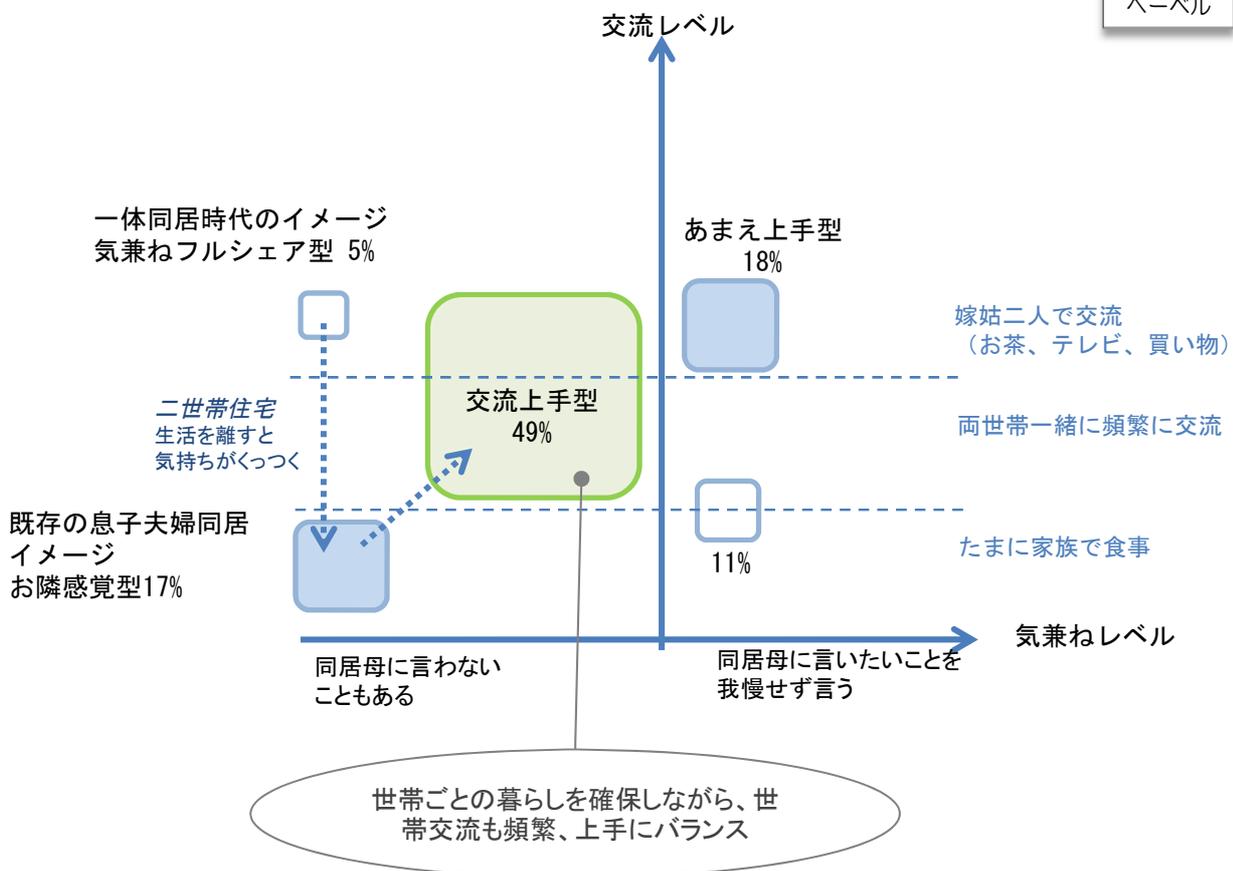


## 2) 近年の息子夫婦同居・娘夫婦同居のかたち分類

同居のかたちは近居では実現できない頻繁な交流志向へとシフト  
息子夫婦同居の関係は「交流上手型」が主流

- ここで、イマドキの息子夫婦同居、娘夫婦同居の嫁姑、母娘関係に焦点を当て、「交流レベル」×「気兼ねレベル」を軸にタイプ分けをすると、以下のようになりました。
- 息子夫婦同居では「交流上手型」49%が主流です。両世帯の交流がありますが、嫁は姑に言いたいことを何でも言っているわけではありません。交流しながらもバランスよく付き合いをしています。
- 嫁姑が二人だけでお茶を飲んだり交流はなく、姑に言いたいことを何でも言っているわけではない「お隣感覚型」は、既存の息子夫婦同居の二世帯住宅のイメージに相当します。嫁は世帯同士の頻繁な交流を望んでいませんが、たまに家族で食事をするような付き合いをしたいと思っています。「お隣感覚型」は、既に息子夫婦同居の主流ではなく17%に留まります。
- 都心に住む親世帯と（近居の範囲では土地の入手が難しいため）郊外に家を持つ子世帯が主流の時代に生まれた二世帯住宅は、現在、より交流が多い側にシフトしている様子が見られます。

息子夫婦同居／嫁姑関係 交流意識チャート



わたしの気持ち



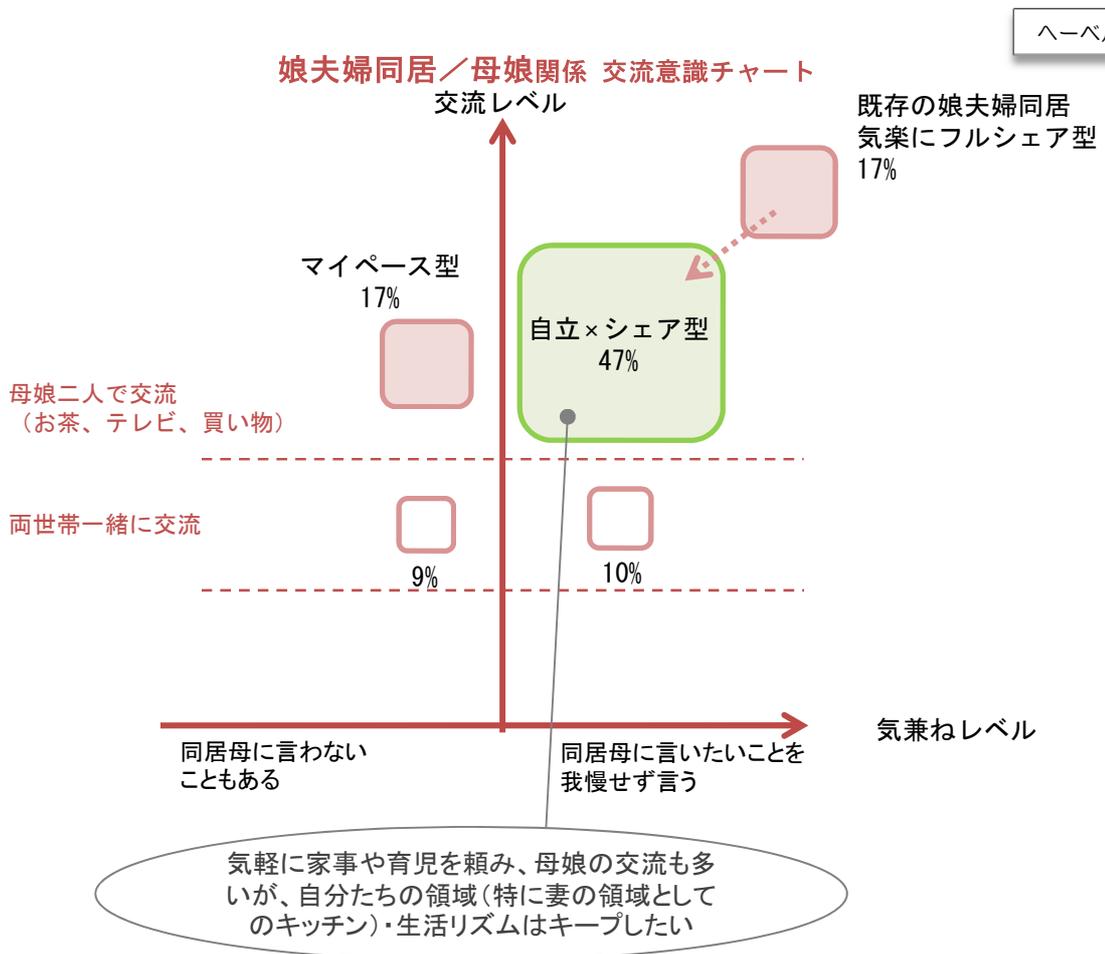
### 交流上手型 嫁の気持ち (自由回答より)

子どもが小さいときは、一緒に育児をしてもらい、とても助かった。料理を作って持っていくと、とても喜んでくれるのが、嬉しい。嫌な事も言われたことがありますが、今まで、いろいろ助けてもらったし、義母も私に対して我慢していると思うので、お互い様です。

2) 近年の息子夫婦同居・娘夫婦同居のかたち分類

娘夫婦同居の関係は自立×シェア型が主流、心と生活の距離を分離

- 娘夫婦同居は「自立×シェア型」が47%と多数派です。母娘が二人だけでお茶を飲んだり買い物をしたりしており、交流は頻繁で、同居の母に言いたいことを我慢せず言いますが、べったり一緒なのではなく、キッチン等各世帯に持っていることに代表されるように、自立意識も持っています。自立意識を持って、心と生活の距離を分離し、張り切りすぎない協力関係を築いています。
- 初代の娘夫婦と住まう家DUETで提案した「オモテ分離家事融合」にみられるような、キッチン・浴室が一つのタイプは「気楽にフルシェア型」に相当し、娘夫婦同居の17%を占めます。
- 娘夫婦同居は家事融合というイメージから既に主流は「自立×シェア型」に移っています。母娘の心の距離は近いが近づきすぎず、自立して付き合いたいという様子は、下記の自由回答からも想像できます。



わたしの気持ち



**自立×シェア型 娘の気持ち** (自由回答より)

同居の実母が何でも知りたい、力になりたいという気持ちはわかるけど、自分で解決したりしたいのにぐいぐい入り込んでくる感じで、生活の距離が心の距離ではないのにと思った。

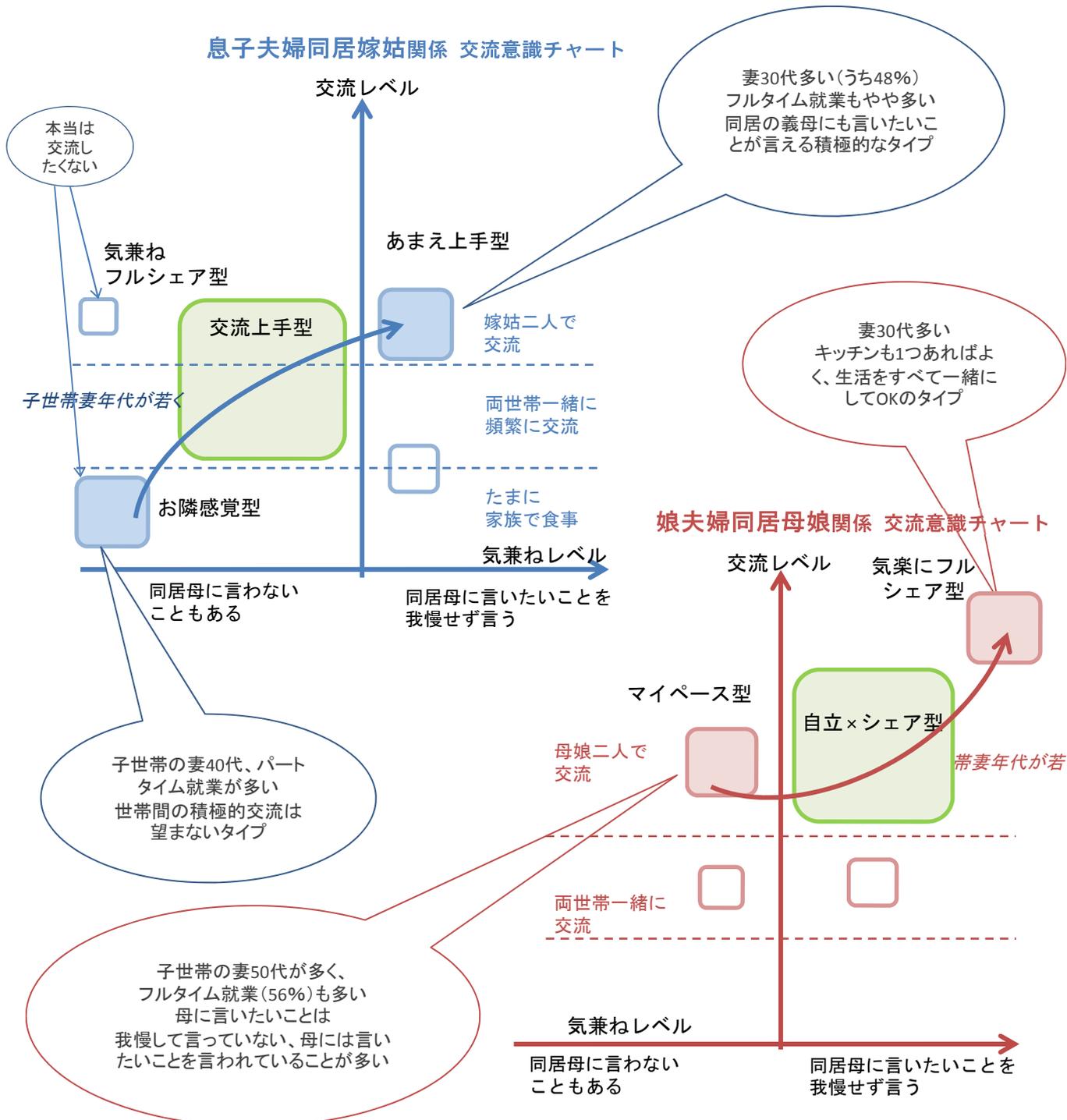
嬉しかったこと。子育てで悩んでいるときに相談にのってくれた。いつも頑張っているといってくれた。夫をたてているとわかってくれた。

2) 近年の息子夫婦同居・娘夫婦同居のかたち分類

「あまえ上手型」「気楽にフルシェア型」には、子世帯の妻30代が多い

- 息子夫婦同居の「あまえ上手型」は、嫁姑が二人でお茶を飲んだり買い物をしたりする関係を築いています。嫁は30代が最も多く、フルタイム就業も多い傾向があります。同居の姑にも言いたいことが言える、娘に近い存在が特徴です。
- 娘夫婦同居の「マイペース型」は、母娘の二人だけの交流はありますが、同居の母に言いたいことを我慢して言わず、母には言いたいことを言われていることが多いようです。子世帯の妻が50代の場合が多く、またフルタイム就業も多いです。
- 「あまえ上手型」「気楽にフルシェア型」には、子世帯の妻30代が多い傾向があります。交流があつて気兼ねがない親子関係（右上方向）には、概して子世帯の妻が若い割合が多くなります。

息子夫婦同居嫁姑関係 交流意識チャート



2) 近年の息子夫婦同居・娘夫婦同居のかたち分類

息子夫婦同居「交流上手型」、娘夫婦同居「自立×シェア型」は、それぞれ中間の意識をもつ息子夫婦同居「あまえ上手型」は、娘夫婦同居に近い親子関係

- 息子夫婦同居、娘夫婦同居ともに8割以上が「自分のリズムで暮らしている」
- 息子夫婦同居では主流の「交流上手型」は、全体的に「あまえ上手型」と「お隣感覚」の中間に位置します。嫁姑が二人でお茶を飲むことがあるのは「交流上手型」で26%、一方「あまえ上手型」では75%、「お隣感覚型」は母と二人でお茶を飲むことはありません。「あまえ上手型」の嫁は、娘夫婦同居と同じような暮らしの意識であることもわかります。
- 娘夫婦同居についても主流の「自立×シェア型」は、「気楽にフルシェア型」と「マイペース型」のほぼ中間に位置します。同居の母に気軽に家事を頼んでいる割合は、「自立×シェア型」で70%ですが、「気楽にフルシェア型」では100%、「マイペース型」は少なく41%です。

◇ 息子夫婦同居・娘夫婦同居にみるタイプ別 暮らしの意識・行動（子世帯の妻）

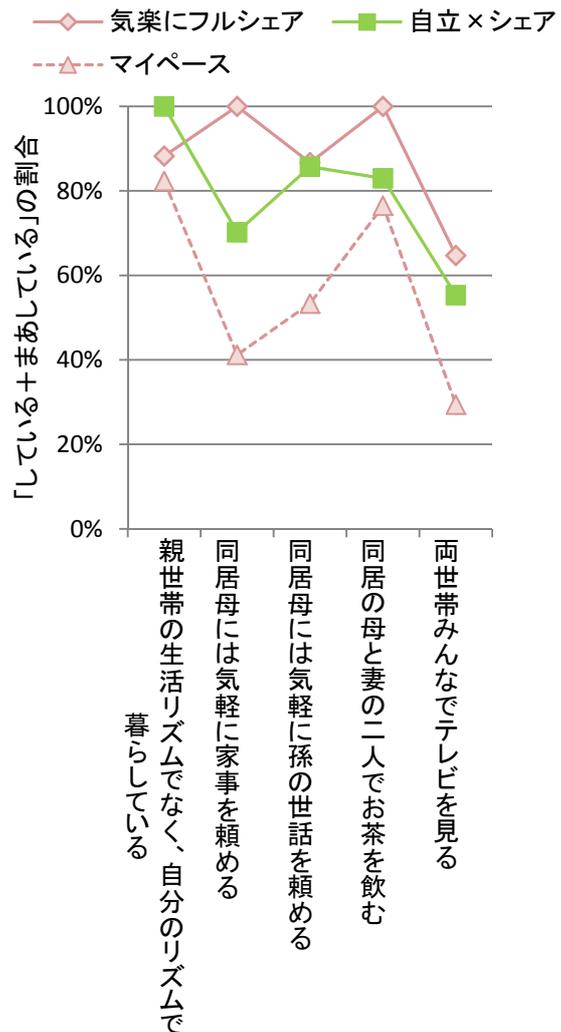
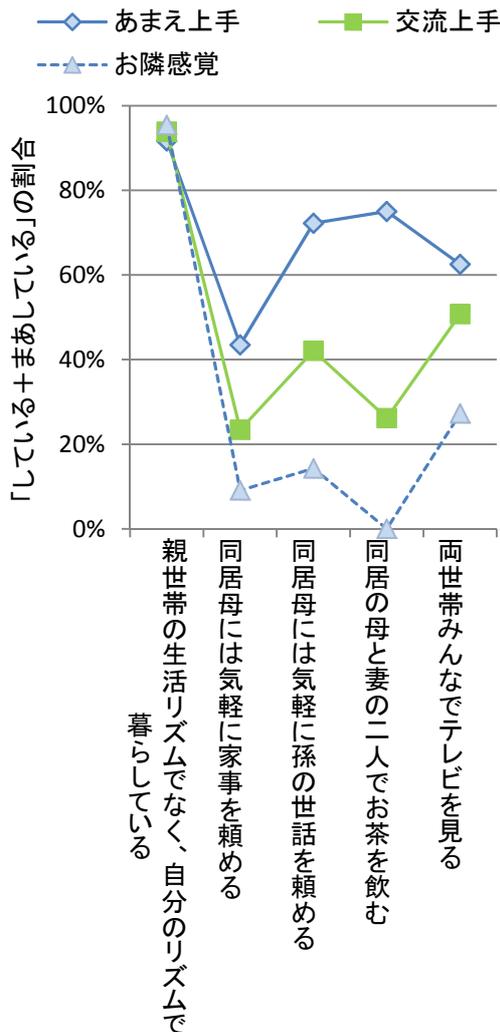
へーベル



息子夫婦同居



娘夫婦同居



2) 近年の息子夫婦同居・娘夫婦同居のかたち分類

娘夫婦同居「自立×シェア型」は、娘夫婦同居の中で最も気兼ねなく、人を招いたり外出できる

- 息子夫婦同居で最も、親や友人を招くことへの気兼ねが大きいのは「交流上手型」です。嫁姑の交流もあがりながらも、嫁は姑に言いたいことを我慢しながら気を遣い上手に暮らしている様子がうかがえます。「あまえ上手型」は気兼ねが少なく、娘夫婦同居の「自立×シェア型」と比較しても変わらないレベルです。
- 実の母娘関係である娘夫婦同居ですが、「気楽にフルシェア型」が最も親や友人を招くことへの気兼ねが大きいです。「気楽にフルシェア型」は、家族関係に対する気兼ねは少ないのですが、キッチンが1つで暮らしを1つにしていることから、外部から人を招くことには気兼ねが大きくなると思われます。一方で、母娘の交流が密でありながらも自立志向である「自立×シェア型」がもっとも、気兼ねなく親や友人を招いたり外出したりできています。

◇ 息子夫婦同居・娘夫婦同居にみるタイプ別 人を招く・外出の気兼ね

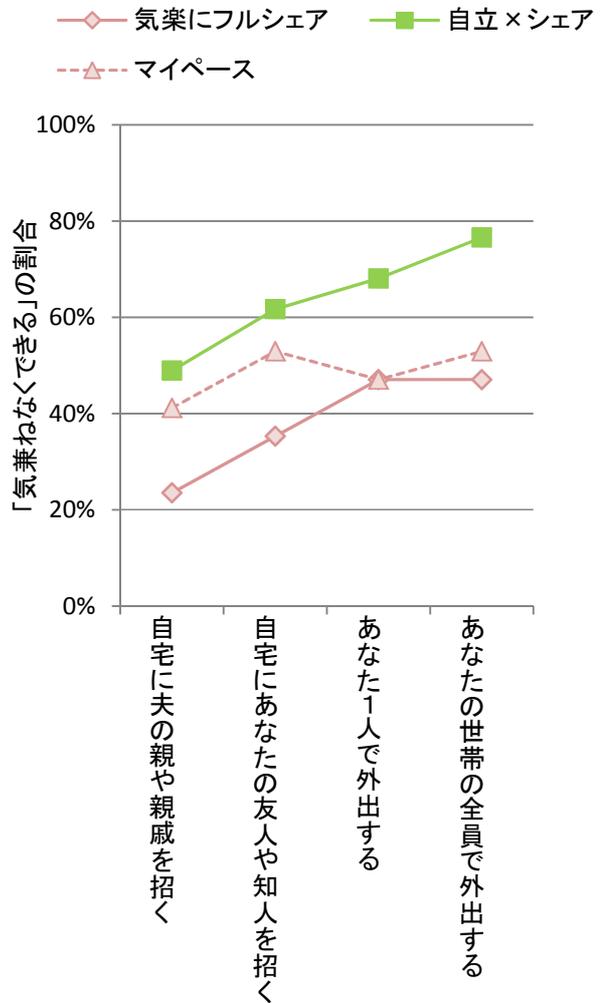
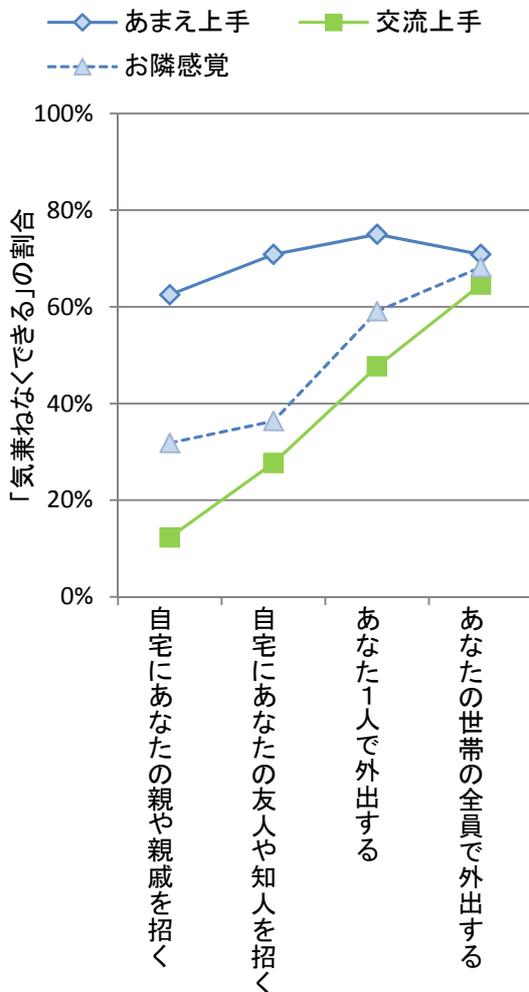
へーベル



息子夫婦同居



娘夫婦同居



2) 近年の息子夫婦同居・娘夫婦同居のかたち分類

娘夫婦同居「自立×シェア型」には、各世帯が持っているが他方も使う『Wシェア』が多い傾向

- 息子夫婦同居の「交流上手型」と娘夫婦同居「自立×シェア型」について、空間・設備の使用状況を比べると、特に、リビング、キッチン、洗濯機をはじめとして、浴室、玄関、洗面台、物干しでも、娘夫婦同居「自立×シェア型」の人たちで、各世帯が別々に持っているが、他方も使う『Wシェア』スタイルが多いことがわかります。

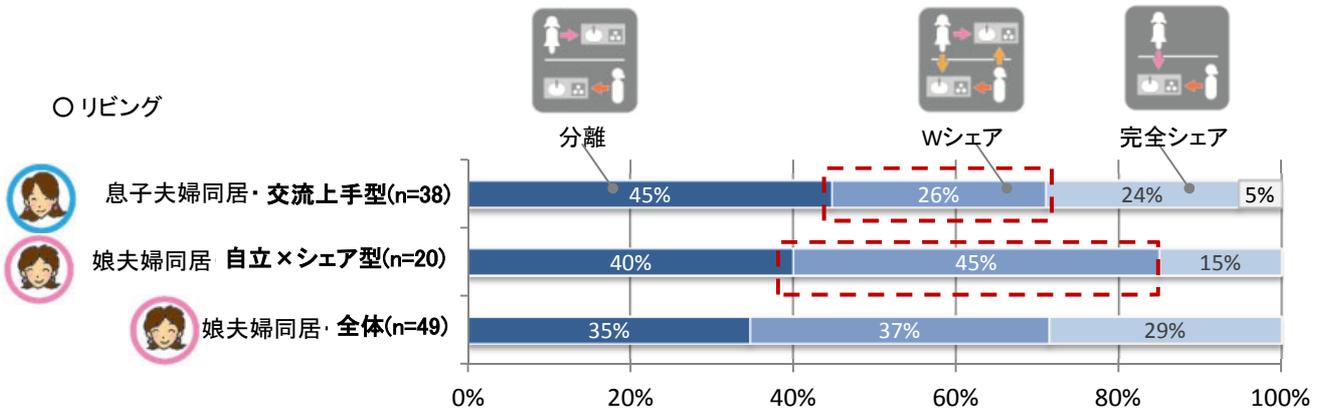
※ 『Wシェア』についてはP43 参照

◇ 息子夫婦同居・娘夫婦同居にみる空間・設備の使用状況

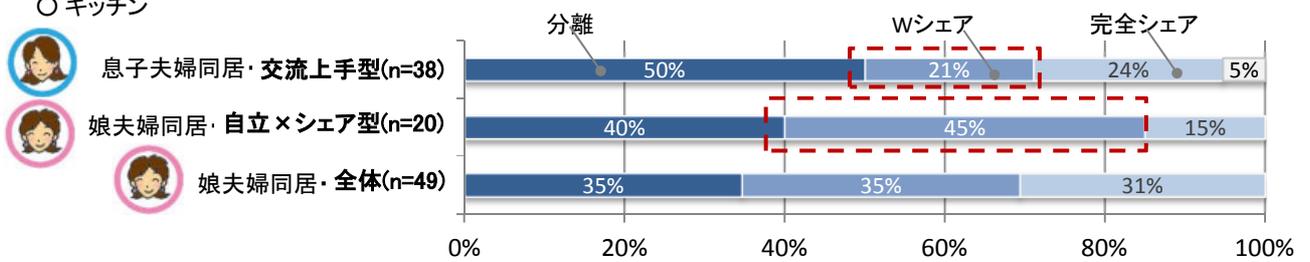
へーベル

- それぞれの世帯が別々に持っていて、他方は使わない(分離)
- それぞれの世帯が別々に持っているが、他方も使う(Wシェア)
- 家に1つで、両世帯で使っている(完全シェア)
- その他

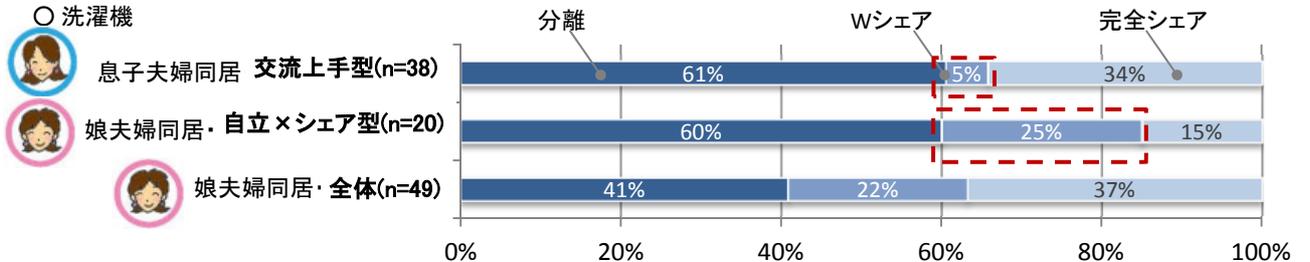
○ リビング



○ キッチン



○ 洗濯機





---

### 3章 親・子世帯の同居に配慮する空間提案

---

本章では、1章で確認した同居前の不安に対し、2章のヘーベルハウス居住の親・子世帯同居からみた暮らしのニーズを重ねながら、不安を解消するための住まいを提案します。

## 1) 同居の不安と住まいにおける配慮

同居前の不安は、二世帯住宅プランテクニックで解消

- これまで述べてきたように、息子夫婦同居・娘夫婦同居の関係で、あるいは親世帯父・母・子世帯夫・妻の立場によって持っている不安は異なります。さらにそれぞれの中でも交流意識が多様化しており、二世帯住宅として推奨するプランを一つに定めることは困難です。

しかし、各不安項目別に見ていくと、本調査で見られた様々な不安はその多くを減少させ、空間に対するニーズを満足させるプランのテクニックが存在し、ヘーベルハウスの提案に既に生かされています。本章では不安項目を減少させるこのような設計上の工夫を整理し、さらに実態調査で見られた「Wシェア」のニーズに対応したプランニングを探ります。

### 1) 世帯別にLDKを持ち、水廻りを分けることが不安解消の基本

同居の多くの不安は、二世帯住宅が誕生した際の基本的なコンセプトである「世帯別に空間を設け、生活を分ける」ことで減少すると思われます。さらに細かく見ていくと、それぞれの不安項目別に最優先で分けなければいけない部分が何か、例えばキッチンや浴室などを世帯で分けるべきかが明確になります。逆に不安がない部分は、共用として1つにする選択肢もあり得ます。

### 2) 交流で立ち入る範囲をゾーニングし、世帯専用や個人の空間と分ける

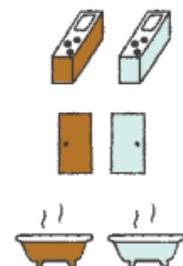
世帯別にすべての空間や設備を分けたとしても、世帯間で協力を進めていくと、孫の様子を見に行ったり、物干しスペースを共用したりして相手の世帯に入ることが増えてきます。しかし孫の世話はしてほしいが、見られたくない場所がある、というニーズも息子夫婦同居を中心に根強くあります。このようなニーズの場合は、単に世帯別に空間を分けるだけでは不安を解消することはできません。立ち入ることを想定する範囲に見られたくない空間を配置しないなどの工夫が必要となります。

### 3) 在宅介護への対応が、親世帯の不安を解消する

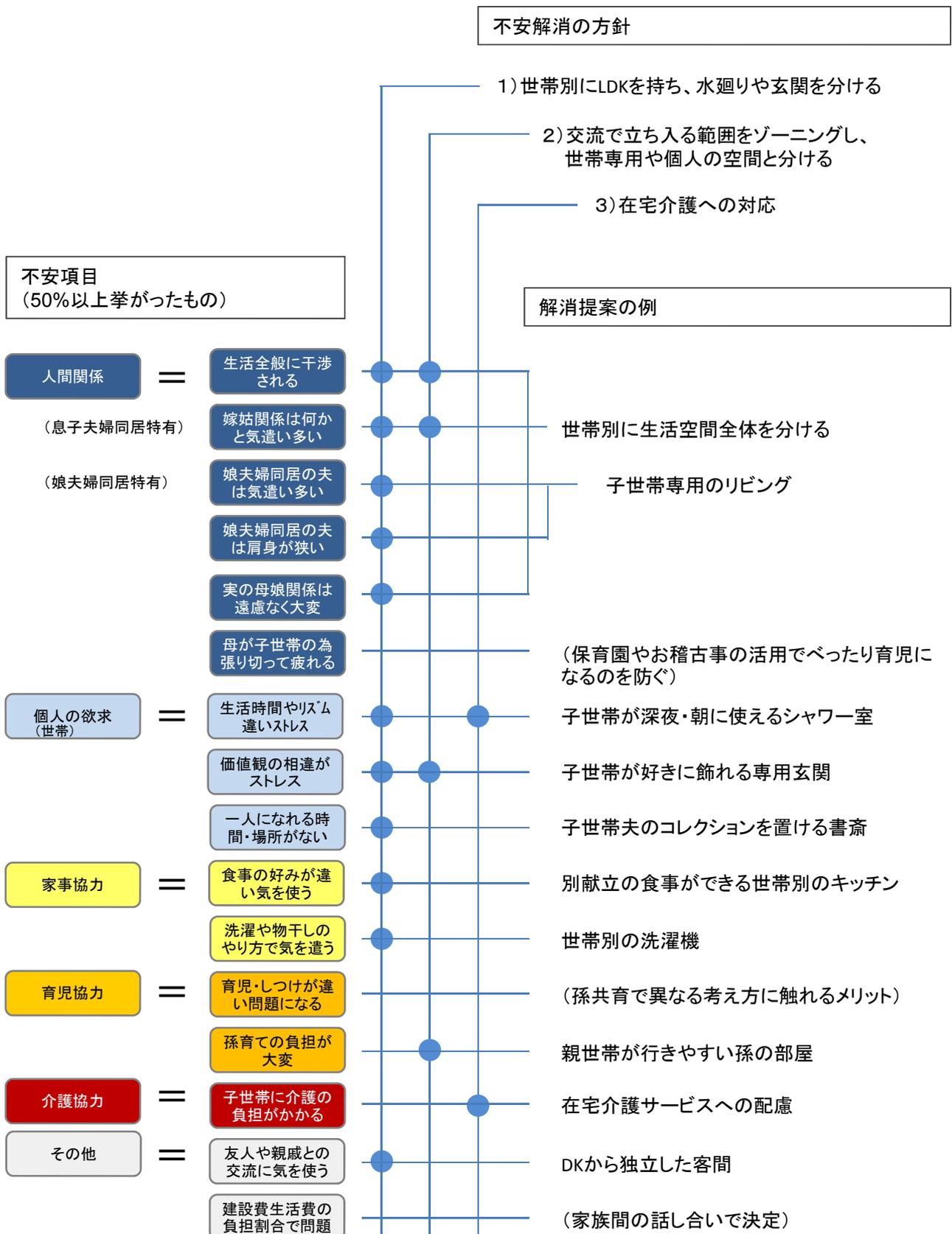
同居することで介護が必要になった場合、子世帯に大きな負担を掛けてしまう、という不安が親世帯の不安の1位です。これを解消するには介護を子世帯のみに頼らず、一人・夫婦暮らしであれば活用するであろう在宅介護サービスを、二世帯同居であっても活用することが必要になります。

### 4) 水廻り2つでも「Wシェア」して上手に協力

水廻りを分けていても、どちらかの世帯が両方を活用する、以前には想定しなかったスタイルが実態調査で明らかになってきました。このような使い方を設計条件としたとき、間取りがどのように変わるべきなのか、その可能性を探ります。



◇ 不安項目別の設計提案による解消法



1) 同居の不安と住まいにおける配慮

子世帯の夫が自由時間を過ごすのは子世帯リビング・ダイニングが最も多い

生活リズムの  
違いが心配

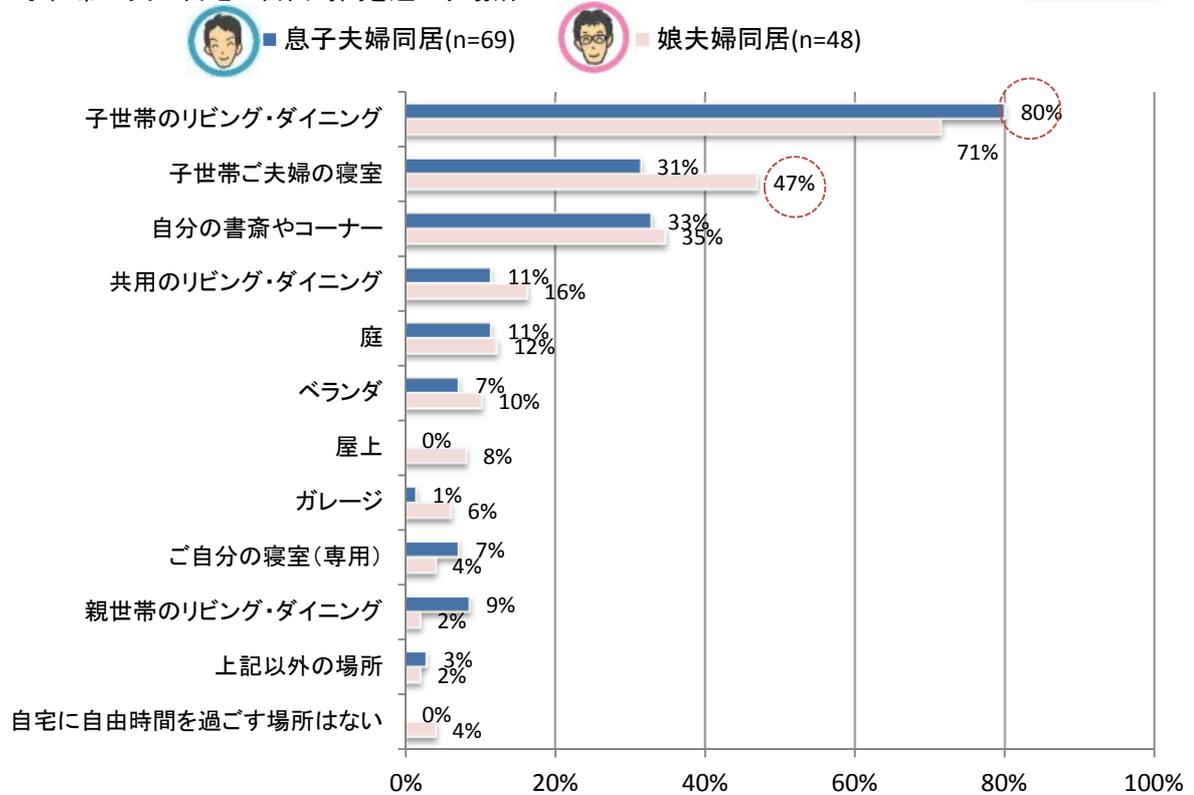


同居前  
の不安

- 本項1)では、同居前の不安を解消するためにはどのような住まいを考えたらよいか、暮らしのニーズとともに提案します。
- 親世帯、子世帯、どの立場のひとにとっても「生活リズムの違いがストレスになる」のではないかと不安は大きなものです。同居をしている子世帯の夫が自由時間を過ごす場所を見てみると、「子世帯のリビング・ダイニング」や「子世帯夫婦の寝室」「自分の書斎やコーナー」で過ごしていることがわかります。世帯専用のスペースは、お互いの生活リズムの違いを吸収するための重要なポイントです。

へーベル

◇ 子世帯の夫が自宅で自由時間を過ごす場所



同居の不安と住まいにおける配慮：提案例『子世帯専用のリビングダイニング』

- 「生活リズムの違いがストレスになる」不安の解決策として、気兼ねなく夕食をとれ、くつろぐことができる子世帯専用のリビング・ダイニングを計画します。



子世帯専用のリビングダイニング

1) 同居の不安と住まいにおける配慮

子世帯専用の玄関、キッチンがあると、人を招く・外出する際の気兼ねが減る

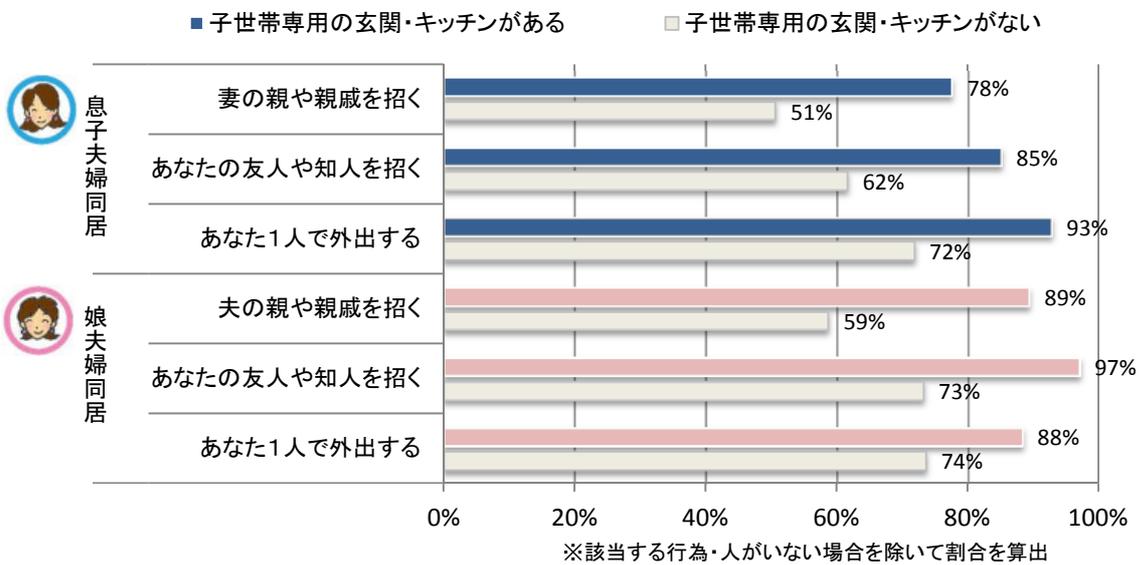
友達を家に呼びにくくなりそう



■ 親世帯と子世帯が同居をした際に、もう一つ気になるのは「人を招く」「外出する」際の気兼ねでしょう。しかし、下図を見ると、子世帯専用の玄関・キッチンがある場合には、ない場合に比べてその気兼ねが少なくなることがわかります。例えば、息子夫婦同居の妻が「友人や知人を招く」とき、子世帯専用の玄関・キッチンがある場合には85%が気兼ねがないと回答しています。

◇ 人を招く・外出する際に親世帯に気兼ねがない割合(二世帯住宅の子世帯妻)

へーベル



同居の不安と住まいにおける配慮：提案例『子世帯専用のリビングダイニングキッチン・玄関』

■ 子世帯専用の玄関やLDKがあると、配偶者の親や兄弟、友人を呼ぶ時も気兼ねが少なくなります。



直接来客を迎えられる子世帯専用の玄関

1) 同居の不安と住まいにおける配慮

娘夫婦同居の子世帯では、息子夫婦同居と異なり  
「夜遅くに気兼ねせずに入浴したい」ために専用の浴室・シャワー室を設置

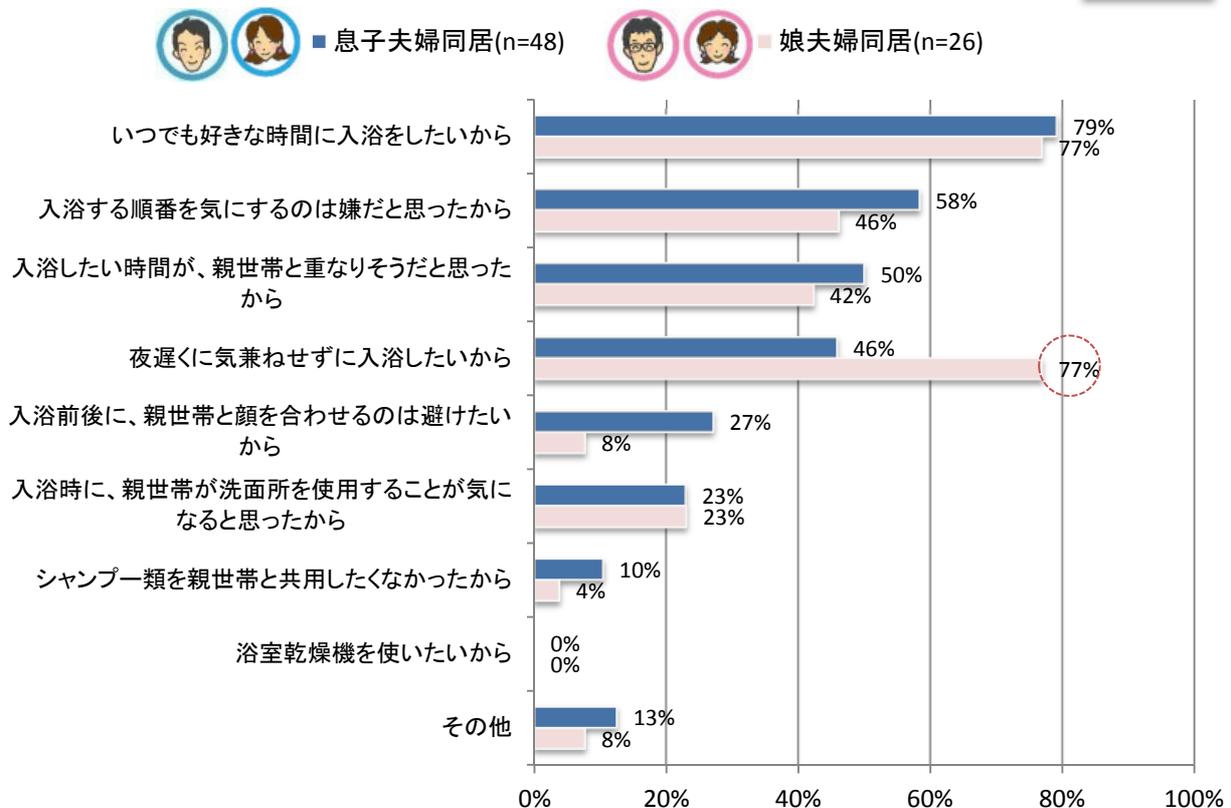
生活リズムの  
違いが心配



- 娘夫婦同居の子世帯で上位にあがる「娘夫婦同居の夫は気遣いが多くなる」という不安。日々の暮らしのなかで「生活リズムの違い」とともに夫の気遣いとして思い浮かべられるのは、入浴ではないでしょうか。
- 専用の浴室やシャワー室を設けた理由で、1位は「いつでも好きな時間に入浴をしたいから」ですが、娘夫婦同居では同率で「夜遅くに気兼ねなく入浴したいから」77%で、息子夫婦同居と大きく異なることがわかります。帰宅が遅くなり、深夜に入浴せざるを得ない子世帯の夫の気遣いによる不安を解消するためには、専用の浴室やシャワー室の設置が有効です。

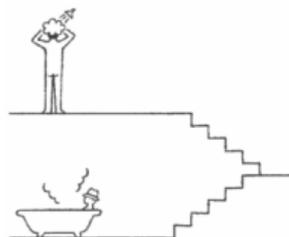
◇ 子世帯に専用の浴室・シャワー室を設けた理由

ハーパー



同居の不安と住まいにおける配慮：提案例『世帯別の浴室』『シャワー室』

- 子世帯の夫が入浴に関して抱く不安の解決策として、世帯別に浴室を計画します。
- スペースや予算の関係上、世帯別に浴室を計画することが難しい場合には、シャワー室を計画することもお勧めです。



世帯別の浴室



シャワー室

1) 同居の不安と住まいにおける配慮

子世帯の夫の専用スペースのニーズは、特に娘夫婦同居の夫で高く8割を超える

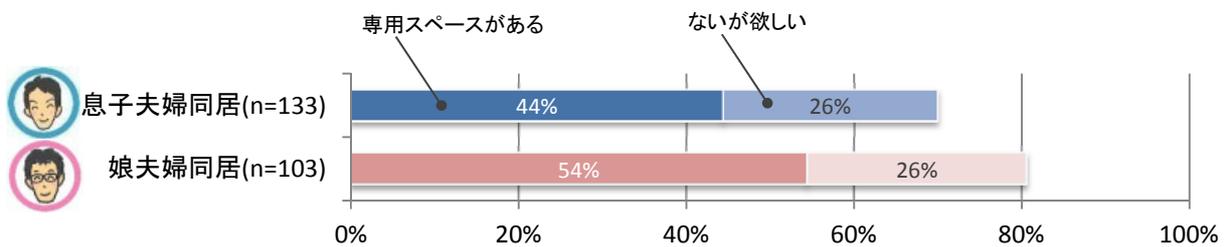
一人の居場所があるか心配



- 書斎や趣味コーナーなどの子世帯夫専用のスペースの要望も高く、すでにある、ないが欲しいをあわせると、娘夫婦同居では80%に達します。

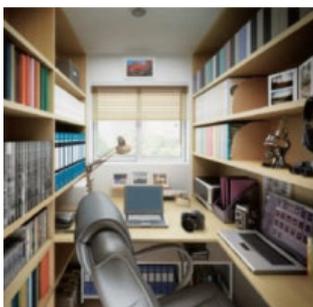
◇ 子世帯の夫の専用スペース(書斎や趣味コーナー)の有無と希望

ヘーベル



同居の不安と住まいにおける配慮：提案例『子世帯夫専用の書斎』

- 子世帯の夫の専用スペースとして、書斎や趣味コーナー、また屋上などを計画して、子世帯の夫が一人になれる不安を解決します。



子世帯夫がこもれる書斎



コレクションを並べたスペース



のんびりできる屋上

1) 同居の不安と住まいにおける配慮

オモテ = 社会的規範によるこだわりは減少し、  
息子夫婦同居・娘夫婦同居も玄関数の選択がより自由に暮らしを重視

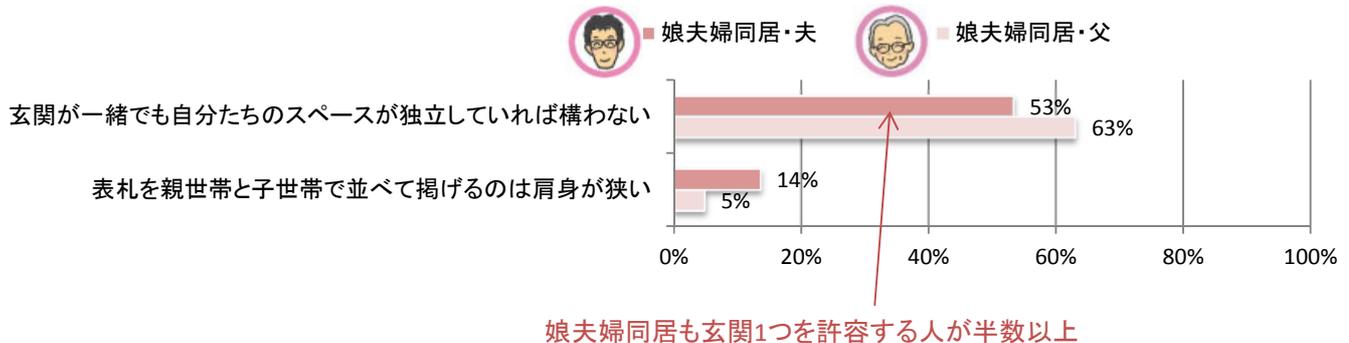
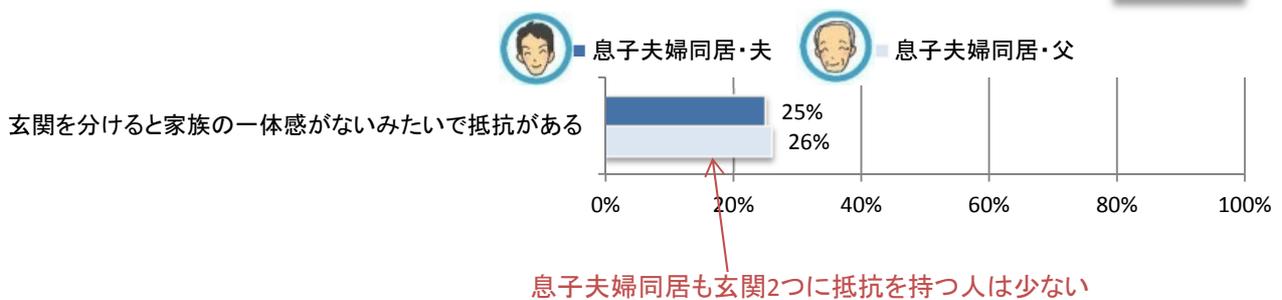
価値観が違っ  
てストレスにな  
るかしたら



同居前  
の不安

- 息子夫婦同居の子世帯妻（嫁）にとって、親世帯との価値観の違いによってストレスがたまるのではないかと大きな不安があります。例えば、玄関ひとつをとってみても、自分の家の玄関だと思うしつらえができるかどうか、玄関に置くもので親世帯に気兼ねをしたくないという気持ちがあります。（訪問調査結果より）
- 玄関といえば、初代の息子夫婦同居DUO(1987)では、家の体面を重視し、オモテ = 玄関を1つで提案をしました。しかし現在、親世帯と子世帯が別々に2つの玄関をもつことに対し「家族の一体感がない」と感じて、抵抗をおぼえる人たちは少数派です。
- 玄関のあり方は、より暮らしを重視して自由に選択されるようになってきました。娘夫婦同居のように苗字が異なっても、玄関1つで「肩身が狭そう」という感覚はほとんどみられません。

◇一般同居検討層の玄関にまつわる意識



同居の不安と住まいにおける配慮：提案例『子世帯専用の玄関』

- 特に息子夫婦同居の場合には、子世帯専用の玄関を設けることを提案します。親世帯と子世帯のしつらえの趣味は異なることが多いため、それぞれが自分の家の玄関と感じられるようしつらえられるようにすることが大切です。



玄関が2か所あれば世帯別に自分の家として好みを表出できる

1) 同居の不安と住まいにおける配慮

息子夫婦同居の妻（嫁）は、寝室・クローゼット、冷蔵庫の中は見られたくない  
「見ないようにしている」母の心遣い

一人になれる場所がないかも・・・



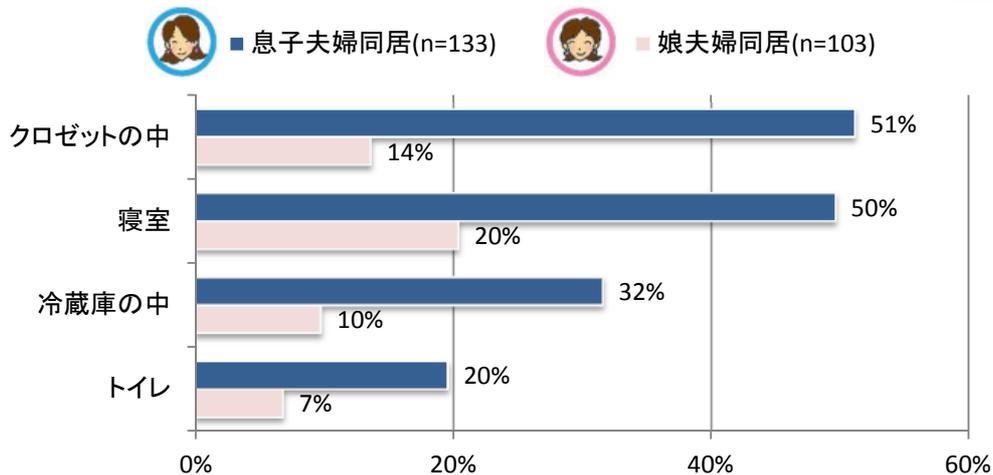
同居前の不安

母に見られたくないところもあるし・・・

- 息子夫婦同居の妻の心配は上位から「嫁姑の関係」87%、「価値観の相違がストレス」87%、「一人になれない」86%です。配偶者をはさんだ家族関係である、嫁と姑の程よい距離感として、これまで「暮らしを離すと気持ちがくっつく」というコンセプトを守って二世帯住宅を提供してきました。
- 程よい距離感のためには、それぞれの世帯の動線計画に配慮し、見られたくないところが見られないようにすることが重要です。子世帯の妻が同居の母にみられたくないところは、息子夫婦同居が圧倒的に多く、クローゼットの中、寝室、冷蔵庫の中がトップ3です。両世帯の共通ゾーンから視線の通らない配置、閉めたい時に閉めることができる配慮が必要とされています。

◇ 同居の母にみられたくない子世帯専用の部屋・設備

ヘーベル



同居の不安と住まいにおける配慮：提案例『孫共育ゾーニング』

- 子世帯のリビングを通らずに、親世帯から一番近い位置に孫の部屋を計画します。そうすることで、子世帯が見られたくないところを見られないようにする / 親世帯が見なくて済むようにし、お互いのストレスを軽減します。



1) 同居の不安と住まいにおける配慮

親世帯に頼む孫の世話の上位は「孫と遊ぶ・見守る」と「食事を用意する・食事をさせる」

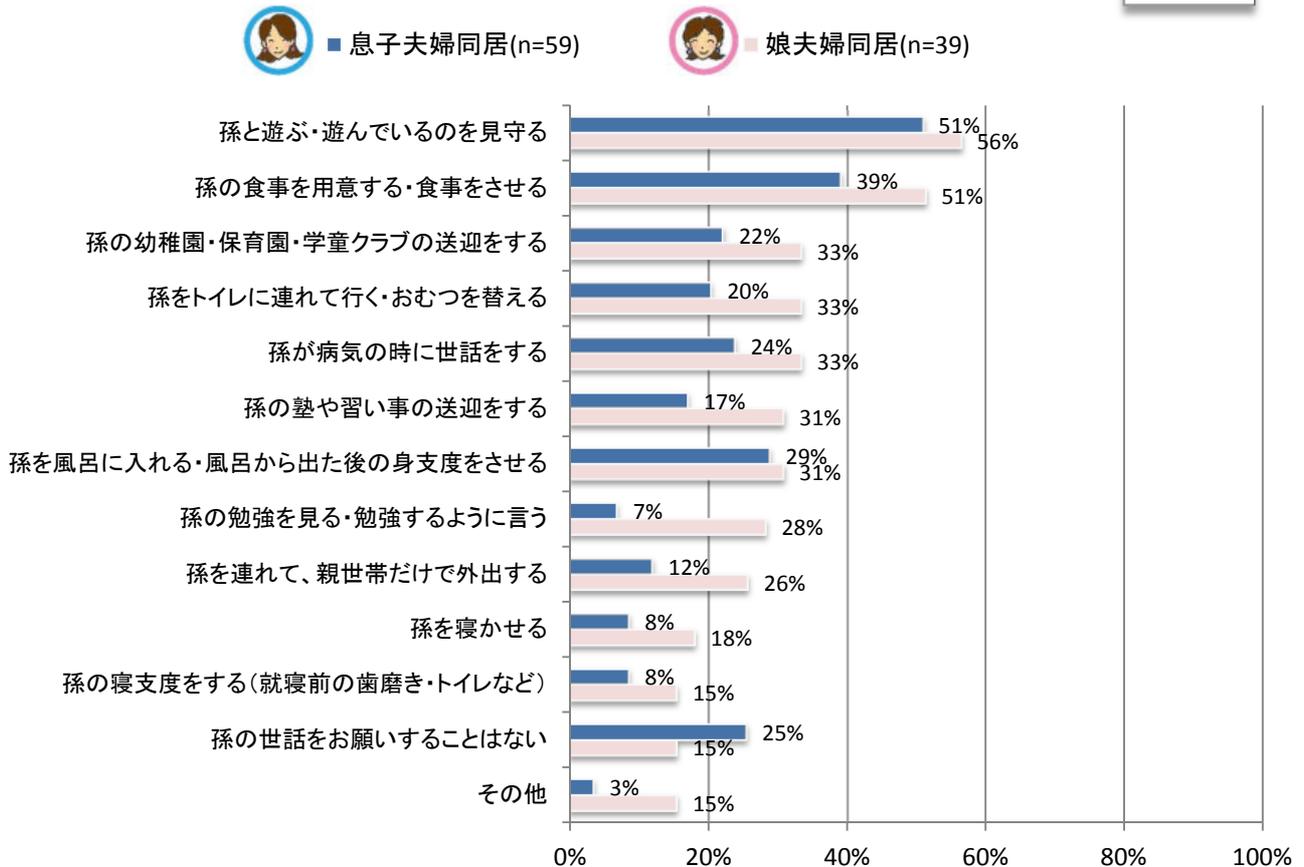
孫の世話をしたいけど  
どれくらい負担かしら



- 同居の父母に頼むことがある孫の世話の1位は、息子夫婦同居、娘夫婦同居を問わず、「孫と遊ぶ・遊んでいるのを見守る」です。次いで「孫の食事を用意する・食事させる」ですが、娘夫婦同居では51%と息子夫婦と比べて多いことがわかります。また息子夫婦同居では、娘夫婦同居と比べて、送迎よりも入浴関係を頼むことが多いようです。

◇ 同居の父母に頼むことがある孫の世話

へーベル

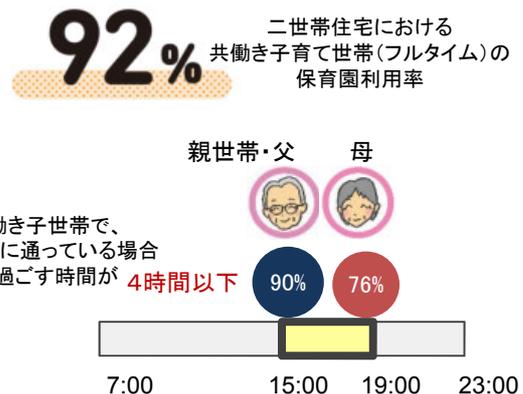


※該当する孫がない場合を除いて割合を算出

column

保育園利用率は高く、親世帯が孫と過ごす「孫ともタイム」は4時間以下が多い

- 2014年にくらしノベーション研究所が実施した「親子間の子育て協力に関するアンケート」では、二世帯住宅に住む子世帯がフルタイムで共働きをしている場合の保育園利用率は92%です。
- また同調査では、平日に保育園に通っている孫と親世帯と一緒に過ごす時間は「4時間以下」という回答が多く、子世帯が帰宅するまで孫と過ごす「孫ともタイム」は親世帯の生活時間の大部分を占めてしまうことは少ない様子もわかります。



1) 同居の不安と住まいにおける配慮

親世帯の母の9割以上が、介護は外部サービスを利用して家族の負担を軽減したい

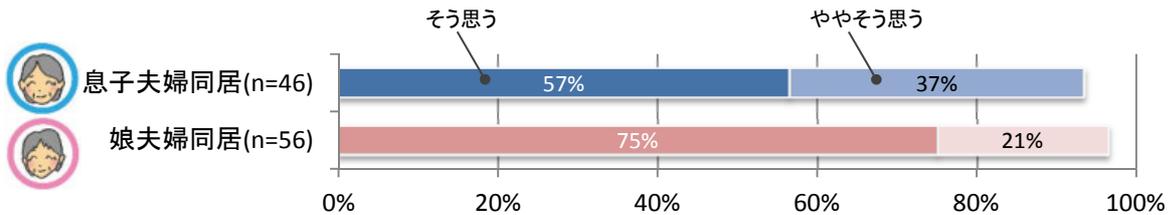
介護の負担  
をかけたくないわ



■ 第1章P19のように、同居前に親世帯は、「子世帯への介護の負担」を最も不安に感じています。だからこそ、同居をしている親世帯の母は、9割以上ができるだけ外部サービスを利用して家族の負担を軽減したいと思っています。

◇ 親世帯の母が介護が必要になった場合の希望  
「訪問介護やデイサービスを利用し、できるだけ家族の負担を軽減したい」

ヘーベル



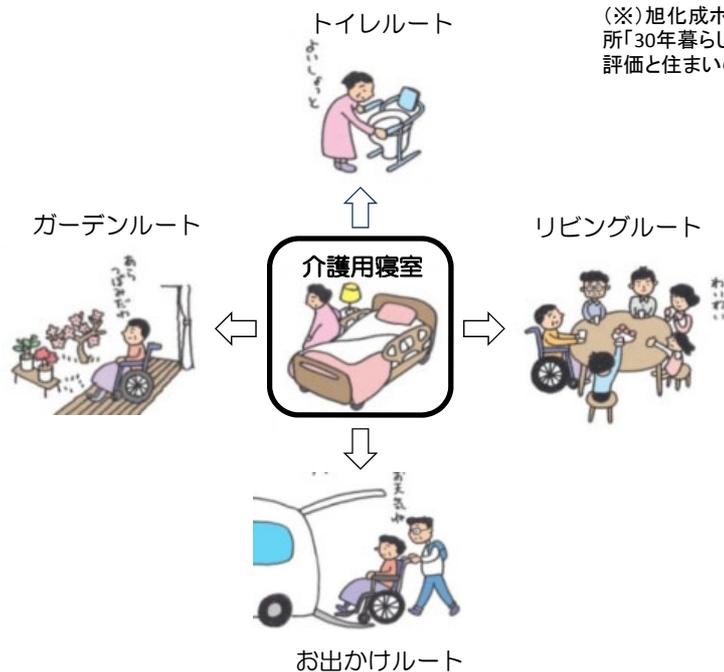
同居の不安と住まいにおける配慮：提案例『4つのルートの確保』

■ 将来、親世帯に介護が必要になった際、子世帯の介護負担を軽減させるために、訪問介護を受け入れたり、デイサービスなどの利用が必要となります。これらが容易にできるプランニングをすることが、親世帯が抱く「子世帯に介護の負担がかかる」不安を軽減させます。

旭化成ホームズが提案する「4つのルート」とは、高齢期における自立した生活と地域に開かれた暮らしを実現するために住宅で確保すべきルートですが、子世帯の介護負担という視点では特に以下の2つのルートの確保が重要になります。

- 1) トイレルート …ひとりでトイレに行けるよう、将来の介護用寝室とトイレを近づけます。
- 2) お出掛けルート…デイサービスに出掛けやすいよう、介護用寝室から道路へ出るまでのルートを確保します。

なお、世帯別にキッチン計画し、LDKを世帯別に計画することは、訪問介護を利用する場合にも、ホームヘルパーが子世帯家族と家の中で鉢合わせすることなく、子世帯の生活リズムを尊重することができるため、訪問介護を受け入れやすく、介護経験者の評価が高いことがわかっています。(※)

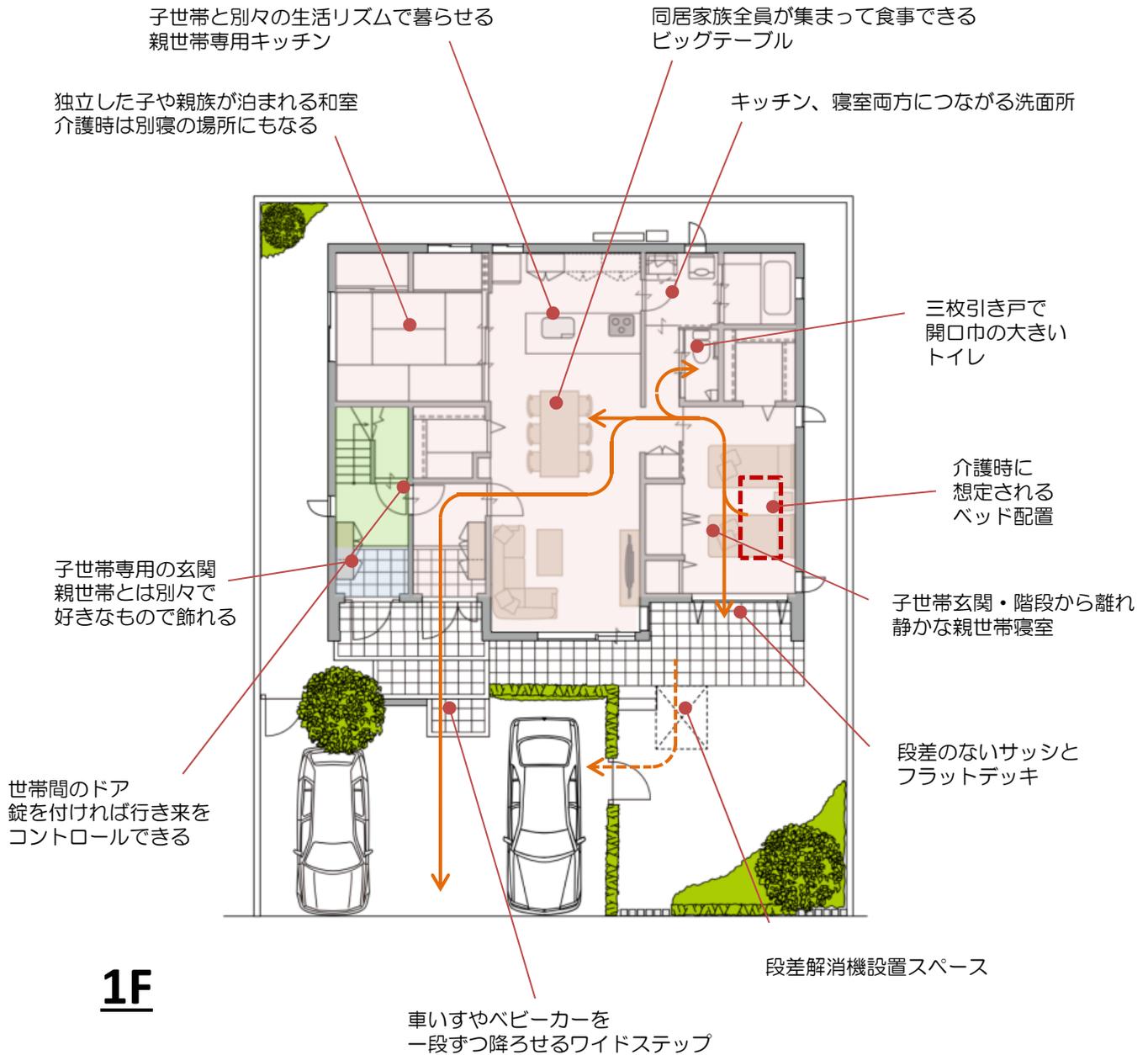


(※)旭化成ホームズ暮らしノベーション研究所「30年暮らした家族による二世帯住宅の評価と住まいの継承の実態」(2015.5)

1) 同居の不安と住まいにおける配慮

二つの世帯の動線に配慮し、適度な交流を生む息子夫婦同居家族のためのプラン提案

プランニング例



1階床面積： 98.26㎡ (29.72坪)  
 2階床面積： 92.81㎡ (28.08坪)  
 R階床面積： 6.08㎡ ( 1.84坪)  
 延べ床面積： 197.15㎡ (59.64坪)  
 敷地面積： 232.50㎡ (70.33坪)

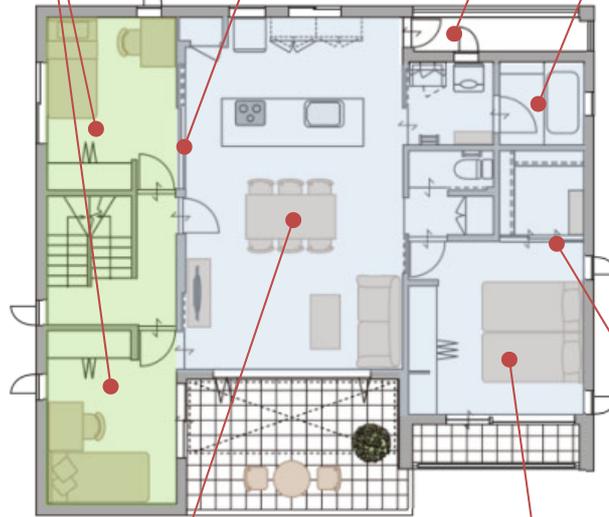
- 親世帯専用
- 子世帯部分で親世帯も入る
- 子世帯専用
- 車いす利用時動線

親世帯から子世帯を通らず  
孫の部屋に行ける孫共育ゾーニング

リサイクル資源や生ごみを  
置けるサービスベランダ

キッチンから  
目が届く子供部屋

子世帯専用の浴室、洗面所  
親世帯水回りの直上にあり、  
排水音が寝室に響かない



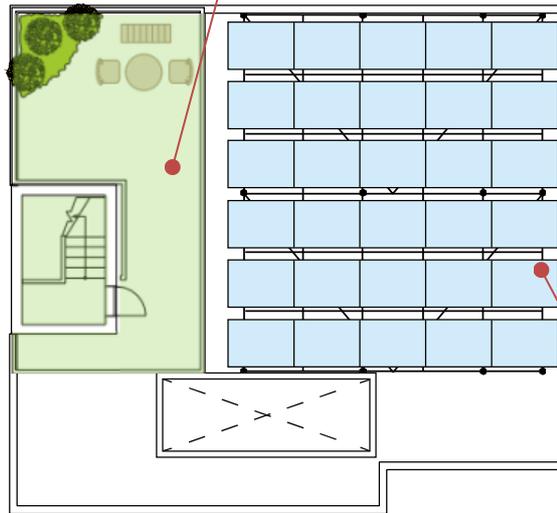
川の字就寝でも  
布団がしまえる  
三枚引戸のWIC

## 2F

子世帯専用の  
ダイニング

最も奥まった位置に  
ある寝室

親世帯から  
子世帯を通らず行ける屋上



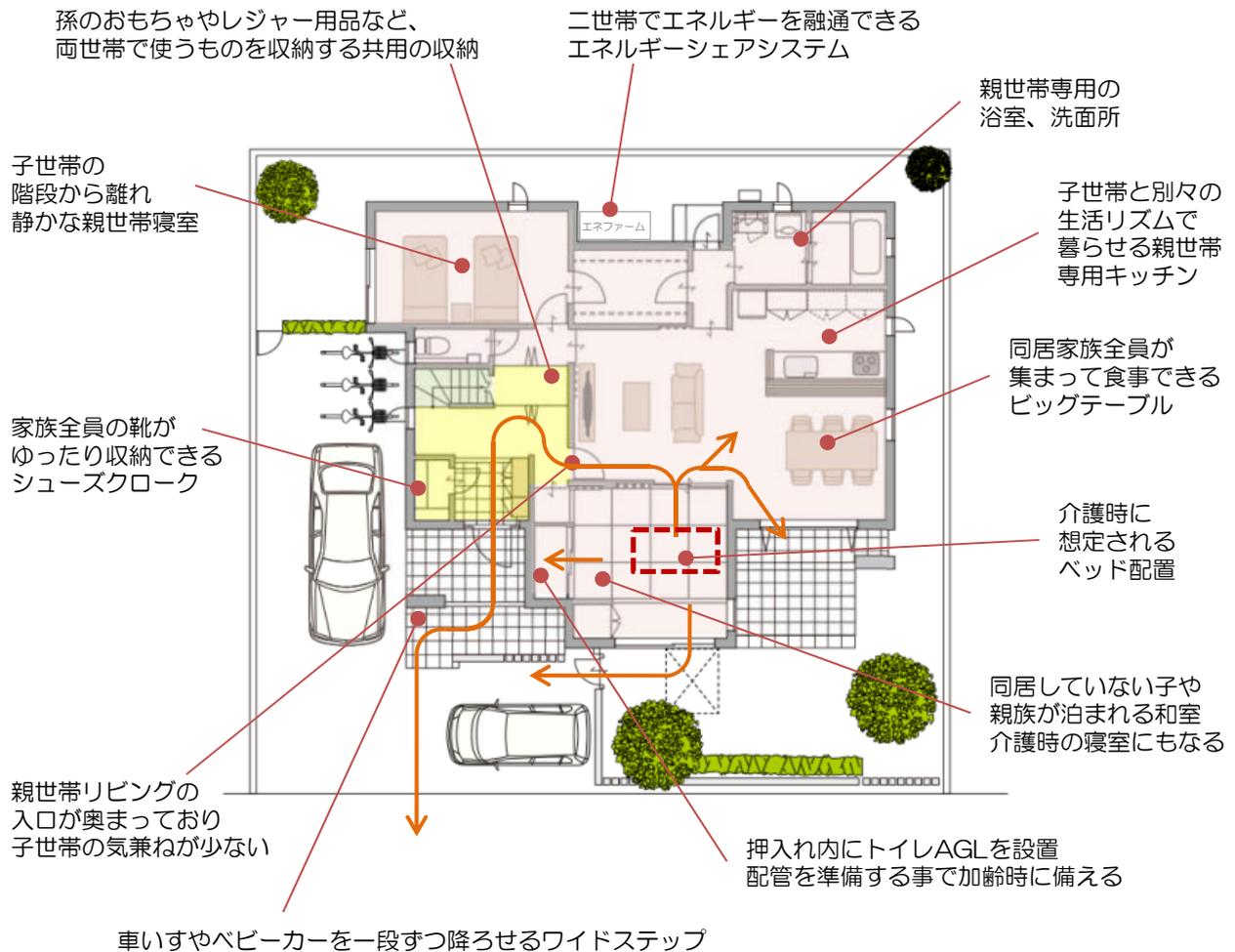
太陽光発電パネルを  
ぎりぎりまで敷ける陸屋根

## RF

1) 同居の不安と住まいにおける配慮

交流を密にしながらも、子世帯専用の空間に配慮する娘夫婦同居家族のためのプラン提案

プランニング例

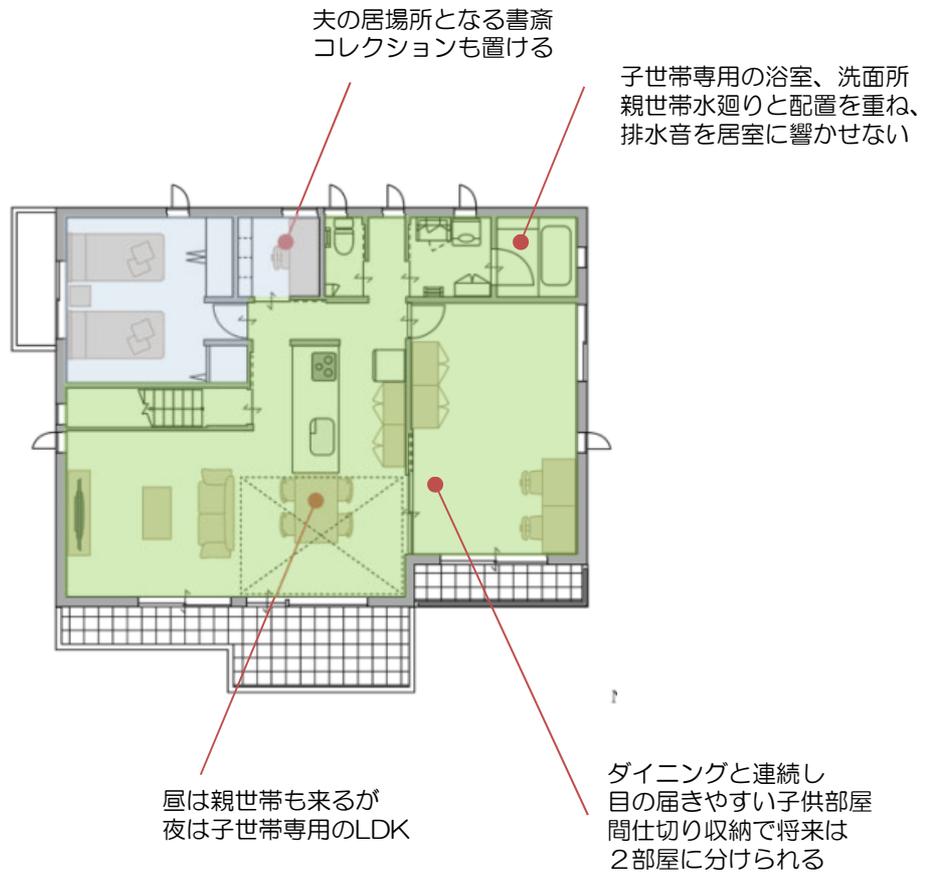


**1F**

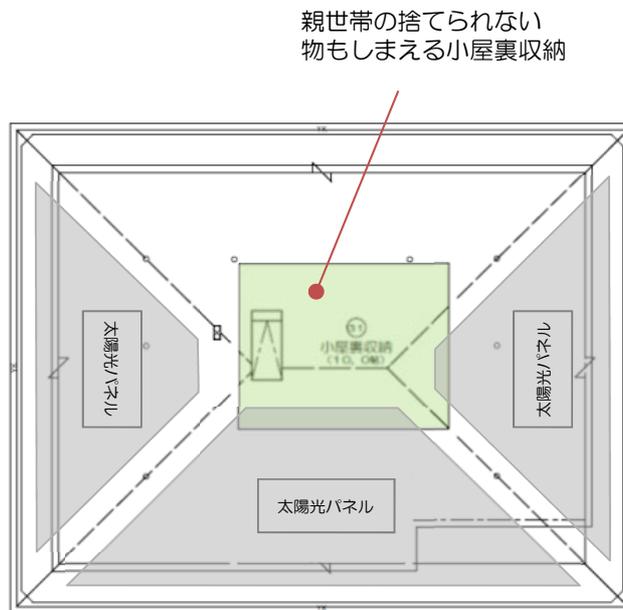
1階床面積	96.36㎡ (29.15坪)
2階床面積	91.36㎡ (27.64坪)
延べ床面積	187.72㎡ (56.79坪)
敷地面積	231.99㎡ (70.18坪)

- 親世帯専用
- 共用
- 子世帯部分で親世帯も入る
- 子世帯専用
- 車いす利用時動線

## 2F



## RF



## 2) 娘夫婦同居にみられる『Wシェア』の実態

### 同居の母に頼む家事 娘夫婦同居の1位は「子世帯の洗濯ものを取り入れる」

- これまで確認された息子夫婦同居・娘夫婦同居の実態の中から、娘夫婦同居に見られる家事協力を元に、両世帯の空間や設備の使い方をみてみましょう。
- 子世帯の同居の母に頼むことがある日常の家事で最も多いのは、娘夫婦同居では「子世帯の洗濯物を取り入れる」76%です。次いで「子世帯または共用分の買い物をする」69%、「外出時の子世帯分の夕食の支度」59%で、日常的な家事から、特別な用事の時に発生する家事までを頼んでいる様子が見えます。
- 一方、息子夫婦同居では、最も多いのは「外出時の子世帯分の夕食の支度」56%で、特別な用事の時に発生します。日常的な洗濯や掃除のようにプライバシーをかなり意識するような家事は、娘夫婦同居と異なり、それほど多くありません。

◇ 子世帯の妻が同居の母に頼むことがある日常の家事

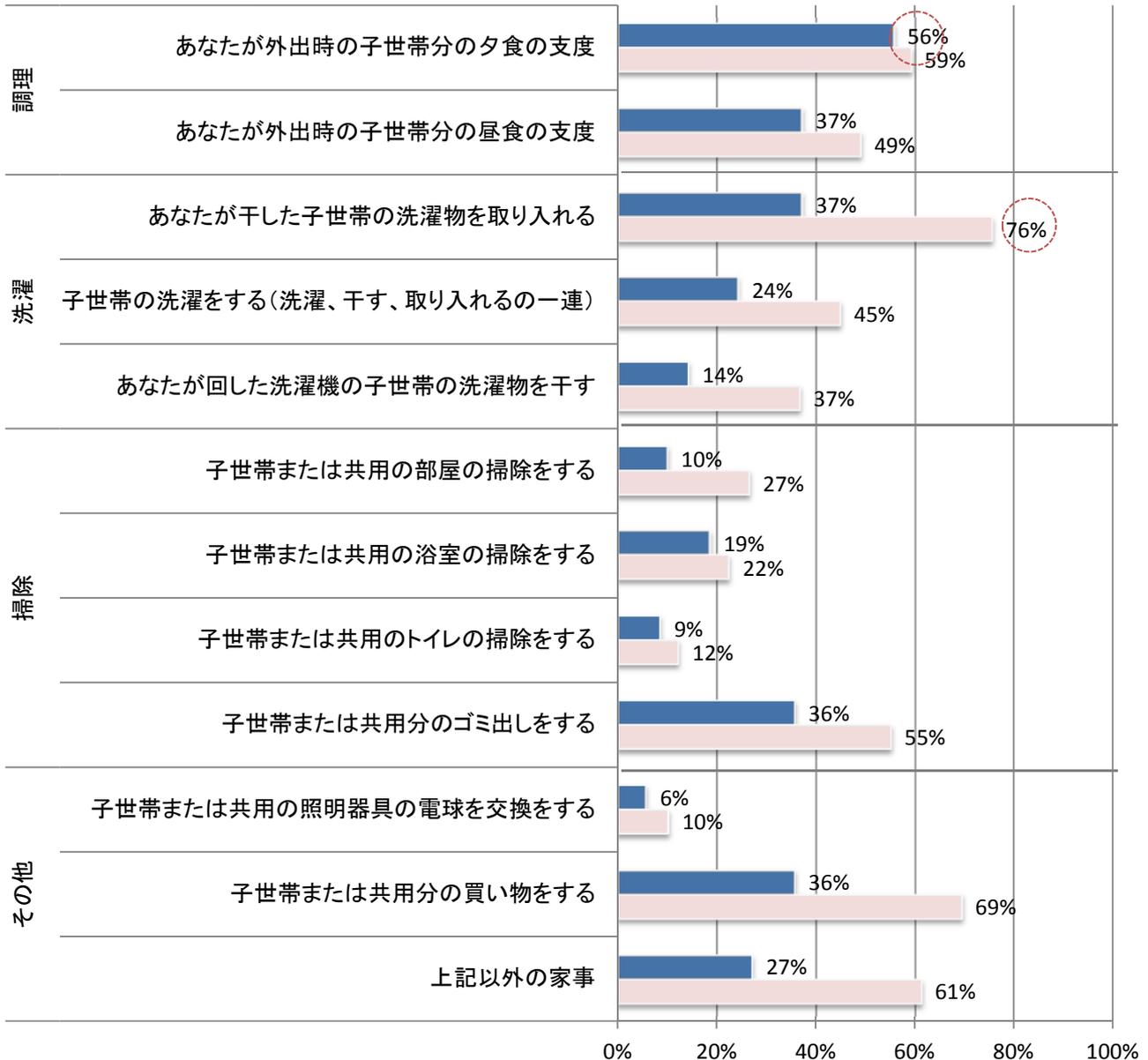
ヘルパー



■ 息子夫婦同居(n=70)



■ 娘夫婦同居(n=48)



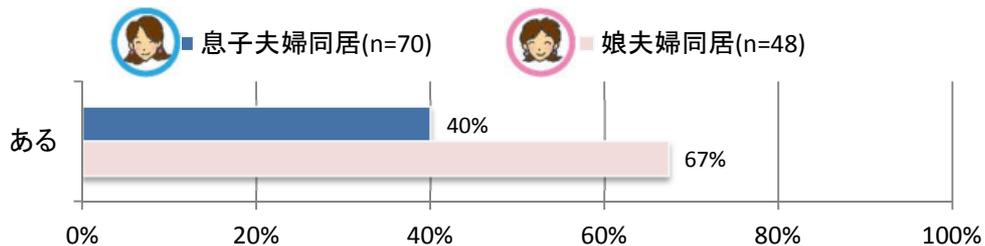
## 2) 娘夫婦同居にみられる『Wシェア』の実態

## 同居の母に教わる料理・一緒に作る料理 67%が「ある」娘夫婦同居

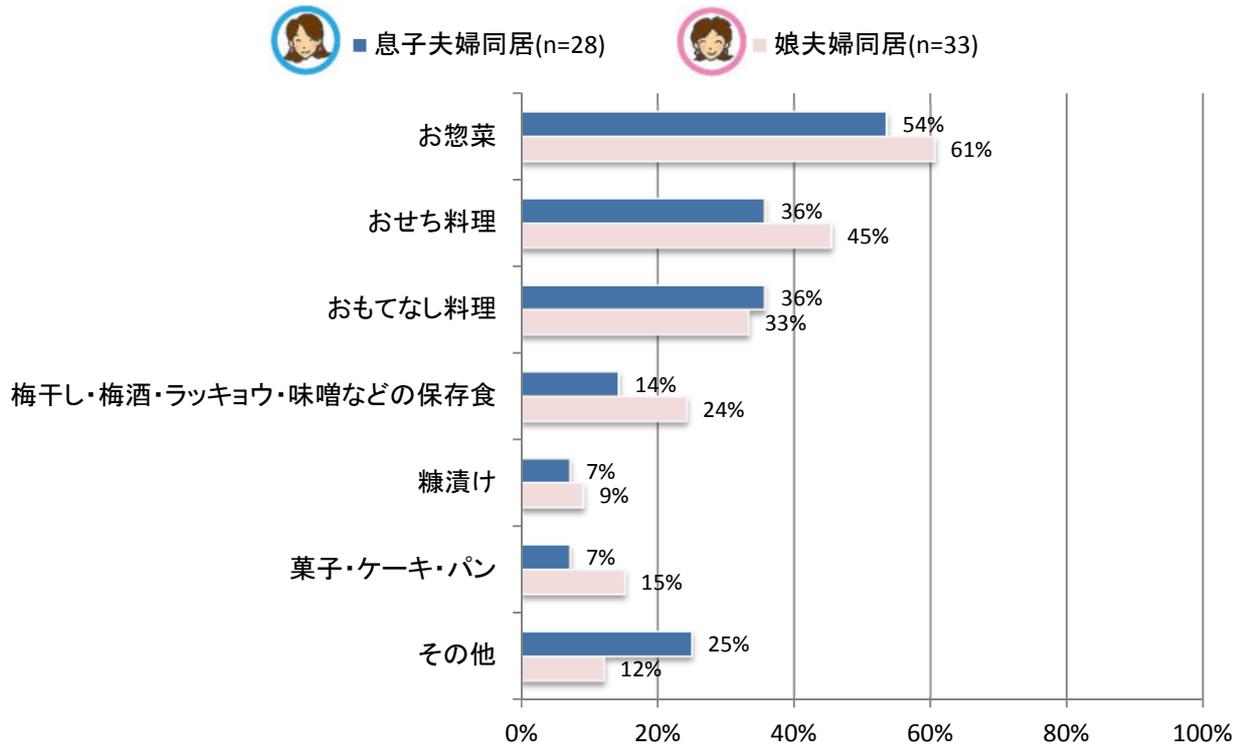
- 日常で大きな比重を占める料理家事から空間シェア＝キッチンシェアを見てみます。同居の母に子世帯の妻が料理を教わる・一緒につくる機会は、娘夫婦同居で67%があり、息子夫婦同居の40%と比べても多い様子が見られます。
- 料理の種類としては、日常の「お惣菜」が娘夫婦同居では61%、次いで「おせち料理」45%です。梅干しなどの保存食も24%が一緒に作って、母の味を受け継いでいることがわかります。

## ◇ 同居の母に教わる料理・一緒に作る料理の有無

ハ－ベル



## ◇ 同居の母に教わる料理・一緒に作る料理の種類



※「ある」と答えた人に対する割合

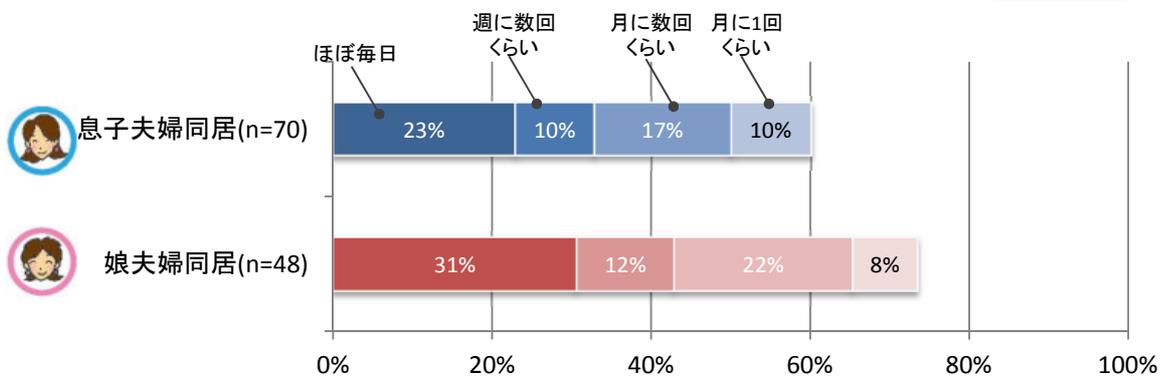
2) 娘夫婦同居にみられる『Wシェア』の実態

親世帯・子世帯間でキッチンを行き来する頻度は、娘夫婦同居で「ほぼ毎日」が3割

- 日常的に交流・協力のある世帯では、キッチンが親世帯と子世帯にそれぞれ専用で設置されている場合でも、両世帯で一緒に食事、作りすぎた料理のおすそ分けなど、キッチンの間を行き来することが生じます。
- 互いのキッチンを行き来する頻度は、娘夫婦同居世帯では30.6%が「ほぼ毎日ある」と回答しています。「週に数回くらい」を合わせると42.8%となり、キッチン間に行き来は暮らしの中で頻繁に起こる家族は多いようです。

◇ 互いのキッチンを行き来する頻度

ハーパー



わが家の場合

親世帯と子世帯のキッチンを行き来するシーン（自由回答より）

娘夫婦同居

- ・ 平日の夕食は、子世帯のキッチンで作った一品料理を持ちよって、親世帯のダイニングでとることが多い。（親世帯のキッチンでは母が主食・主菜等つくっている）子世帯のダイニングの方が広いので、休日やイベントごと、焼き肉などのときは、子世帯のキッチンでメインの料理をつくり、親世帯が一品持ってきて、子世帯のダイニングで夕食をとることもある。
- ・ 親世帯で作ったおかずをお皿に入れて子世帯に少し分けてもらう。
- ・ 普段の日は例えば作り過ぎたおかずなどを親世帯から子世帯に、またその逆もあり、お裾分けで、料理皿を運んだりする。子供の誕生日やイベント、休日などで両世帯一緒に食事の際は、子世帯から親世帯に、子供用の食器、スプーンフォーク、前掛け等を運ぶ。

息子夫婦同居

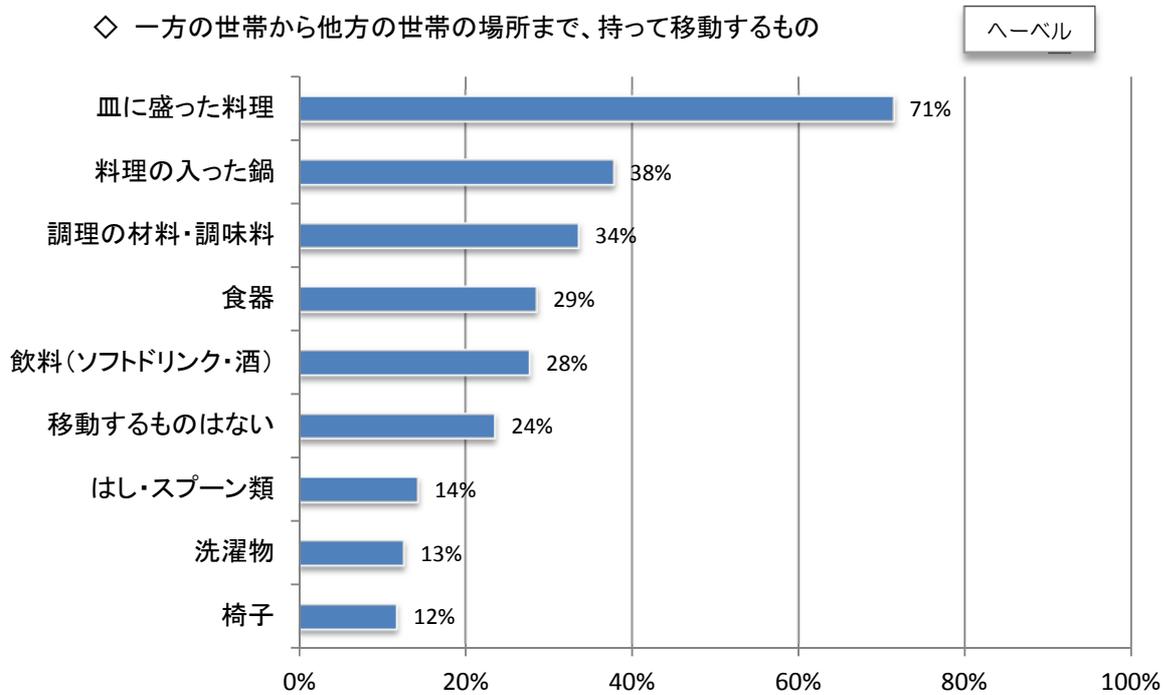
- ・ 家族みんなで親世代のダイニングで食事をするとき、椅子が足りないので1脚持って行きます。母が多めに作った料理を時々、1階のキッチンから2階へ運びます。
- ・ 母の日やお正月などのイベントと一緒に食事をするときに、子世帯で料理を作り、盛り付けをした料理や飲み物、調味料等を親世帯に持って行く。

2) 娘夫婦同居にみられる『Wシェア』の実態

親世帯・子世帯の間で行き来するのは、「皿に盛った料理」「料理の入った鍋」

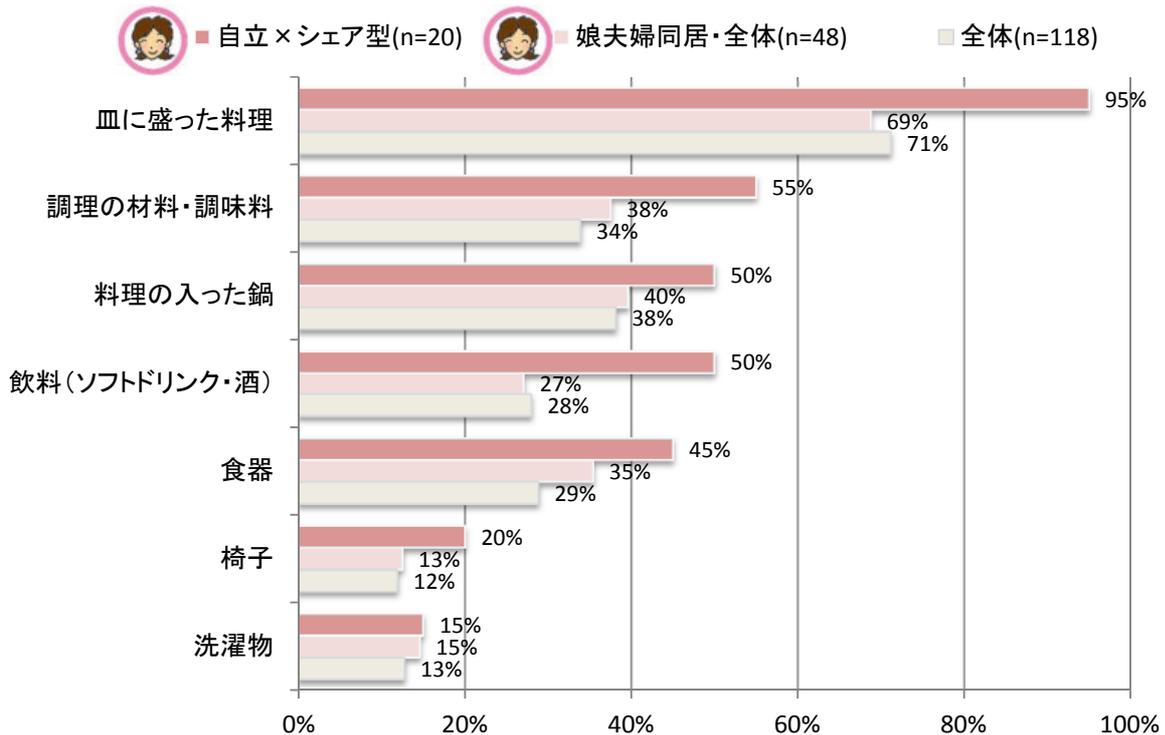
- 一方の世帯から他方の世帯まで持って移動するものとしては、1位は「皿に盛った料理」71%、次いで「料理の入った鍋」38%で、おすそ分けや世帯で一緒に食事のシーンに付随して生じるようです。
- 娘夫婦同居と息子夫婦同居全体では、あまり違いは大きくありませんが、娘夫婦同居のなかでも「自立×シェア型」は、持って移動するものが多く「皿に盛った料理」は95%でした。

◇ 一方の世帯から他方の世帯の場所まで、持って移動するもの



※息子夫婦・娘夫婦の別が不明も含む

◇ 一方の世帯から他方の世帯の場所まで、持って移動するもの：娘夫婦同居のタイプ「自立×シェア型」



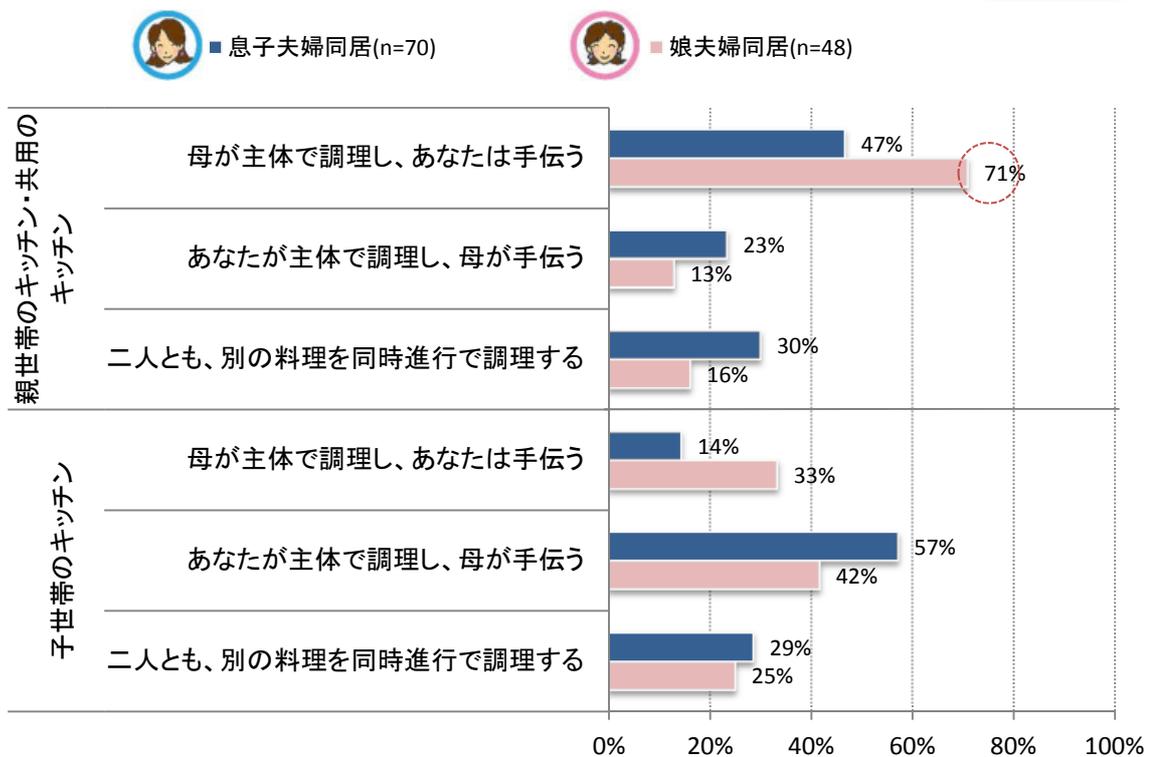
2) 娘夫婦同居にみられる『Wシェア』の実態

同居の母と親世帯・共用のキッチンに立つ娘は、お手伝いスタイルが7割  
 子世帯専用のキッチンは、子世帯の妻が自分流で調理をするために必要

- 両世帯のキッチン間の行き来は頻繁で、共用も特に娘夫婦同居では3割以上ある実態ですが、世帯専用のキッチンが不要というわけではありません。
- 同居の親世帯母と子世帯妻と一緒に調理をする場合、親世帯のキッチン・共用のキッチンでは、「母が主体で調理し、子世帯妻が手伝う」が最も多く、特に娘夫婦同居では71%です。親世帯のキッチンや共用のキッチンでは、母が主体で調理が進むことが主流のため、子世帯妻が自分の流儀で調理をするためには、子世帯専用のキッチンの設置が望まれることになります。

◇ 子世帯の妻と同居の母と一緒に調理をする時のスタイル

へーベル



※一緒に調理をすることがある場合の割合  
 設問中のあなたは、子世帯の妻を指します。

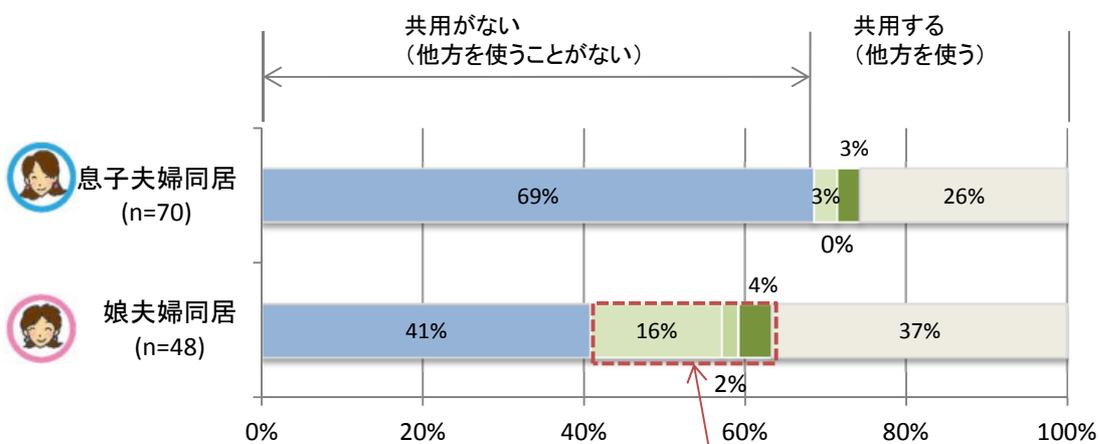
2) 娘夫婦同居にみられる『Wシェア』の実態

娘夫婦同居では2割強が、他世帯の洗濯機を使うことがある

- では、キッチンと同様、住宅内で使用頻度が非常に高い洗濯スペースに関して、洗濯機の共用はどれくらいあるでしょうか。
- 親世帯・子世帯間で、他方の洗濯機を使うことがあるかどうかについてみると、娘夫婦同居では22%が他方の世帯の洗濯機を使うことがわかりました。

ヘーベル

◇ 親世帯・子世帯間での洗濯機の使い方



- それぞれの世帯が別々に持っていて、他方は使わない
- それぞれの世帯が別々に持っているが、必要に応じて他方を使っても構わない
- それぞれの世帯が別々に持っているが、他方も自由に使える
- 家に2つあるがどちらの世帯のものという区別はなく、好きな時に使える
- 家に1つで、両世帯で使っている

洗濯機を各世帯で持っているが、他方も使う割合 22%

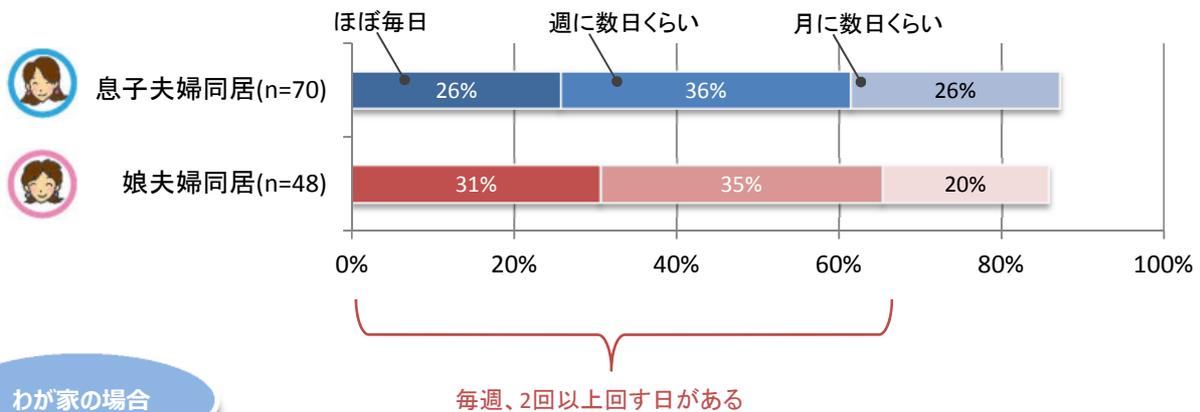
2) 娘夫婦同居にみられる空間シェアの実態

一日に2回以上洗濯機を回すことが毎日あるのは3割、毎週あるのは6割以上

- 前頁では、娘夫婦同居では2割強が、他世帯の洗濯機を使うことがわかりました。しかし、洗濯機を2台、同時に使うというニーズは、もっとあるのではないのでしょうか。
- 一日に2回以上、洗濯機を回して洗濯する頻度は、息子夫婦同居・娘夫婦同居に大きな違いはなく、約3割が「ほぼ毎日」、「週に数日くらい」を合わせると、6割以上が毎週あります。1日に2回以上洗濯機を回すことが定常化していることがわかります。

へーベル

◇ 一日に2回以上、洗濯機を回して洗濯をする頻度



わが家の場合

**一日に2回以上、洗濯機を回すシーン** (自由回答より)

**洗濯物の量が多い・大物を洗う**

- 週末にまとめて洗うため。
- 雨などで洗濯物がたまってしまったとき。
- シーツ・タオルなど大物があるとき。子供がため込んだ洗濯物を一気に持ってきたとき。(怒)
- タオルを大量に洗濯するときは洋服とは分けて洗濯するので、必然的に2回になる。また、シーツなどを洗うときも、2回、回す。
- 週末にシーツなどを洗うとき。季節の変わり目に毛布やタオルケットを洗うとき。バスマット、トイレマットなど普段の洗濯物と分けて洗いたいとき。

**汚れ物を分ける**

- 主人の作業着は外にある洗濯機で洗う。
- 乳児がいるので、吐しゃ物・排泄物がついてしまった洋服類を洗濯する際、2回になることが多い。
- 子どものサッカーユニフォームを洗うとき。

**洗濯物の種類で分ける**

- 朝の洗濯と、保育園の汚れ物の夕方の洗濯。時々、夜におしゃれ着洗いもする。

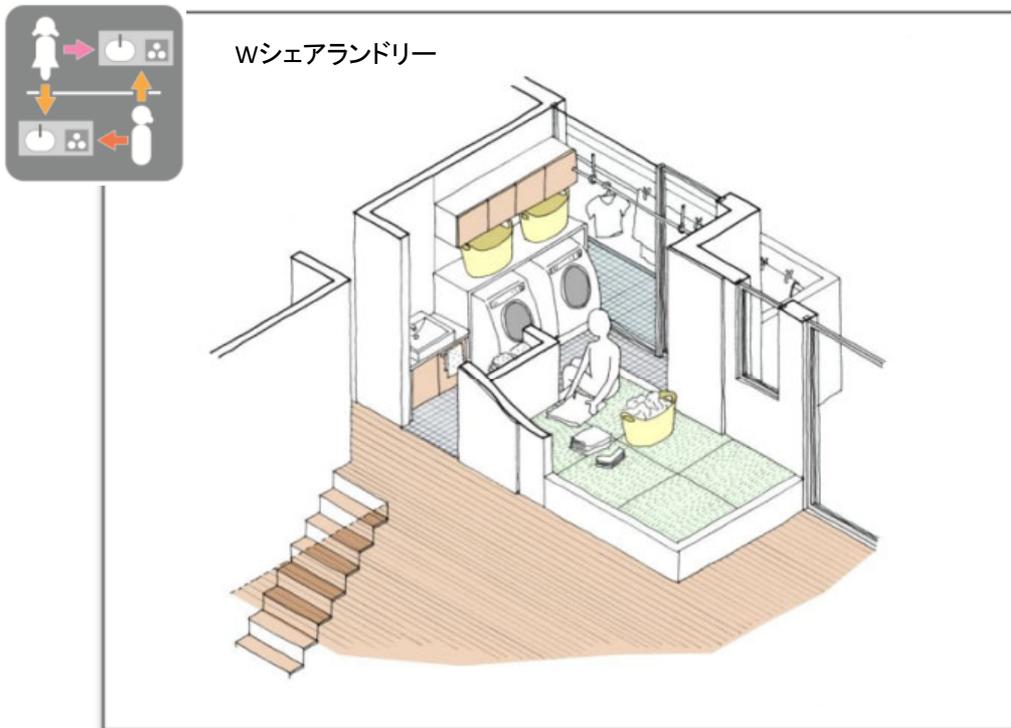
**洗濯物が出る時間帯で分ける**

- 子供が小学生で洗濯物が多い、夫の帰宅時間が不定期で別途回さなくてはならない。
- 夫の帰宅が遅く、子供のものを洗った後に夫の分だけ洗う

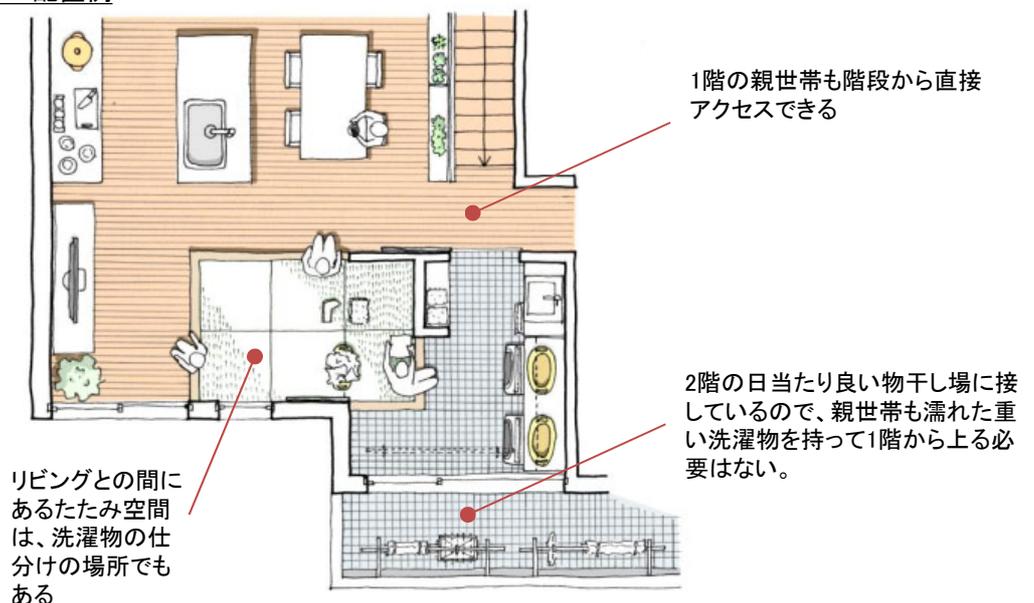
2) 娘夫婦同居にみられる『Wシェア』の実態

新たな空間利用のかたち — Wシェアスタイルのための提案『Wシェアランドリー』—

- ランドリー空間に着目すると、洗濯機を1日に2回以上回す人が多くいるにもかかわらず、建物内にある親世帯用の洗濯機と子世帯用の洗濯機を共用して有効に使っている人は22%でした。
- 『Wシェアランドリー』は、親世帯用の洗濯機と子世帯用の洗濯機を2階のランドリー空間に設置してシェアし、物干し場に接して設けることで、衣家事を効率的にする新たな提案です。特に娘夫婦同居では、「一緒に使う」ことへの抵抗がすくないため、洗濯機を2回回すのではなく、親世帯の洗濯機を借りるという行為が受け入れられていると考えます。
- 親世帯にとっても、2階の日当たりの良い物干し場に洗濯物を干すために、1階の洗濯機で洗って濡れたままの洗濯物を持って1階から2階に上ることを避けることができます。もちろん、両世帯間の家事協力にも便利です。



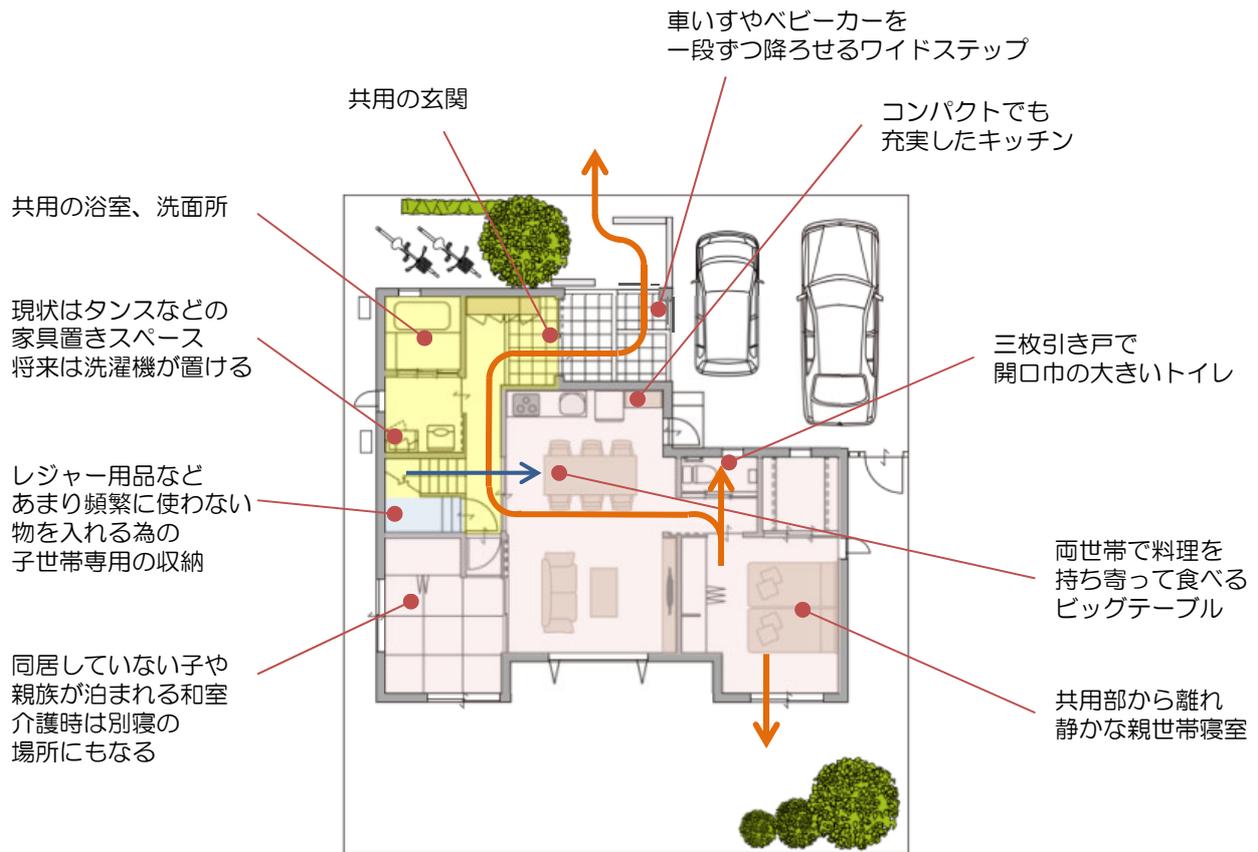
Wシェアランドリー 配置例



2) 娘夫婦同居にみられる空間シェアの実態

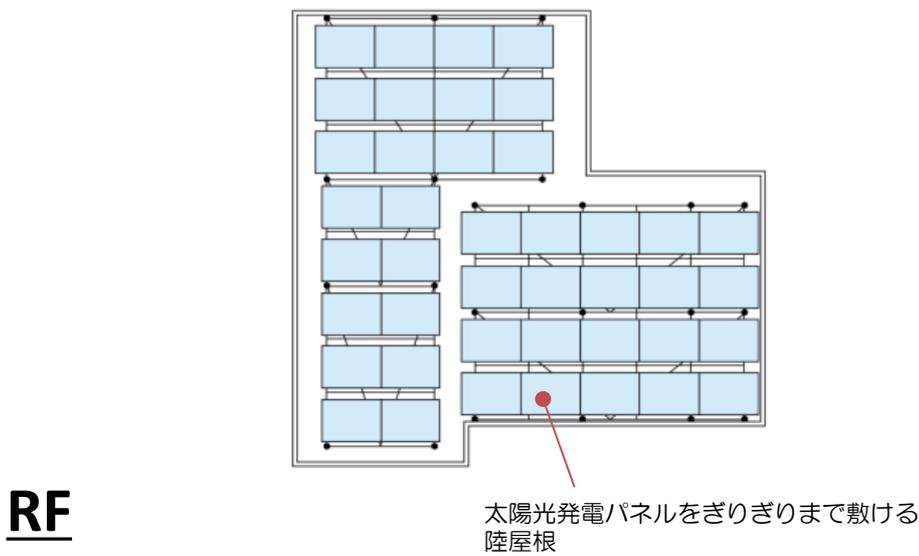
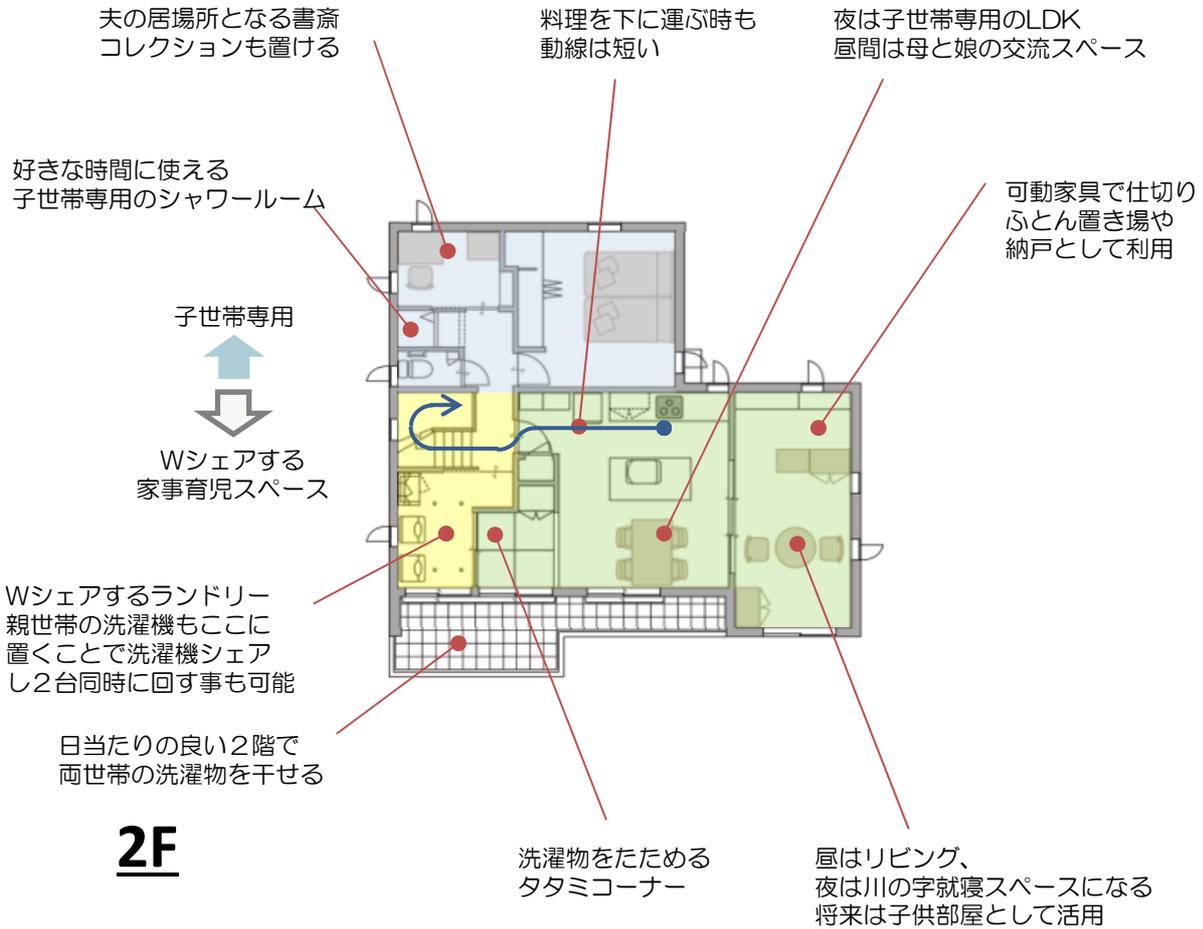
娘夫婦同居家族のためのWシェアスタイルプラン提案

プランニング例



**1F**

-  親世帯専用
-  共用
-  子世帯部分で親世帯も入る
-  子世帯専用
-  車いす利用時動線
-  おなべ持ち寄り動線



調査報告書執筆者

旭化成ホームズ株式会社  
くらしノベーション研究所長  
二世帯住宅研究所長

松本 吉彦

旭化成ホームズ株式会社  
くらしノベーション研究所  
二世帯住宅研究所 主幹研究員

下川 美代子

旭化成ホームズ株式会社  
くらしノベーション研究所  
二世帯住宅研究所 主任研究員

井村 理恵



息子夫婦同居・娘夫婦同居で異なる同居前不安と交流意識  
～同居前不安による同居ブレーキの解消法と同居層・近居層の親子観にみる同居アクセル～

調査報告書

発行： 2015年7月24日  
発行所： 旭化成ホームズ株式会社  
くらしノベーション研究所  
二世帯住宅研究所

〒160-8345 東京都 新宿区 西新宿 1-24-1 エステック情報ビル  
電話 03-3344-7045